

令和3年度  
若者自立支援のための実態把握調査  
報告書

令和4年3月  
青森県

# 目 次

I. 調査の概要	1
II. 調査の結果	
1. 15歳から39歳までの若者（学生を除く）及び その保護者等を対象とした調査【A調査】	5
① 若者本人を対象とした調査	
a. 基礎的な項目（問1～3）	5
b. 日常の生活状況・経緯等（問4～6）	6
c. これまでの仕事・就職活動等の状況、職業・就職に関する考え方（問7～10）	12
d. 日常の活動・交流状況等（問11～15）	17
e. 相談状況（問16～22）	23
f. 意見・要望等（問23）	30
② 保護者を対象とした調査	
a. 基礎的な項目（問1～4）	35
b. 若者本人の生活状況・経緯等（問5～7）	36
c. 若者本人の就職状況（問8～11）	42
d. 若者本人の日常の活動・交流状況等（問12～15）	46
e. 相談状況（問16～23）	49
f. 意見・要望等（問24）	58
2. 県内の相談支援機関を対象とした調査【B調査】	65
a. 相談者の状況	65
b. 相談対応を行う上での課題	75
3. 県内の高等学校を対象とした調査【C調査】	81
a. 不登校・中途退学に至る生徒・家族の状況	81
b. 不登校・中途退学への対応を行う上での課題	82
c. 相談支援機関との連携状況	84
d. 連帯協力が必要とされる相談支援機関	86
e. 生徒を不登校・中途退学させないための対応策	88
f. 生徒の自立支援を行う上での課題、行政への意見・要望等	90
III. 講評・考察	93
若者自立支援へむけて ―希望と孤独―	弘前大学 教授 李 永俊 氏
IV. 調査票（単純集計結果付 ※結果付はA調査のみ）	101

## I. 調査の概要

## 1. 調査目的

「青森県子ども・若者育成支援推進計画」の計画期間が令和4年度で終了することから、次期計画の施策の方向性を検討するに当たって、第一に子ども・若者の現状及び課題の把握が必要だが、文部科学省が調査を行っている不登校やいじめ等を除き、ニートやひきこもり等については、定期的な実態調査が行われておらず、現状が把握できない状況にある。

そこで、計画策定の基礎資料とするため、若者自立支援のための実態把握調査を行う。

なお、平成28年度に実施した前回調査結果との経年変化を比較検討するため、調査対象、調査票項目等については、前回調査を基本とし、新しい分析項目を追加する形で実施した。

## 2. 調査対象・調査方法

### (1) 本人及び保護者等（父母、兄弟姉妹、祖父母等） 【A調査】

#### ① 15歳から39歳までの若者で職に就いていない者（学生を除く）

県内の相談支援機関を通じて調査票配付 計800名（本人400票、保護者等400票）

#### ② 高等学校中退後、概ね2年以内の者

県内の高等学校を通じて調査票配付 計259名（本人130票、保護者等129票）

### (2) 県内の相談支援機関等 【B調査】

公的機関・民間団体のニート、ひきこもり、発達障害、不登校、中途退学に関する相談担当者に対する調査票配付

#### ① 公的機関： 76 機関

雇用分野	14 機関
保健・医療・福祉分野	33 機関
教育分野	15 機関
非行、矯正・更正保護等分野	14 機関

#### ② 民間機関： 22 団体

### (3) 県内の高等学校 【C調査】

不登校、中途退学に関する相談担当者に対する調査票配付

#### ① 県立高等学校： 57 校

#### ② 私立高等学校： 17 校 （計74校）

### 3. 調査項目

#### (1) 本人及びその保護者等 【A調査】

##### ① 若者本人を対象とした調査

- a. 基礎的な項目（性別、年齢層、居住地、同居家族、最終学歴、生計を支えている人）
- b. 仕事・就職活動等の状況、職業・就職に関する考え方
- c. 日常の生活状況・経緯、交友関係等
- d. 相談状況
- e. 意見・要望等

##### ② 保護者等を対象とした調査

- ① 基礎的な項目（本人との関係、性別、年齢層、居住地、同居家族、最終学歴、生計を支えている人）
- ② 若者本人の就職状況
- ③ 若者本人の生活状況・経緯等
- ④ 相談状況
- ⑤ 世帯収入
- ⑥ 意見・要望等

#### (2) 県内の相談支援機関を対象とした調査 【B調査】

- ① 相談窓口における相談件数及び相談内容
- ② 相談を受け付けた際の対応のながれ
- ③ 連携協力している支援機関
- ④ 今後、連携協力が必要とされる支援機関
- ⑤ 相談者の状況
- ⑥ 相談対応を行う上での課題
- ⑦ 広報活動

#### (3) 県内の高等学校を対象とした調査 【C調査】

- ① 不登校・中途退学に至る生徒・家族の状況
- ② 不登校・中途退学への対応を行う上での課題
- ③ 連携協力している支援機関
- ④ 今後、連携協力が必要とされる支援機関
- ⑤ 不登校・中途退学させないための対応策
- ⑥ 生徒の自立支援を行う上での課題、行政への意見・要望等

## 4. 調査時期

令和3年10月中旬～令和3年11月30日

## 5. 回収結果

## (1) 15歳から39歳までの若者（学生を除く）及びその保護者等 【A調査】

## ① 県内の相談支援機関における調査票配布分

若者本人：168人、保護者等 91人

## ② 県内の高等学校を中退後、概ね2年以内の者に対する調査票送付分

若者本人：9人、保護者等 10人

## (2) 県内の相談支援機関 【B調査】

## ① 公的機関： 64 機関

雇用分野	13 機関
保健・医療・福祉分野	26 機関
教育分野	14 機関
非行、矯正・更正保護等分野	11 機関

## ② 民間機関： 8 機関

## (3) 県内の高等学校 【C調査】

## ② 県立高等学校 48 校

## ③ 私立高等学校 13 校 （計 61 校）

※グラフの見方

- ・ 棒グラフは図 1 のように回答数が多い順に選択肢を並び変えて表記している。  
 (ただし、図 2 のように時間的な変化を連続的に見ることに意味がある設問については、そのまま表示している)
- ・ 各グラフの総数は、未記入分を除いた数を表記している。(構成率も総数をもとに算出している)

図 1 横棒グラフの例 (回答数が多い順に並べ替え)

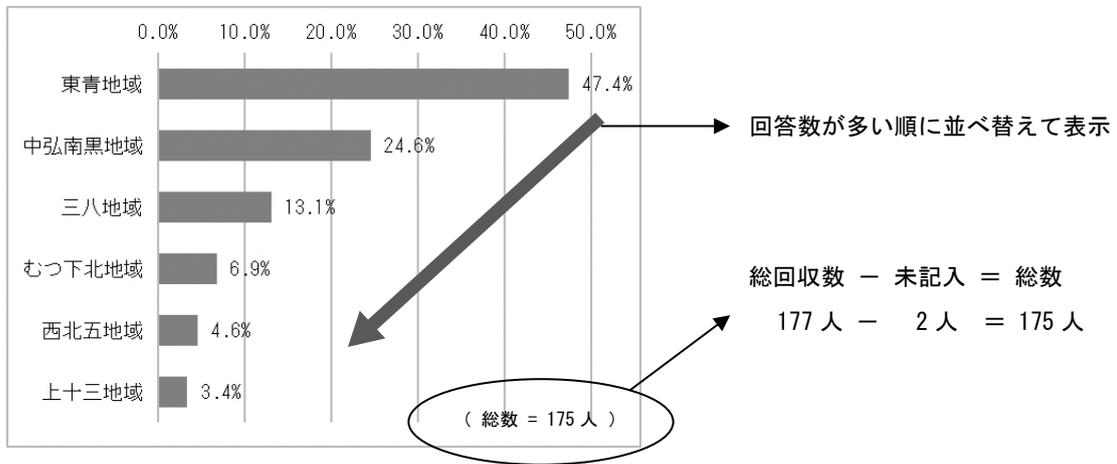
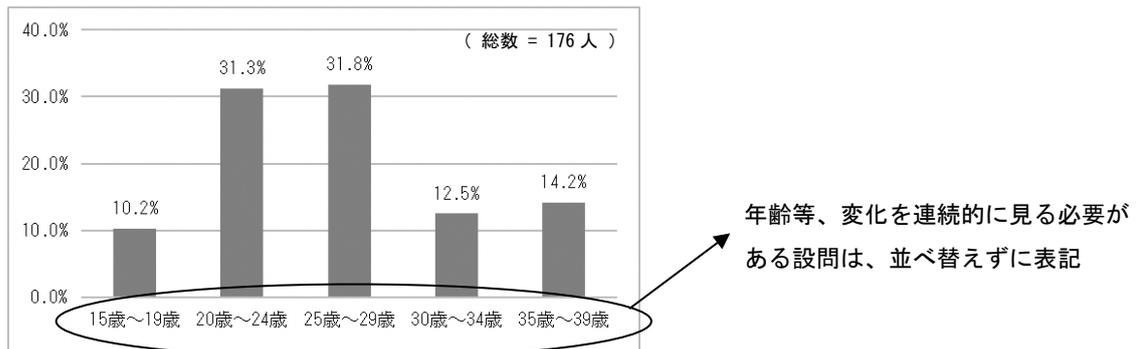


図 2 縦棒グラフの例 (時系列で見る場合)



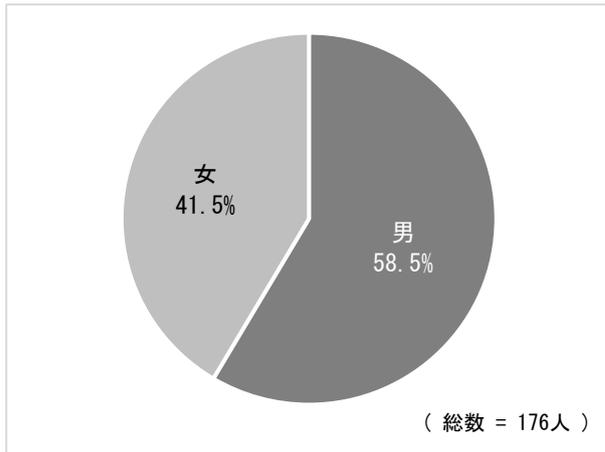
## II. 調査の結果

## 【A調査】

15歳から39歳までの若者（学生を除く）及び  
その保護者等を対象とした調査

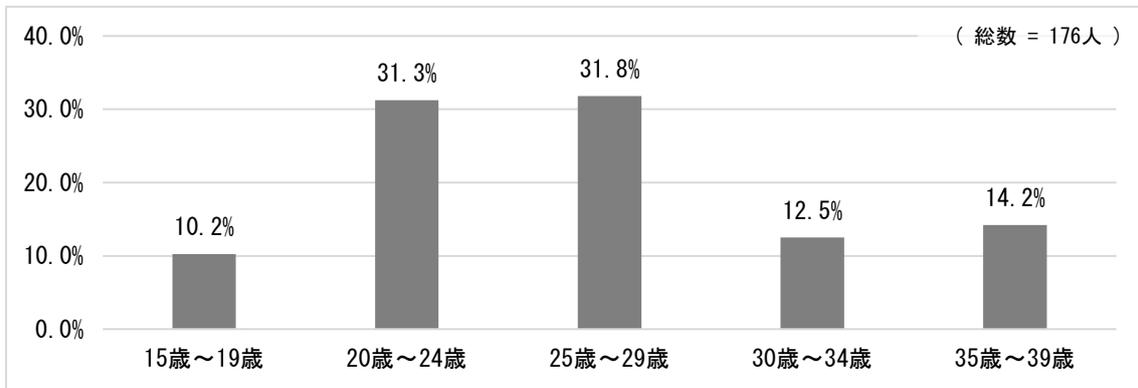
### 1. 若者本人を対象とした調査

問1 あなたの性別をお答えください。



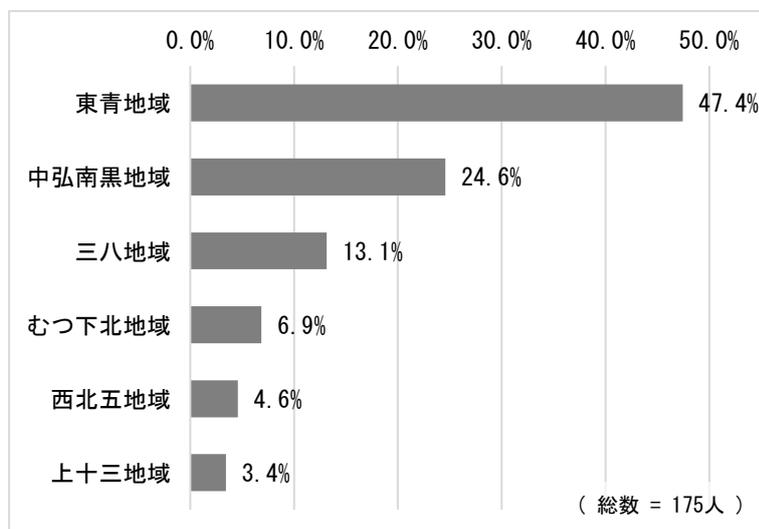
「男性」が58.5%、「女性」が41.5%と、男性が若干多い構成となっている。

問2 あなたの年齢をお答えください。



「25歳～29歳」が31.8%、次いで「20歳～24歳」が31.3%と、20代が全体の62.3%を占めている。「15歳～19歳」が最も低い。

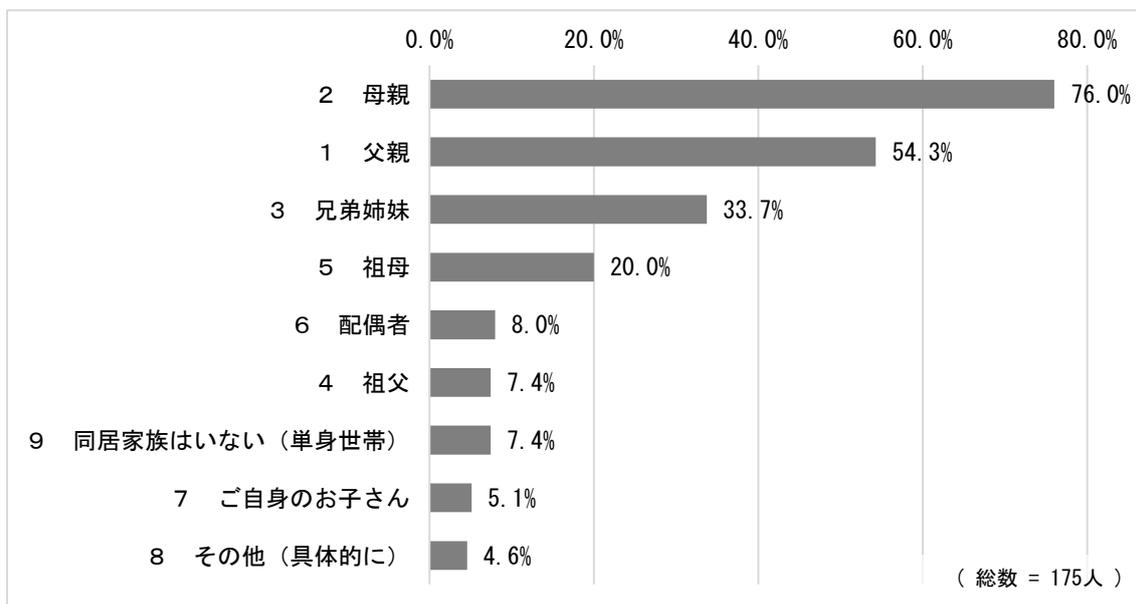
問3 あなたが住んでいる市町村名を記述してください。



「東青地域」が約半数の47.4%を占めており、次いで「中弘南黒地域」が24.6%、「三八地域」が13.1%となっている。

## Ⅱ. 調査の結果 【A調査】若者本人を対象とした調査

問4 現在あなたと同居しているご家族に○をつけてください。(○はいくつでも)

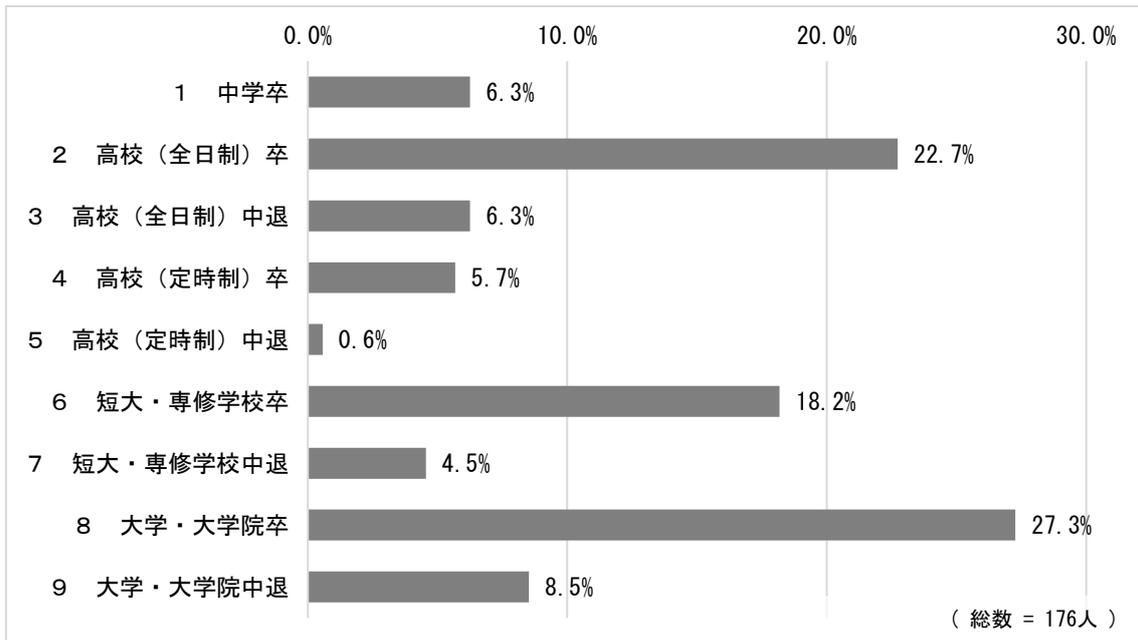


「母親」が76.0%と最も多く、次いで「父親」が54.3%、「兄弟姉妹」が33.7%であった。また、「同居家族はいない(単身世帯)」が7.4%となっており、前回調査(平成28年度)の1.1%と比べて多くなっている。

その他の意見は以下の通り。

- ・ 叔母といとこ
- ・ 主人の友達
- ・ 叔母、姪
- ・ 姪
- ・ 叔母
- ・ 義母、義妹

問5-1 あなたが最後に卒業（中退）した学校はどこですか？

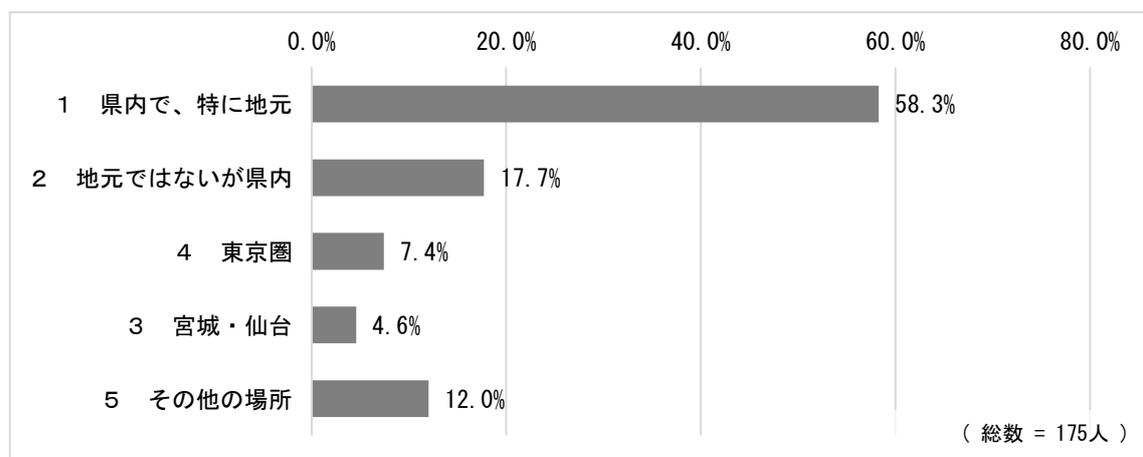


「大学・大学院卒」が27.3%で最も多く、次いで「高校（全日制）卒」が22.7%、「短大・専修学校卒」が18.2%となっている。

最終学歴別の割合は以下の通りであった。

- ・ 中学校卒 6.3%
- ・ 高校卒（中退） 35.3%
- ・ 短大・専修学校卒（中退） 22.7%
- ・ 大学卒（中退） 35.8%

問5-2 その学校はどこにありますか？



「県内で、特に地元」が58.3%、次いで「宮城・仙台」が4.6%という結果となった。

## Ⅱ. 調査の結果 【A調査】若者本人を対象とした調査

問5-3 問5-1で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

①中退したときの学年 及び ②中退した学科 を教えてください。

### ① 中退した時の学年

(総数 = 9人)

	回答数	構成率
1年生	6	66.7%
2年生	3	33.3%
3年生	0	0.0%
合計	9	100.0%

「1年生」が6人、「2年生」が3人という結果となった。

また、「3年生」と答えた人はいなかった。

### ② 中退した学科

(総数 = 8人)

	回答数	構成率
1 普通科	5	62.5%
2 農業科	0	0.0%
3 工業科	1	12.5%
4 商業科	0	0.0%
5 総合学科	1	12.5%
6 その他	1	12.5%
合計	8	100.0%

「普通科」が最も多く5人となった。  
他に、「工業科」「総合学科」「その他」がそれぞれ1人となっている。

問5-4 問5-1で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

あなたが中退した理由はなぜですか。(〇はいくつでも)

(総数 = 9人)

	回答数	構成率
1 勉強がわからなかったから	0	0.0%
2 校則や校風があわなかったから	1	11.1%
3 仲のよい友達が辞めてしまったから	0	0.0%
4 問題行動を起こしたから	0	0.0%
5 第一希望の高校ではなかったから	1	11.1%
6 人間関係がうまくいかなかったから	3	33.3%
7 親に辞めさせられたから	0	0.0%
8 経済的な余裕がなかったから	0	0.0%
9 健康上の理由から	2	22.2%
10 妊娠したから	0	0.0%
11 高校生活以外に興味があることができたから	0	0.0%
12 欠席や欠時がたまって進級できそうにもなかったから	2	22.2%
13 早く経済的に自立したかったから	0	0.0%
14 早く家を出たかったから	0	0.0%
15 その他(具体的に)	4	44.4%

本人(中退経験者)を対象とした調査において、問5-1の設問で「高校(全日制中退)」または「高校(定時制)中退」と答えた方を対象に中退した理由を聞いたところ、「人間関係がうまくいかなかったから」が3人と最も多い。次いで「健康上の理由から」「欠席や欠時がたまって進級できそうにもなかったから」がそれぞれ2人となっている。

「その他」の意見については以下の通り。

- ・ 中学の先生が考えられない態度をとり、そこから学校に不信感を持つようになった
- ・ 体調が優れなかったから
- ・ つまらなかった
- ・ 親との関係の悪化による体調不良

## Ⅱ. 調査の結果 【A調査】若者本人を対象とした調査

問5-5 問5-1で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。  
あなたが中退をすることについて誰に相談しましたか。(〇はいくつでも)

(総数 = 9人)

	回答数	構成率
1 親	9	100.0%
2 兄弟姉妹	1	11.1%
3 中退をした学校の先生	3	33.3%
4 小中学校の先生	0	0.0%
5 中退をした学校の友人	3	33.3%
6 5以外の友人	3	33.3%
7 先輩	0	0.0%
8 中退経験のある人	0	0.0%
9 地域若者サポートステーションなど相談機関の職員	0	0.0%
10 インターネットで交流のある人	1	11.1%
11 その他	0	0.0%

本人(中退経験者)を対象とした調査において、問5-1の設問で「高校(全日制中退)」または「高校(定時制)中退」と答えた方を対象に中退することについて誰かに相談したか聞いたところ、中退を考えた全ての人が中退することについて「親」に相談している。

また、「中退をした学校の先生」「中退をした学校の友人」「中退をした学校以外の友人」に相談した方もそれぞれ3人となっている。

問5-6 問5-1で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

あなたが中退をするにあたって、また中退後に、今後の自分の進路を考えたり、日常生活を行っていくうえで、どのような情報を知っていたらよかったですか。

(〇はひとつだけ)

(総数 = 9人)

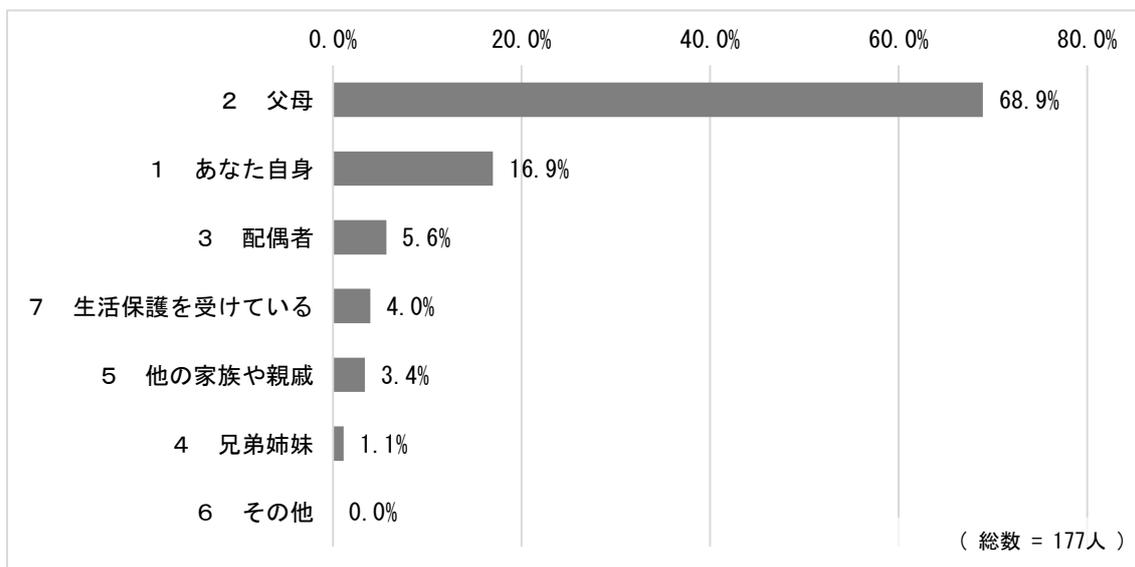
	回答数	構成率
1 今後の進路について悩んだ時に相談する方法	2	22.2%
2 他の高校に転入学する方法	0	0.0%
3 学力向上について悩んだ時に相談する方法	0	0.0%
4 高等学校卒業程度認定試験(高卒認定試験)を受ける方法	2	22.2%
5 仕事で困った時に相談する方法	0	0.0%
6 生活で困った時に相談する方法	0	0.0%
7 精神的に不安定になった時に相談する方法	2	22.2%
8 職業に必要な技能を得るときに、職業訓練を受ける方法	0	0.0%
9 雇用保険(失業による生活不安に対して、現金を給付する制度)	0	0.0%
10 奨学金・高校授業料無償などの進学支援制度	0	0.0%
11 その他	0	0.0%
12 特に必要ない	3	33.3%
合計	9	100.0%

本人(中退経験者)を対象とした調査において、問5-1の設問で「高校(全日制中退)」または「高校(定時制)中退」と答えた方を対象に今後の自分の進路を考えたり、日常生活を行っていくうえで、どのような情報を知っていたらよかったですか聞いたところ、「特に必要ない」が3人でもっとも多い結果となった。

「今後の進路について悩んだ時に相談する方法」、「高等学校卒業程度認定試験(高卒認定試験)を受ける方法」、「精神的に不安定になった時に相談する方法」がそれぞれ2人となっている。

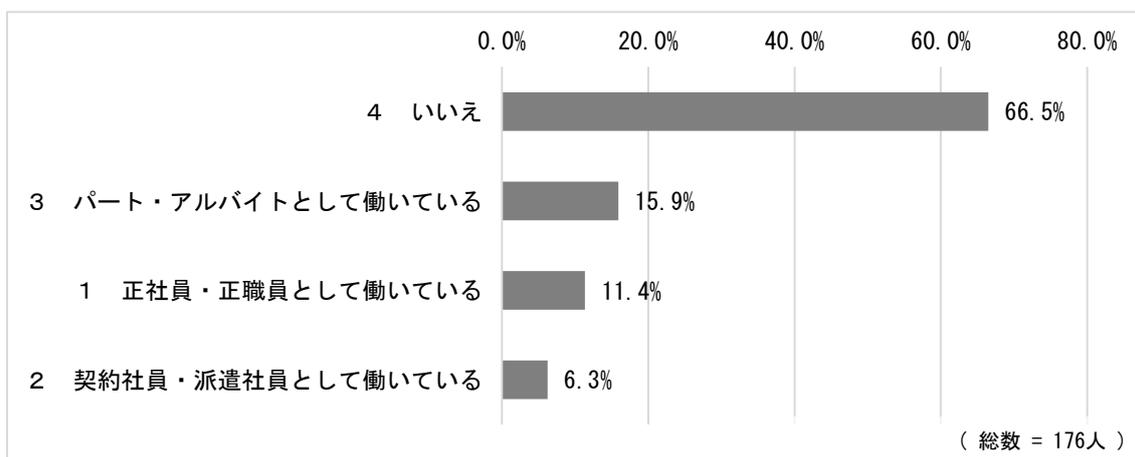
## Ⅱ. 調査の結果 【A調査】若者本人を対象とした調査

問6 現在、あなたの生計を支えているのはどなたですか。生計を支えている方が複数いる場合は、もっとも多く負担している人をお答えください。(〇はひとつだけ)



「父母」が68.9%と最も高く、生計を親に頼っている状況が明らかになった。一方、「あなた自身」の割合は16.9%で、前回調査(平成28年度)の10.3%と比べて若干増加している。

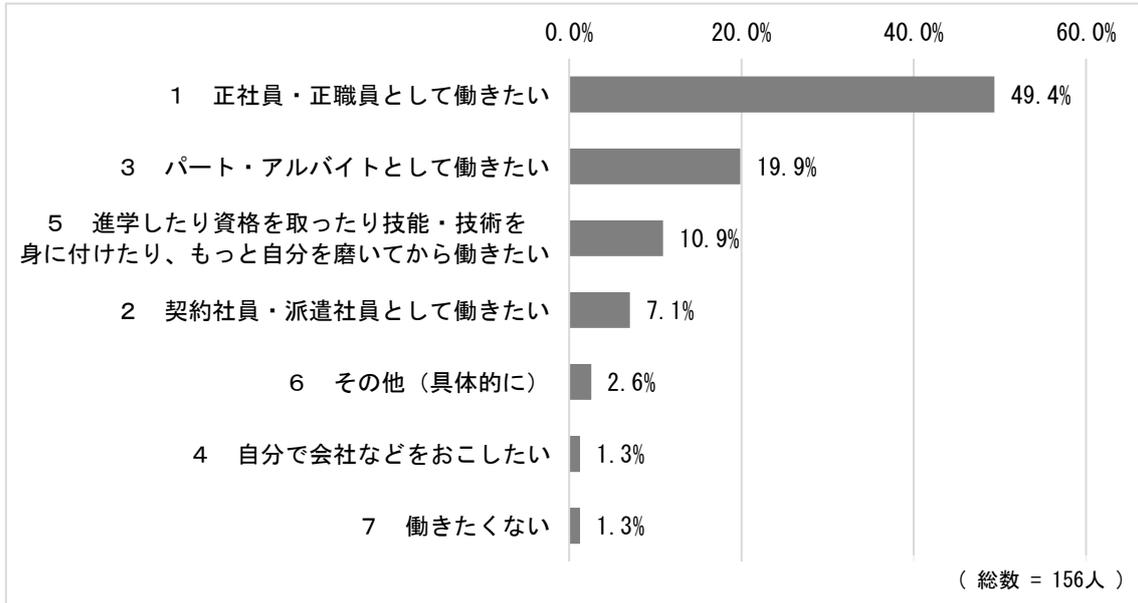
問7 あなたはいま、仕事に就いていますか。



現在、働いているか聞いたところ、「いいえ」が66.5%という結果となった。(逆に働いている方が33.5%)

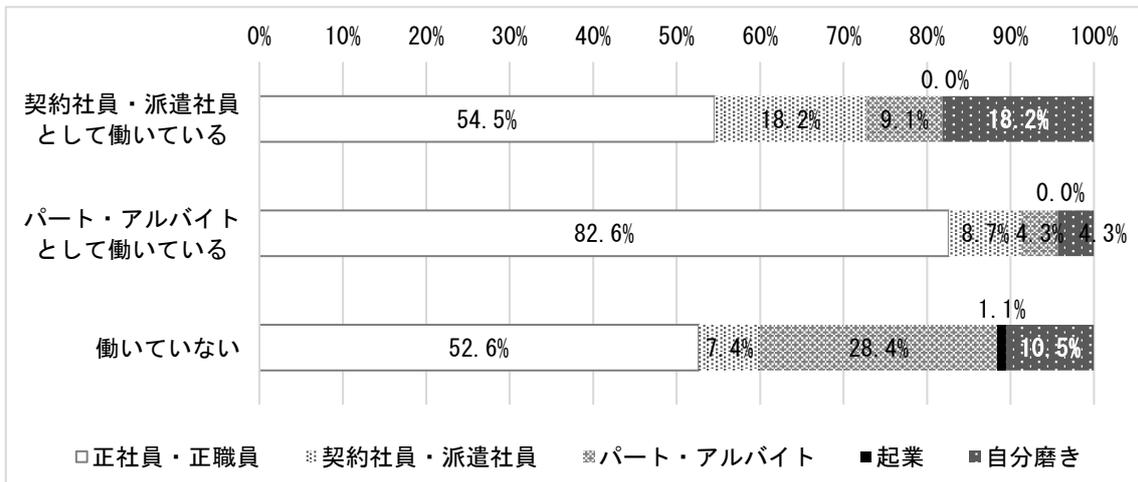
「正社員・正職員として働いている」方は全体の約1割にとどまっている状況にある。

問8 問7で「2 契約社員・派遣社員として働いている」「3 パート・アルバイトとして働いている」または「4 いいえ」と回答した方にお聞きします。  
あなたは、今後の自分の進路についてどのように考えていますか。(〇はひとつだけ)



現在、「正社員・正職員として働いている」以外の方を対象に、今後の進路の希望を聞いたところ、「正社員・正職員として働きたい」と答えた人が49.4%と過半数を占めている。

現在の就労状態と今後の進路との関係を分析（クロス集計）した結果を以下に示す。



現在「パート・アルバイトとして働いている」方の82.6%が「正社員・正職員」になりたいと考えている一方で、現在「働いていない」方は、短時間から始められる「パート・アルバイト」を希望する割合が高いことが明らかになった。

## Ⅱ. 調査の結果 【A調査】若者本人を対象とした調査

また、「進学したり資格をとったり技能・技術を身に付けたり、もっと自分を磨いてから働きたい」という能力向上に対するニーズが最も高いのは「契約社員・派遣社員として働いている」方であることが分かった。

その他の意見は以下の通り。

- ・ ゲームの世界で働いてみたい (e-sports) など
- ・ フリーのイラストレーター
- ・ まだよく分からない
- ・ 正社員として働きたいと思っていたが、非正規雇用でもいいのかなと迷いが生じている。青森市で働きたいが将来が見えない、企業の全体像がつかめない、収入面での不安もある

問9 問8で「7 働きたくない」と回答した方にお聞きします。  
その理由を教えてください。(〇はいくつでも)

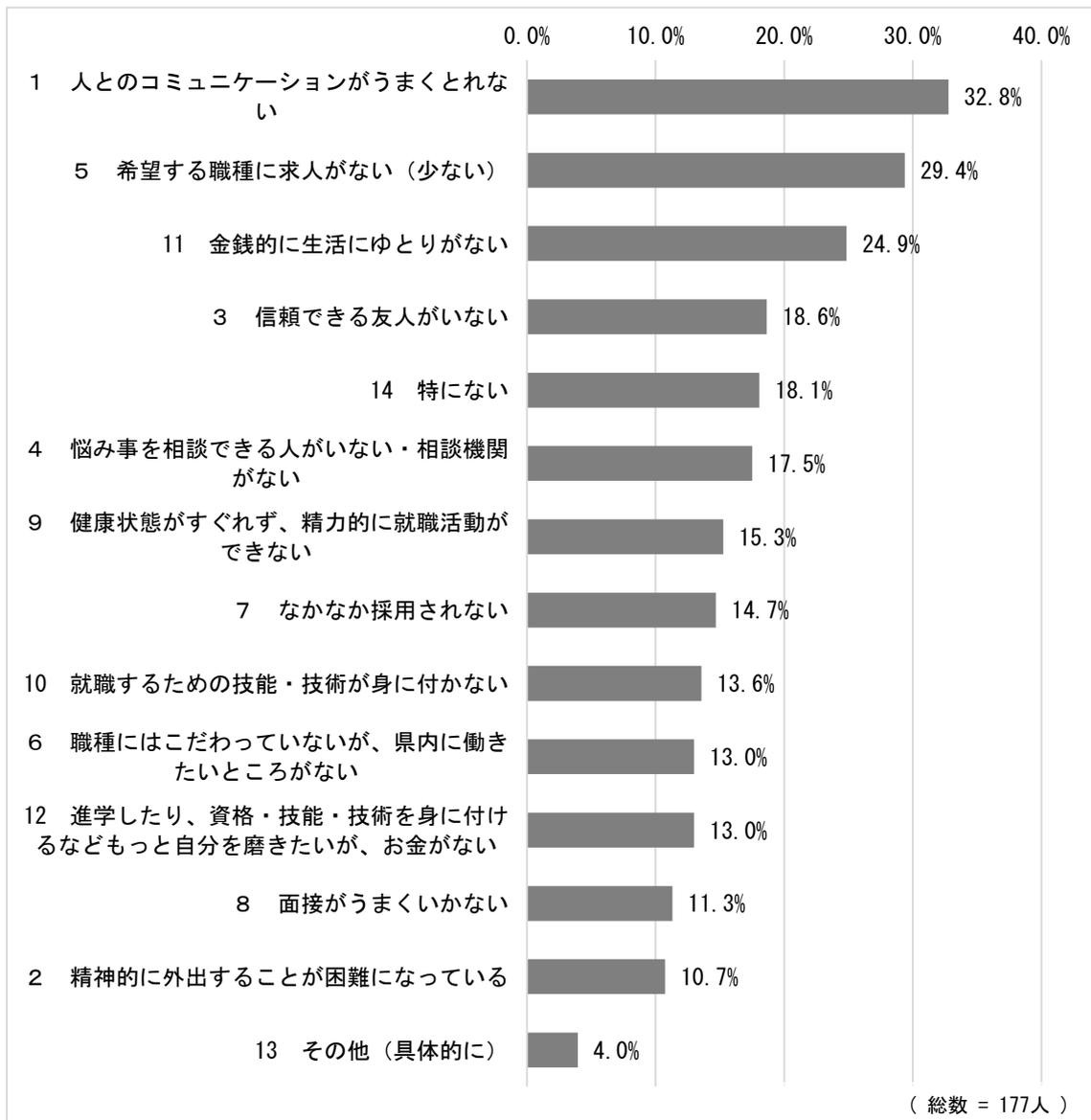
(総数 = 2人)

	回答数	構成率
1 健康上の理由があるから	0	0.0%
2 なかなか仕事が決まらず、もう就職活動をしたくないから	2	100.0%
3 将来、やりたいことが見つからないから	2	100.0%
4 何もしたくないから	2	100.0%
5 もっと遊びたいから	1	50.0%
6 家族や親族からの援助があり働かなくても生活していけるから	0	0.0%
7 生活保護を受けており働かなくても生活していけるから	0	0.0%
8 働かなければならない理由が見つからないから	1	50.0%
9 その他	0	0.0%

問8の設問において「働きたくない」と回答した方を対象に、その理由を聞いたところ、全員が「なかなか仕事が決まらず、もう就職活動をしたくないから」「将来、やりたいことが見つからないから」「何もしたくないから」と答えている。

また、「もっと遊びたいから」「働かなければならない理由が見つからないから」が1人となっている。

問10 いま、あなたが日常生活や就職活動に関して、悩んだり困っていることはありますか。また、それはどんなことですか。(〇はいくつでも)



「人とのコミュニケーションがうまくとれない」が最も多く32.8%、次いで「希望する職種に求人がない(少ない)」が29.4%、「金銭的に生活にゆとりがない」が24.9%となっている。

また、日常生活や就職活動に関して、悩んだり困っていることについて、現在の就業状態(働いている/働いていない)によって結果に違いがあるか分析(クロス集計)した結果を以下に示す。

Ⅱ. 調査の結果 【A調査】若者本人を対象とした調査

(就業状態別) 日常生活や就職活動に関して、悩んだり困っていること	①働いていない	②働いている	全体(参考値)	差異 ①-②
1 人とのコミュニケーションがうまくとれない	40.3%	17.5%	32.8%	22.8%
2 精神的に外出することが困難になっている	12.6%	7.0%	10.7%	5.6%
3 信頼できる友人がいない	22.7%	10.5%	18.6%	12.2%
4 悩み事を相談できる人がいない・相談機関がない	21.8%	8.8%	17.5%	13.0%
5 希望する職種に求人がない(少ない)	35.3%	17.5%	29.4%	17.8%
6 職種にはこだわっていないが、県内に働きたいところがない	15.1%	8.8%	13.0%	6.3%
7 なかなか採用されない	16.8%	10.5%	14.7%	6.3%
8 面接がうまくいかない	12.6%	8.8%	11.3%	3.8%
9 健康状態がすぐれず、精力的に就職活動ができない	18.5%	8.8%	15.3%	9.7%
10 就職するための技能・技術が身に付かない	16.0%	8.8%	13.6%	7.2%
11 金銭的に生活にゆとりがない	21.0%	33.3%	24.9%	-12.3%
12 進学したり、資格・技能・技術を身に付けるなど もっと自分を磨きたいが、お金がない	12.6%	14.0%	13.0%	-1.4%
13 その他(具体的に)	3.4%	5.3%	4.0%	-1.9%
14 特にない	10.9%	31.6%	18.1%	-20.7%

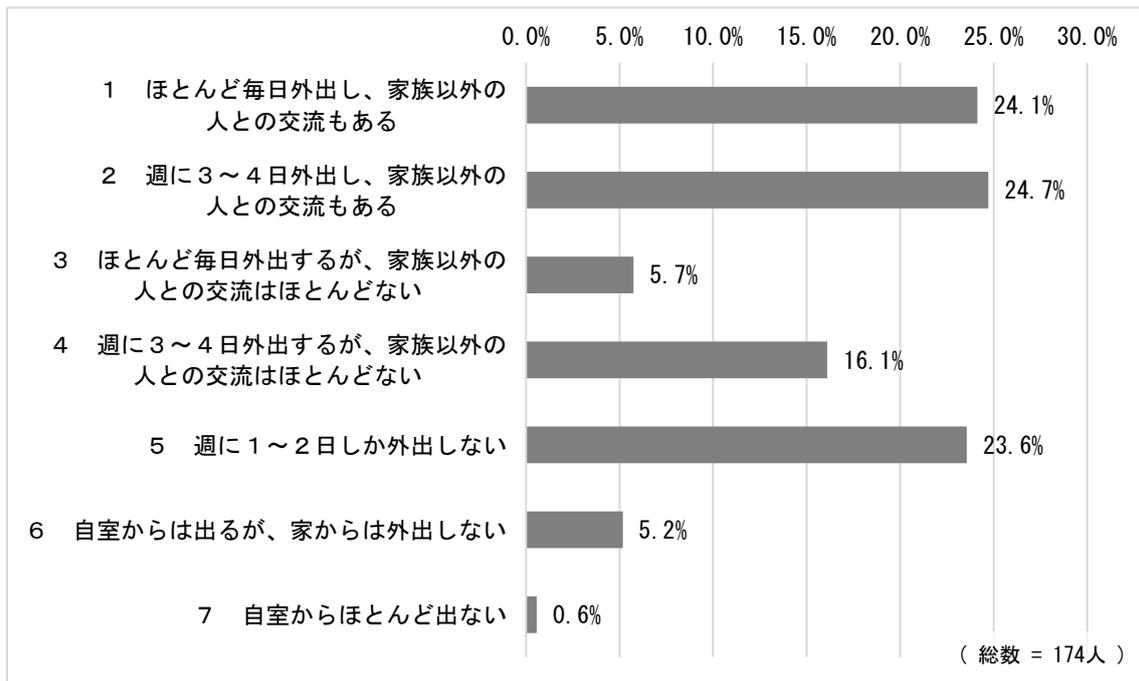
「働いている」方と「働いていない」方との間で差異があった悩みは「人とのコミュニケーションがうまくとれない」「希望する職種に求人がない(少ない)」「悩み事を相談できる人がいない・相談機関がない」等であった。(網掛け部分)

ちなみに、「働いていない」と答えた方で最も多い悩みは「人とのコミュニケーションがうまくとれない」で40.3%、「働いている」と答えた方で最も多いのが「金銭的に生活にゆとりがない」で33.3%となっている。

その他の意見は以下の通り。

- ・ 近くに相談機関がないため、移動時間がかかる。リモートを使用したいが、ネット回線が不安定でつなげない...
- ・ 高校在学中、やりたい職種のアルバイトがない
- ・ 希望する職種が見つからない
- ・ 働くのが怖い
- ・ シングルマザーなので子育てと仕事の両立が大変
- ・ 働いてみたい職種が見つからない
- ・ 自分の気持ちが分からない

問 1 1 あなたは普段、どのくらい外出しますか。また、家族以外の人との交流はありますか。(○はひとつだけ)



「週に3～4日外出し、家族以外の人との交流もある」が最も多く24.7%、次いで「ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある」が24.1%となっている。

この結果から、家族以外の人との交流がある人は全体の48.8%であることが分かったが、逆に言えば「全体の約半数が家族以外の人との交流が無い」ことが明らかになった。

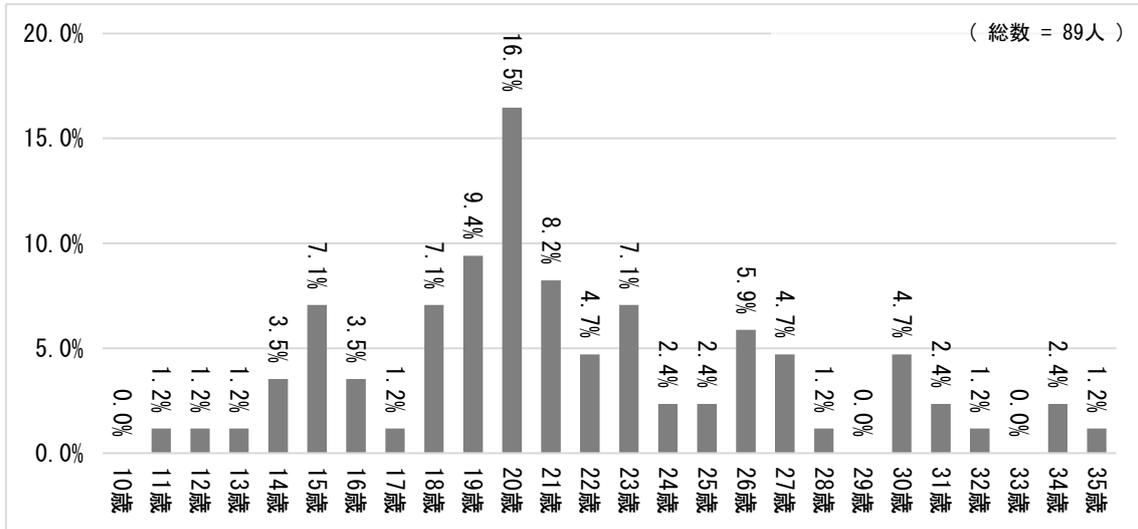
ちなみに、厚生労働省が定める「広義のひきこもり群」の定義は、「ふだんのくらい外出しますか?」という設問に対して、下記の①～④の選択肢を回答し、かつ、その状態となって6か月以上経つ者とされている。

- ①自室からほとんど出ない
- ②自室からは出るが、家からは出ない
- ③近所のコンビニなどには出かける
- ④趣味の用事の時だけ外出する

この定義を本設問の選択肢に照らし合わせた結果、「広義のひきこもり群」に属するリスクを有する方の割合は「週に1～2日しか外出しない」(23.6%)、「自室からは出るが、家からは外出しない」(5.2%)、「自室からほとんど出ない」(0.6%)の約3割に相当することが分かった。

Ⅱ. 調査の結果 【A調査】若者本人を対象とした調査

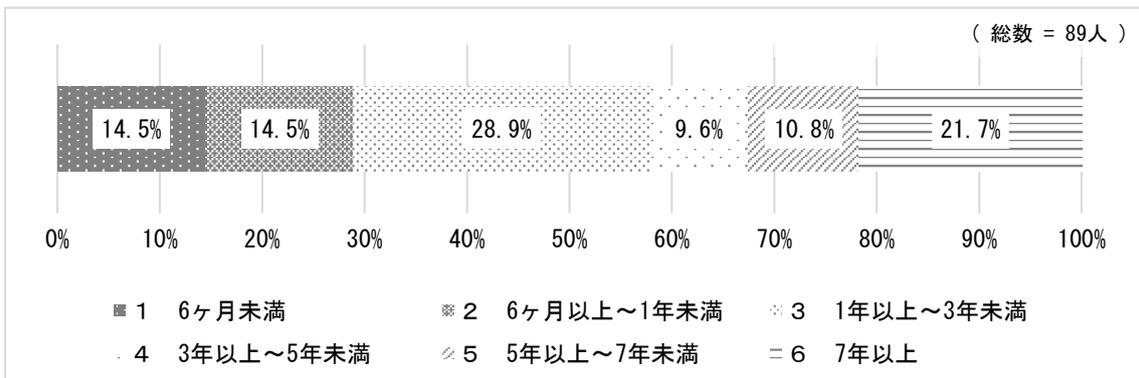
問12 問11で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。  
現在の状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。(数字で具体的に)



問11で「ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある」「週に3～4日外出し、家族以外の人との交流もある」以外を答えた方を対象に、現在の状態になった年齢を聞いたところ、「20歳」が最も多く16.5%、その前後1年「19歳」「21歳」も多い状況にある。

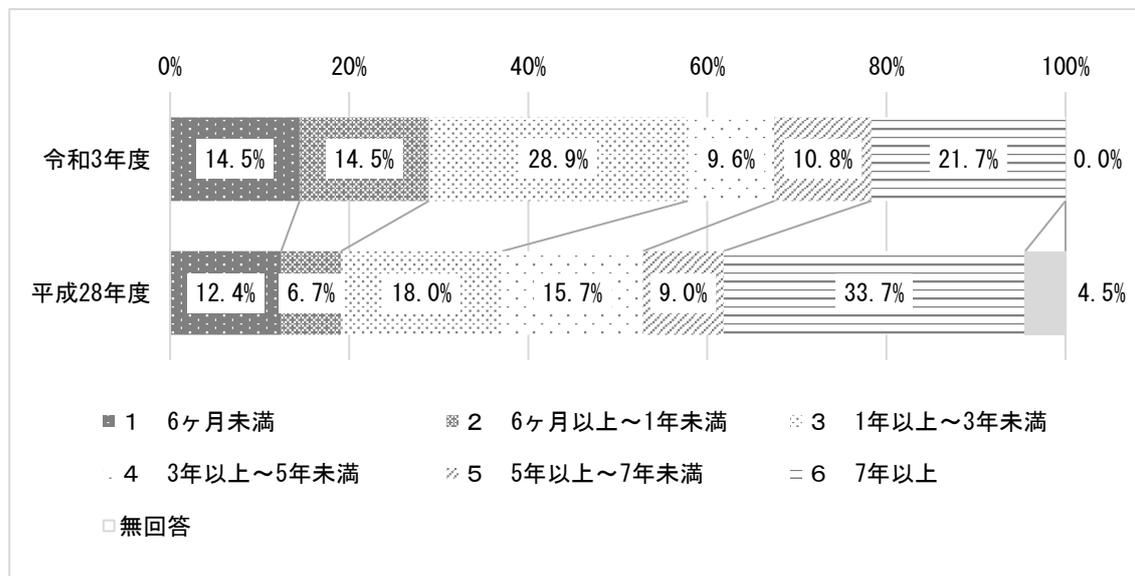
ちょうど高校を卒業したタイミングでもあることから、就業や社会適応等が引きこもる原因になった可能性が指摘される。

問13 問11で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。  
現在の状態となってどのくらい経ちますか。(〇はひとつだけ)



問11で「ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある」「週に3～4日外出し、家族以外の人との交流もある」以外を答えた方を対象に、現在の状態となってどのくらい経つか聞いたところ、「1年以上～3年未満」が最も多く28.9%、次いで「7年以上」が21.7%となっている。

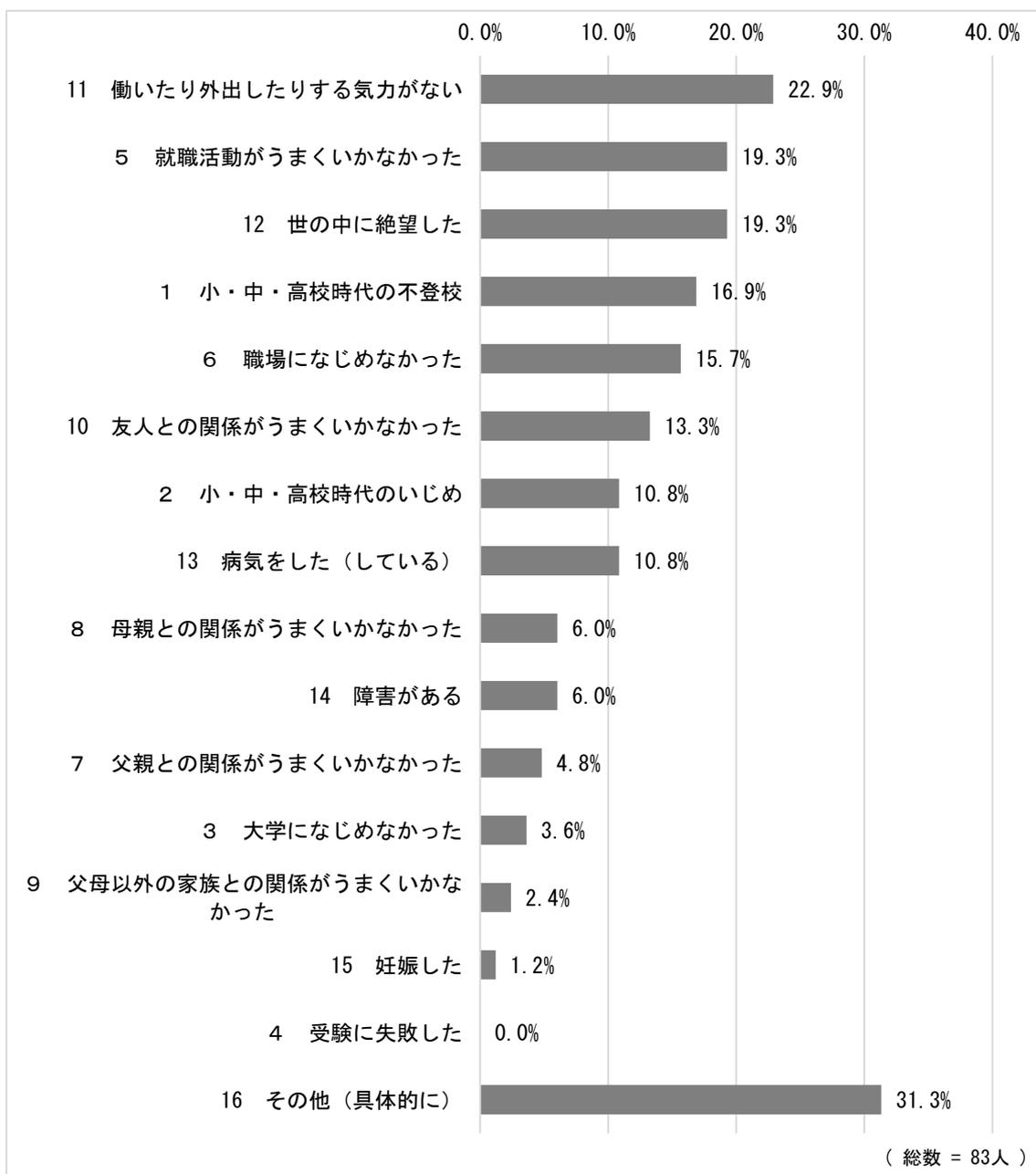
この設問について、前回調査（平成28年度）の結果との比較を以下に示す。



グラフでは前回調査（平成28年度）との比較も行ったが、「7年以上」と答えた方の割合が12.0%減少し、「1年以上～3年未満」が10%余り増加している。

Ⅱ. 調査の結果 【A調査】若者本人を対象とした調査

問14 問11で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。  
現在の状態になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)



問11で「ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある」「週に3～4日外出し、家族以外の人との交流もある」以外を答えた方を対象に、現在の状態になったきっかけを聞いたところ、「その他」以外の項目では「働いたり外出したりする気力がない」が最も多く22.9%、次いで「就職活動がうまくいかなかった」「世の中に絶望した」が19.3%となっている。

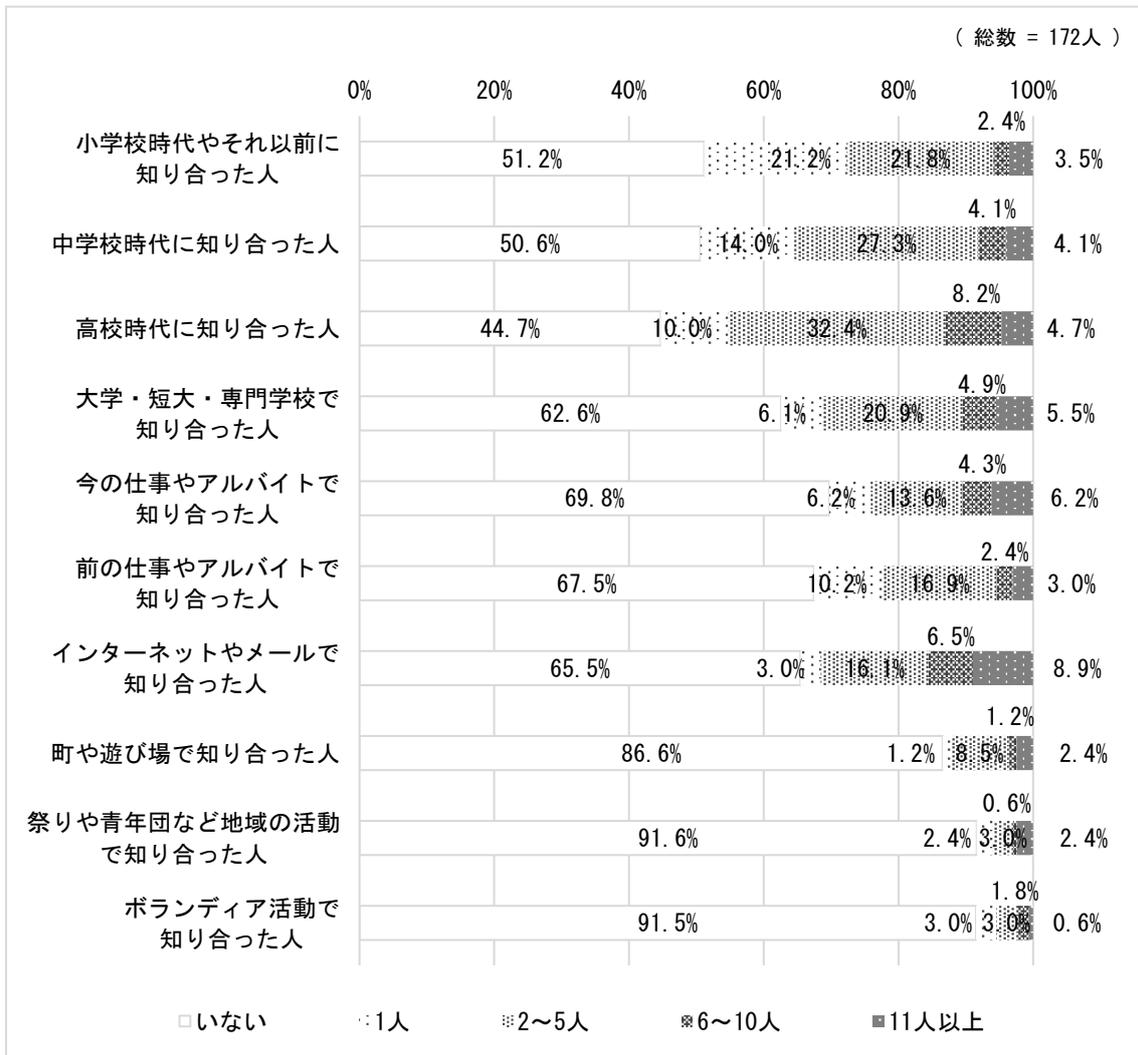
「その他」の意見については以下の通り。

- ・ 離職したから
- ・ 退職した
- ・ 母親が精神病（うつ病）になった
- ・ 高校卒業後就職活動をしなかった
- ・ 一人でいるのが好きだから
- ・ 県外で勉強する予定だったが1か月程で戻ってきた
- ・ 忙しい、忙しくなった
- ・ コロナ流行しているため
- ・ 退職し、出勤しなくなった為
- ・ 疲れで外に出歩く気にならなかった
- ・ 東京から帰ってきて仕事がなかったため
- ・ 自暴自棄になった

その他の内容を含め、「就職活動がうまくいかなかった」「職場になじめなかった」「離職（退職）した」「高校卒業後就職活動をしなかった」「仕事がなかったため」等、仕事を失ったタイミングで社会とのつながりが薄れてしまう傾向が強い。

Ⅱ. 調査の結果 【A調査】若者本人を対象とした調査

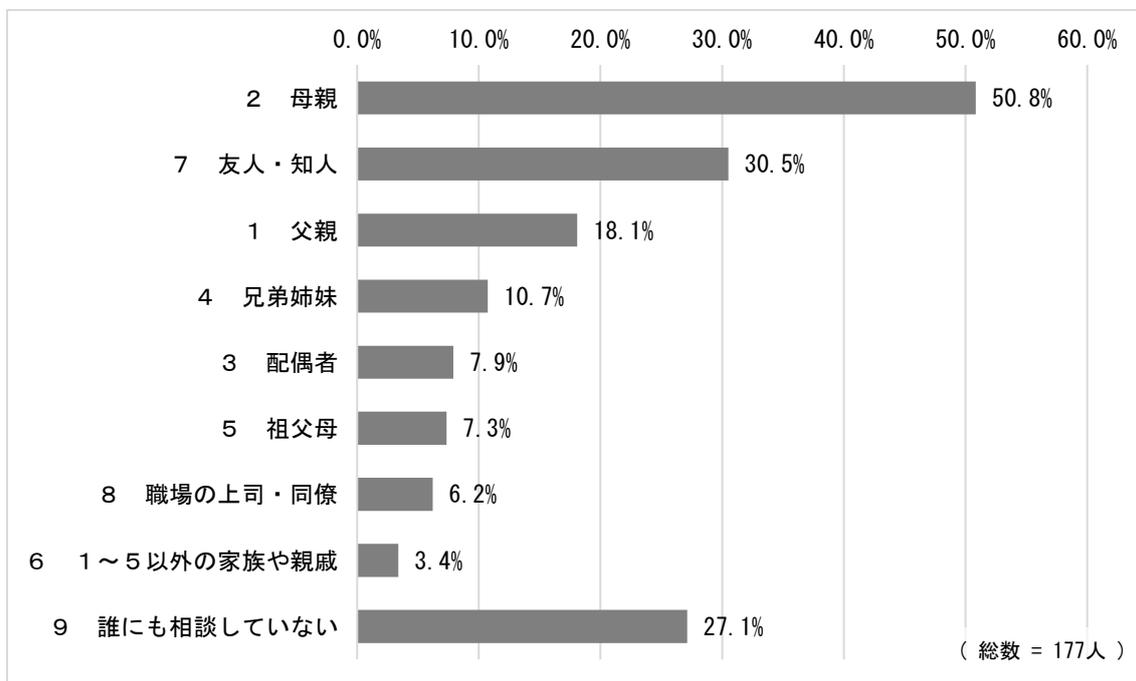
問15 次のような学校や機会を知り合った、今でも会ったりSNS等で連絡を取り合うなど付き合いがある人はそれぞれ何人くらいいますか。



今でも会ったりSNS等で連絡を取り合う人が1人以上いる割合で最も高いのが「高校時代に知り合った人」で55.3%、次いで「中学校時代に知り合った人」で49.5%であった。

一方、「11人以上」と答えた中で最も機会として多いのが「インターネットやメールで知り合った人」で8.9%となっており、インターネットはより多くの人との繋がりを得やすい傾向があることが再確認できた。

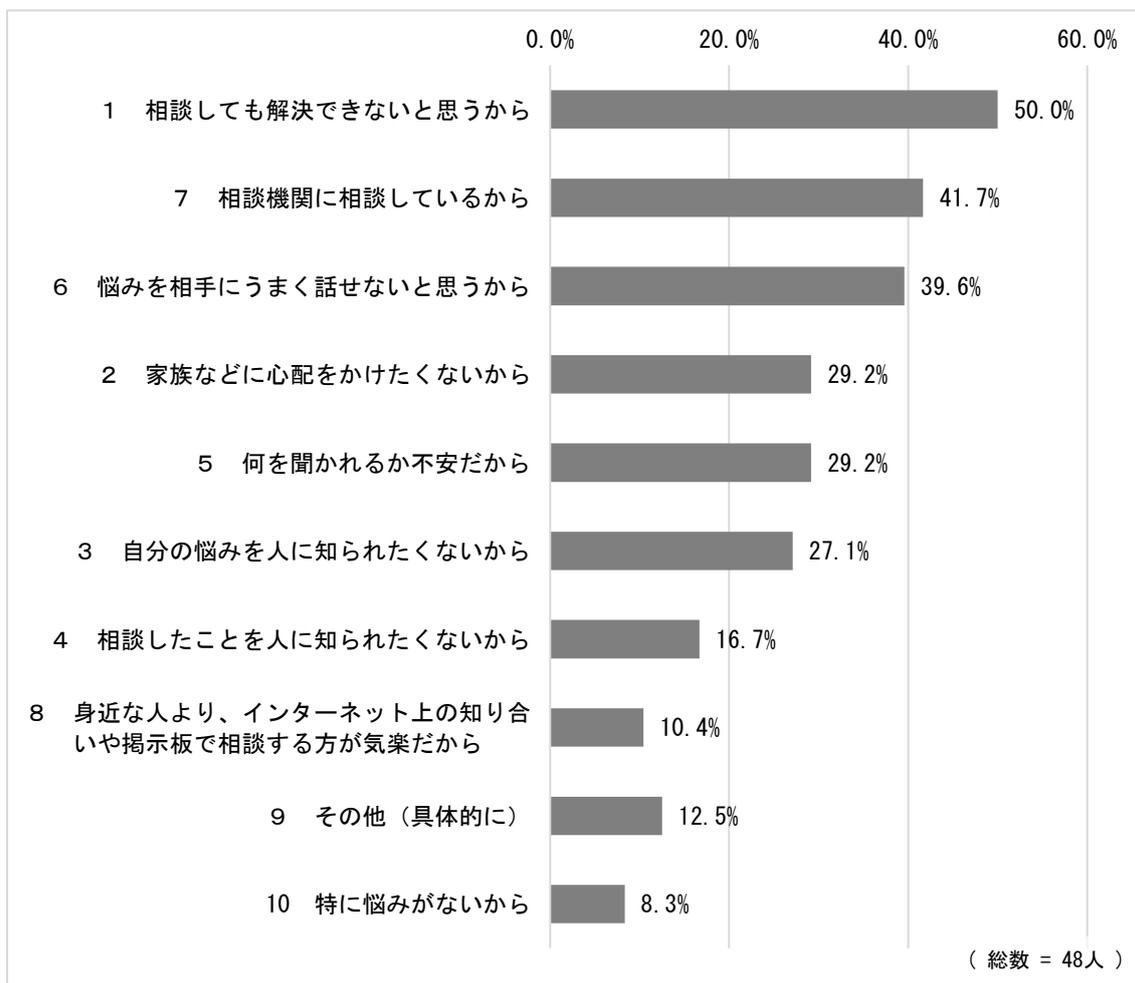
問16 あなたは、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、誰かに相談していますか。(〇はいくつでも)



「母親」がもっとも多く50.8%、次いで「友人・知人」が30.5%となっている。  
 また、「誰にも相談していない」が27.1%と、約4人に1人が悩みを相談することなく生活していることが分かった。

## Ⅱ. 調査の結果 【A調査】若者本人を対象とした調査

問17 問16で「9 誰にも相談していない」と回答した方にお聞きします。その理由はなぜですか。(〇はいくつでも)

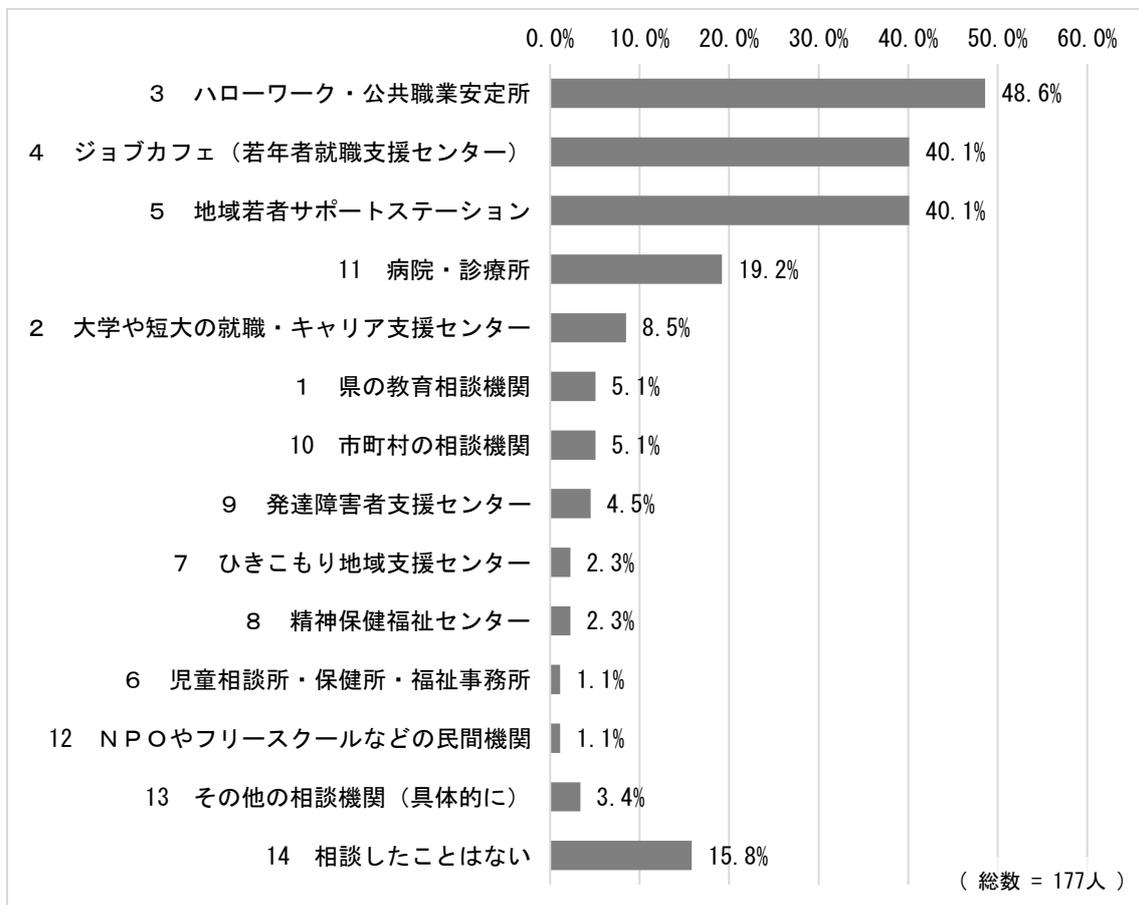


問16で「誰にも相談していない」と答えた方を対象に、その理由を聞いたところ、「相談しても解決できないと思うから」が50.0%、「相談機関に相談しているから」が41.7%、「悩みを相手にうまく話せないと思うから」が39.6%と比較的高い傾向にある。

その他の意見は以下の通り。

- ・ 深刻に悩んでいないから
- ・ 話がややこしくなる
- ・ 相談する時間もないし、相手もない
- ・ 信頼できないから
- ・ 何か気恥ずかしい
- ・ 何も考えないようにしている
- ・ 漠然とした不安はあるが自分事として考えないようにしている

問18 あなたはこれまで、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、どのような相談機関に相談したことがありますか。(〇はいくつでも)



「ハローワーク・公共職業安定所」が最も多く48.6%、次いで「ジョブカフェ (若者就職支援センター)」と「地域若者サポートステーション」が40.1%という結果となった。

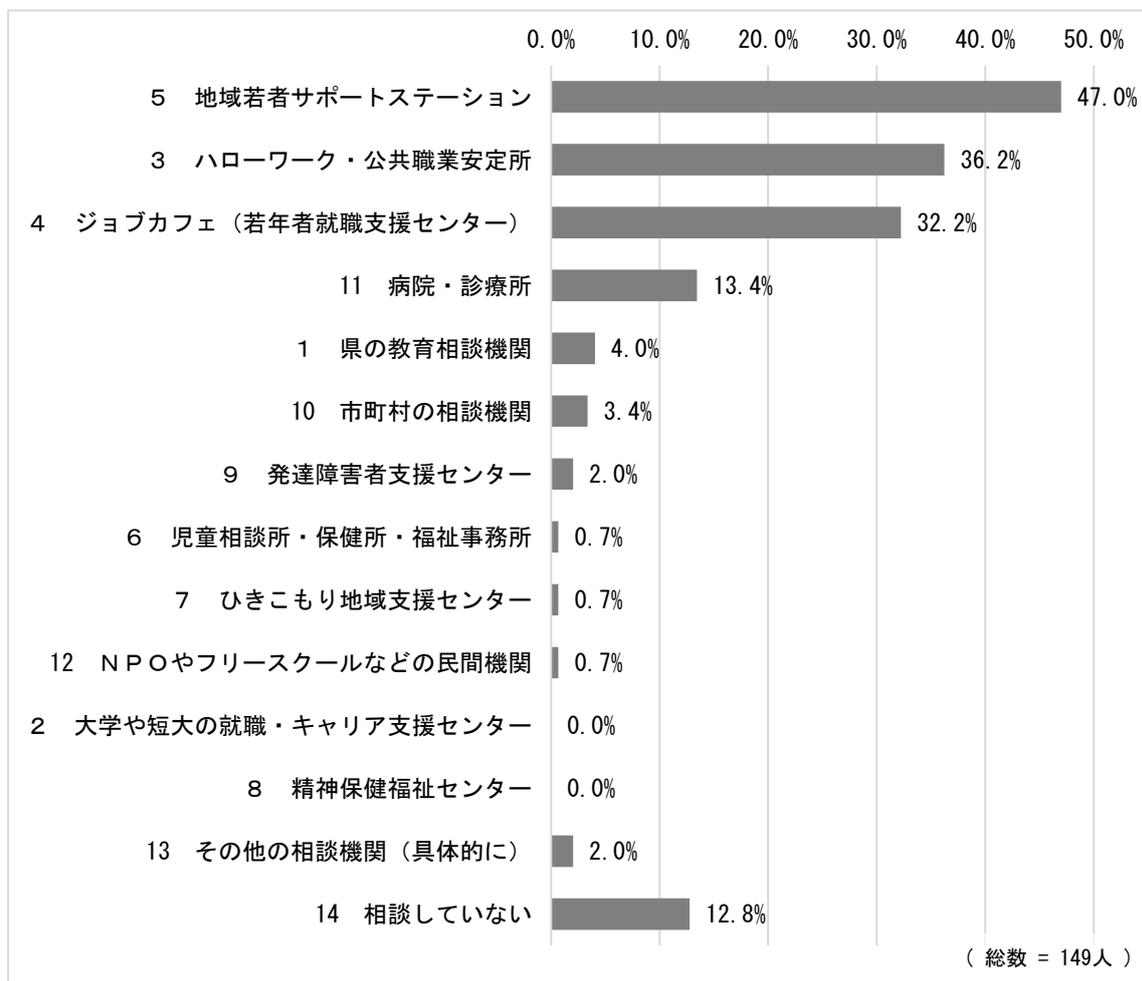
上位3機関については、順位こそ異なるが前回調査 (平成28年度) と変わっていない。

その他の意見については以下の通り。

- ・ 学校に来るソーシャルワーカー
- ・ キャリアコンサルティングの方
- ・ 大学の健康相談室
- ・ 就職活動中のアルバイト先の人
- ・ 社会福祉法人
- ・ ひろさき生活・仕事応援センター

## Ⅱ. 調査の結果 【A調査】若者本人を対象とした調査

問19 あなたは現在、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、相談機関に相談していますか。  
(〇はいくつでも)



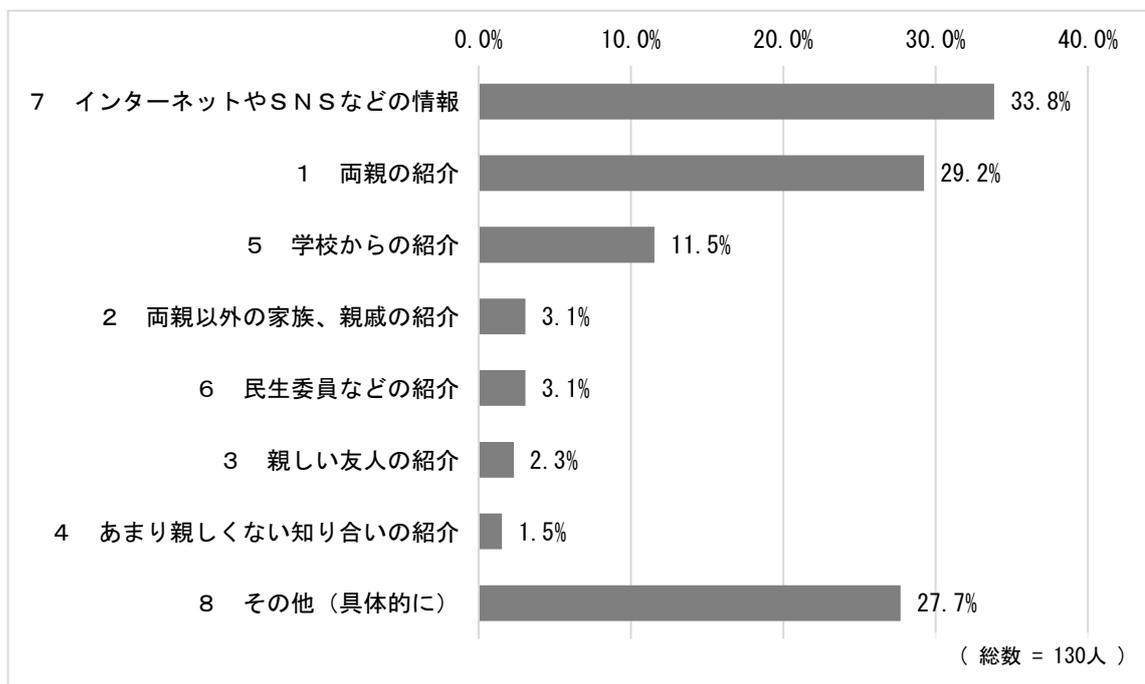
現在も相談している相談機関として最も多かったのは「地域若者サポートステーション」で47.0%であった。

なお、本設問は、調査票の配布元（配布数）との関連性が高くなることが想定される。

その他の相談機関として挙げられたのは以下の通り。

- ・ キャリアコンサルティングの方
- ・ 県社協
- ・ ひろさき生活・仕事応援センター

問20 相談機関のことはどのように知りましたか。(〇はいくつでも)



「インターネットやSNSなどの情報」が33.8%と最も多く、次いで「両親の紹介」が29.2%という結果となった。

その他については以下の通り。

- ・ ハローワーク (合計 12 件)
- ・ 市の福祉課 (合計 4 件)
- ・ ジョブカフェからの紹介 (合計 2 件)
- ・ 通院先の医師からの紹介 (合計 2 件)
- ・ 街で見かけて (合計 2 件)
- ・ 学生時代の恩師から
- ・ 学生時代の頃に友人から教えてもらった
- ・ 訓練校を通して
- ・ 学習サンハウス
- ・ 支援者
- ・ 回覧板の広告
- ・ 町の広報誌
- ・ 求人雑誌
- ・ 就職説明会のときに
- ・ チラシをみて
- ・ ポスターを見て
- ・ 本
- ・ 偶然

その他の記載では「ハローワーク」で知った方が多く8.3%を占めている。また、市役所(福祉課)で知ったという方も2.8%いる。

Ⅱ. 調査の結果 【A調査】若者本人を対象とした調査

問2 1 問18で「14 相談したことはない」、または問19で「14 相談していない」と回答した方にお聞きします。その理由はなぜですか。(〇はいくつでも)

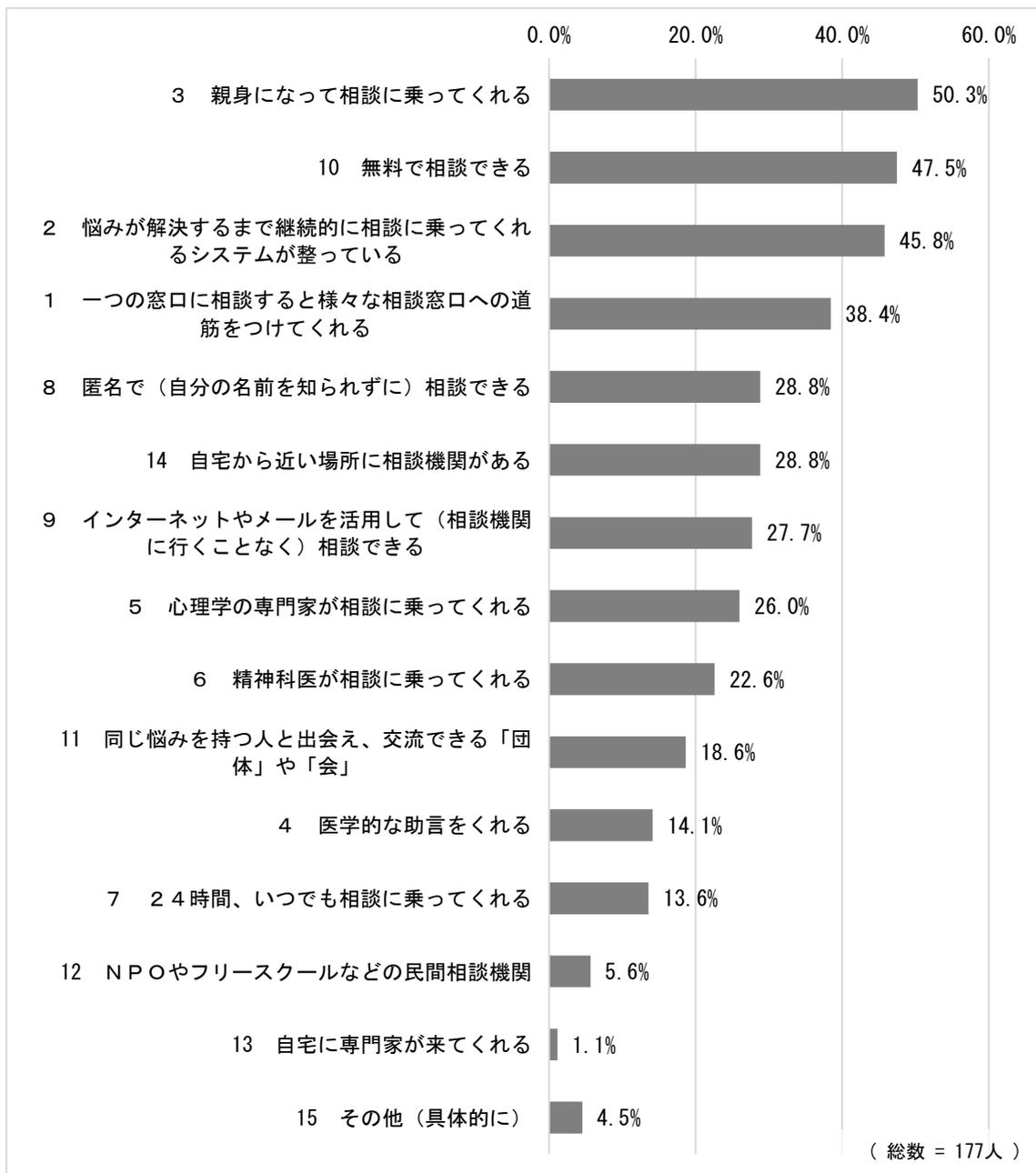


問18で「相談したことはない」、または問19で「相談していない」と回答した方を対象に、その理由を聞いたところ、「特に悩みがないから」が最も多く34.0%、それ以外の理由で多かったのは「どの相談機関に相談したらよいかわからないから」と「悩みを相手にうまく話せないと思うから」で21.3%であった。

その他については以下の通り。

- ・ 深刻に悩んでいないから
- ・ 相談内容や個人情報など、データとして残されたくない
- ・ 相談機関の周りの目があるから

問22 皆様が日常生活や就職活動に関する悩みなどを相談したり、支援を受けるにあたって、今後、どのような機能があったらよいと思いますか。(〇はいくつでも)



## Ⅱ. 調査の結果 【A調査】若者本人を対象とした調査

「親身になって相談に乗ってくれる」が50.3%と最も高く、次いで「無料で相談できる」が47.5%、「悩みが解決するまで継続的に相談に乗ってくれるシステムが整っている」が45.8%となっている。

その他、具体的な機能として求められているのは以下の通り。

- ・ 相談機関のアピール
- ・ 助成金など、現金支給等
- ・ 資格や技能などを身に付けることができる
- ・ 匿名でネットなどで相談できて、相談内容や履歴を関係機関で共有できる感じに

問23 最後に、あなたが日常生活や就職活動に関して、感じていることや、若者を支援する相談機関などに対する意見や要望などについて、自由にお書きください。

### ① 相談受付体制

発達や精神の障害児の場合、その親が子どものことで相談することがあるだろうが、当事者の方へ積極的に話しかけてほしい。当事者本人が自分の障害で周りとの距離ができてしまう前に、その親からの相談だけでなく、当事者本人に相談を持ちかけてほしい。

職業訓練に参加中の為、土曜日でも利用できるジョブカフェが大変役立っています。就職活動についてはもちろん、日頃感じている小さな悩みなどにも真剣に相談にのってくださるのでとても助かっています。

今の私には十分、力になってくださっているので今後も利用を続けていきたいと思います。  
ありがとうございます。

応募したい職の求人が掲載されると聞いて、訓練校を午後、お休みをいただき、ハローワーク青森（中央）へ向かった。前回もすぐにメ切りになってしまったので、訓練校の方の理解もあり、早々に足を運べたが、ハローワークの職業相談の方に、「なぜ今きたのか？訓練はどうしたのか？急ぎの求人とは思えない、延長でも利用できるし、TELでも対応できる」と言われたことがありました。求人番号もわからず、新着でようやく見つけていたものであったことも説明したが、その職員の対応に利用するのをやめようと思いました。

再就職に向けて動いているのにも関わらず、もう少し寄り添った対応も必要なのでは？と思いました。訓練校に通うことが自分の再就職に重荷になっているのかなど考えてしまいました。

日頃から、相談する機関が近くにあったらいいと思う。

何年か前利用したときより、ジョブカフェのキャリアコンサルタントの方の質が上がっていると思います。以前より親身になって専門的なアドバイスをしてくれてる感じがします。就職活動を支援してくれる側の質の向上が、1人1人の利用者の就活の質の向上にもつながると思うので、今後ますます県でも力を入れてくれたら助かります。

青森では引きこもり・生活が破綻し、孤立している場合に相談できる機関がそもそも少なく、実際に相談しに行ってもそのようなことを継続的に相談できる（出来そう）機関がサポステしかなかった。1度の相談であれば、引きこもり支援相談や、社会福祉が出来た。

再就職にあたって丁寧に対応してくださり、大変助かりました。ハローワーク八戸、およびジョブカフェあおもり八戸の職員の皆様には大変感謝しております。

相談を受ける機関に勤めてる人に言いたいことは、私のように命に関わるほど悩んでる人にかける言葉の選択に気をつけて欲しいことです。たった一言でも目の前にいる人の人生が変わることを覚えていてほしいです。私自身、友人のたった一言の言葉で、今日まで命を救われてた経験があるからです。私の願いは、どんな状況であっても受け止めてくれる場所があって欲しいです。

助言は貰えても解決まで協力はして貰えないと思いました。

あくまでお役所仕事。

頼りたいと思ってもその機関の相談員職員の目が気になって相談しづらい。

もう少し行きやすい空間にして欲しい。

両親を養えるほどの収入が欲しいと考えているが、終身雇用制が崩れたことや、自分に向いている仕事、25歳という年齢を考えると就職活動にも慎重になりすぎてしまうところがある。

サポートステーションやハローワークの方、心理カウンセラーの方が親身になって急かさず、焦らず、傾聴してくださることに救われたこともあり、なかなか踏み出せない私を見捨てないでいてくれることにはすごく感謝している。

いまの気持ちとしては、自分を変え自分を幸せにできるのは自分だけなのに、求人票を見て調べて、サポートステーションに通って相談しては、将来への不安・リスクを考えて、面接にも就職にも至れない、という繰り返しになってしまっている、自分自身を責めてしまう。でもいずれ踏み出せるようになっていきたい。

年齢にとらわれず、職場見学ができる環境や、育成に力を入れている職場があれば入りたいと思う。

青森市で働いて青森市に貢献していきたいのに…。

質問されても考えてしまってすぐに回答できないことが良くあり、考えてるうちに次に進んでしまうことが良くある気がする。話をちゃんと聞かないといけないと思いあちらの話を全部聞くが、いろいろ考えてしまいこちらの事を全部話せないでもやもやすることがある。

無理だと思うけど、対生徒に常識的に接することができる先生を育てる機関や、先生自身の体験や勉強。

## ② 必要な支援サポート

家族以外の人と交流する場面が2年以上続いたので、最低限のビジネスマナーや立ち振舞いが拙いところがあるので、それを改善したいと考えている。

ハローワークさん、ジョブカフェさんにはとてもお世話になっています。今後ともよろしく願います。

同じ悩みを持っている仲間と、悩みを共有できるようになると、気持ちが前向きになれると思うので、サポートお願いします。

精神的な疾患や、それらからくる体調不良で外で働くことが難しい人が自宅でも働くことができる環境づくりや求人、スキルを身に付けられる様な仕組みが多様化してくると良いなと思っています。

発達障害を持つ人が、一般の人と何の隔たりもなく、協力して働ける環境が整うように問題を解決してほしい。

## Ⅱ. 調査の結果 【A調査】若者本人を対象とした調査

学校教育のうちにキャリア教育をやるべき。
サポステが近隣の企業や職場ともっと連携して、職場体験やそこで実際に働いていくことが可能なシステムがあれば嬉しい。
悩みを抱えている人の悩みを最後まで考えてくれたり、就職活動が終わったとしても、ちゃんと仕事を悩みなくできているかなど、相談して終わりではなくずっとじゃなくても就職活動終わったあとも支援してくれたらとおもいます。
1か月間程度の職業体験があってほしい。
色々な方の意見や視点からのアドバイスが受けられるのでうれしいです。
訓練を通していろいろな仕事をやっているの自分自分に合った仕事があるといいです。 サポートステーションに行ったら良かった。
むつ市では職業訓練校の数・種類が少なく、最寄りまで青森市まで行かないと受けられない。もっと専門的な（特に電機関連）の職業訓練校を増やしてほしい。
自分の能力を高めることに対する支援が欲しいです。（就職市場で必要とされる能力の移り変わりが早いため）
利用している方と交流会をしたい。

### ③ 就職活動

現在、むつ市では希望に合う求人が無く、同じ企業の求人が周期的に並んでいて思うような就職活動ができない。
応募する企業によっては、1次面接～最終面接までWebで行う所もあるため、Web面接の対策が充実していると嬉しいです。
職務経歴書と履歴書だけで十分だと思うのだが、就職支援でジョブカードを作らされた。まったく同じ内容なのにどうして何時間もかけて、ジョブカードを作らなければならないのか。
現在はあまり体調が優れず、外に出て仕事をすることが困難ではありますが労働に対する意欲はあります。また、生活していく上で最低限の収入は必要です。在宅でもできる仕事などがもう少しあれば嬉しいなと思います。
オンラインでも面接できたら良いと思っておりさらに就活イベントなどもオンラインで他の人と交流もしてみたいと考えた。また就活イベントなどは青森市など中央で開催されることが多く他の市町村ではそれらが参加することが困難である。就活イベントへ参加する敷居を低くしてほしい。
えるぼしマークや働き方改革を実施している、ユースエール制度の表示があると、安心する。 気になる企業があればホームページを見たり Google マップをみて就業場所を確認したり評判を検索したりして情報収集しているがホームページが簡易的で事業内容が載っていないところは、どんな企業でどのような人が働いている所なのかわからず不安になる。
文章作成能力が無いので志望動機などを作るのが辛い。特にやりたいことが無いから仕事を探づらい。面接が面倒くさい。落ちるかもしれないのにいちいちサイトを見なくてはいけない。履歴書出すのに1回トータルで500円くらいかかる。履歴書は印刷で良い風潮にして欲しい。刑務作業みたいな働ける施設があると良い。職業訓練的な集団生活を、人事の人などが視察したり交流したりして、引き抜いたりしたら楽そう。
会社に入ってから合わないことが多いので会社を体験する機会を増やせたらいいと思います。

コロナ禍の現状で就きたい仕事の数が減っている状況をどうかしてほしい。求人を見ているとどこかしら求人を出し渋っているように見受けられる。それをどうかしてほしい。

年齢や性別、最終学歴だけで仕事のできるできないを判断しないでほしいと思います。私は大学院を修了したもののしばらく就職できず、無職として過ごしていた時期があります。就職もできない自分のことを社会人不適格者だと思って親に頼り、祖父母の介護をすることでなんとか最低限の自尊心を保って生きてきました。しかし、今は専門機関の助けもあって、なんとか派遣社員としてはじめての仕事に就くことができました。学生時代、何度も面接に落ちていた頃は、自分は仕事のできない人間だと思い込んでいましたが、実際に仕事に就いてみると自分が思っている以上に周りに評価され、今も信頼されていると実感しており、職場の上司や同僚の方々、専門機関で相談に乗ってくださった方々、すべての人に感謝しています。ですから、とにかく就労の機会をたくさん与えてほしいと思います。そのうえでできるできないを判断してほしいと思います。そして自分ができないと判断されたのなら潔く辞めます。就労というものがある程度、雇用主にとっても雇用される側にとっても良い仕組みができあがれば良いなと切に願います。

#### ④ 周知・広報

教育訓練給付金制度や職業訓練の制度がもっと広く周知されていたり、詳しく知る機会があるとありがたいです。

職業適性診断の情報を、どこでできるかなど詳しく書いてほしい。

様々な職業のいいところ、大変なところを付度なく話し合える場を設けてほしい。

職業安定所で上手に仕事を探せない人でも気楽に利用できる事が分かれば、「若者のサポート」という部分で大きく意味を成すのではないかと思います。

離職者や求職者に限らず、現在仕事をしている人でも、相談できる等、周知されれば、いいのではないのでしょうか。

相談機関等をもっと SNS を利用して広めた方がよいと思う。

まずは求人情報の見直しから始められたらいいかと思います。

私のように『勘違い』や『内容を深く考えられない』人もいるので、『何故この業務内容に対して、この技術が必要なのか』という文を記載してもらえると、求人を探す手間が省けて、大変助かります。

#### ⑤ その他

自分の場合は仕事をやめて、お金も無くなり実家に連れ戻された形だが、青森では活力や気力を失うなどのリスクはあって戻りたくなかったし、最後は知り合いから仕事を紹介されたり生活保護も考えたがそれらの選択肢を蹴られて戻された形だ。自分でも疲れていたから従った。

自分も両親も予想外に活力や活動を全くすることなく、どんどん困っていった形だが、対策を打てないことがきっかけです。

青森でバイトをしたくないという気持ちが強かったし、自分ではこちらではどうにもできないことを諦め、相談しに探していたらいいよ出来ることがなくなってしまい困ったというのが今の状況です。

相談したとしても、解決しない。収入面で困っているなら違う仕事をした方が良いと言われた事がある。今の仕事を辞め子育てしながら、必要な資格を取りに行く程の経済的余裕はない。

## Ⅱ. 調査の結果 【A調査】若者本人を対象とした調査

普通に生きてるだけでしんどい。

生きづらさを感じている人が生きやすくなる。

世の中になってほしいけど諦めている。

このまま死んでいくんだと思う。

今まで働いていた会社はすぐやめてしまったので自分が続けることができる仕事に就きたい。

可能であれば働きたくないが、将来的な金銭面や生活に不安があるので就労を希望している。

自分の考えが甘いことは理解し、このままではいけないと思っはいるが、なかなか体がついていかない。

相談機関で得たアドバイスをなかなか実行に移せず、そのことに後ろめたさを感じているので、そこは言い出せない。

私のように、理想が高い人を受け止められるだけの経験や知識がある環境がなくて、私は本当に苦しみました。

人間性が汚いです。

特にトカゲの尻尾切りのような状態です。

働いても給料が足りません。

自分がやりたい職種の求人を見つけた時、自動車運転が必要でない業務でも『普通自動車免許が必要』と書いてあり、免許を持っていても『運転が苦手』と正直に伝えると不採用、日商簿記の資格を取得しても『経験が必要』と不採用になり、有資格者で少し経験が足りないばかりに不採用の連続です。

そうなれば、正規社員の道は諦めるしかないですよ。

企業が求めている資格を有していても『運転が苦手だから』『経験が少ないから』という理由で、これからのポテンシャルや伸び代を見ずに、これらのしょうもない理由で連続で不採用通知を受け取る人間の気持ちわかりますか？

少しでもこれらのことは関係無く採用になったとしても最長5年の契約社員…。

パートやアルバイトが現場を支えている企業も多いのに、最低賃金は首都圏と比べると少なく、福利厚生もあまり使えないとなると、元気な若者は地元から出て、事情を抱える若者はなかなか働けない、そんな悪循環になります。

そんな焦っている若者は何を求めているのか、働く場所と『人様の役に立てている』という生き甲斐かと感じます。

みんながみんな、『運転出来るようになる』『自動車を買う』『資格を取る』ということが出来ないのです。

親が年金暮らしになったら生活が破綻するので私の寿命はあと数年です。

用事が無いから外に出ないだけなので特に問題は無いと思っている。

仕事をするにあたって人間関係が良好であると仕事しやすいと感じた。

気軽に周りの人たちと会話できるようになりたい。

普段から話せる友人が少ない事が、少ししんどいです。

あとは、バイト先などで学校の事や歳を聞かれると少し答えにくく、気まづいです。

自分で考えていることが分かりません。

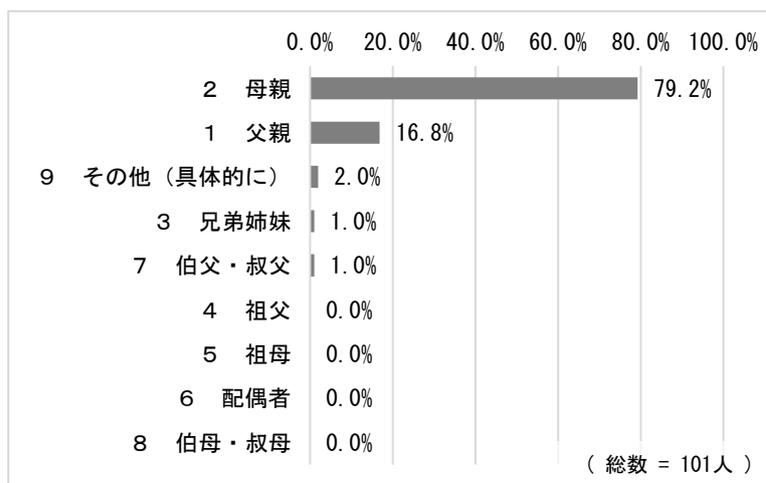
何をしたらいいとか。

## 【A調査】

15歳から39歳までの若者（学生を除く）及び  
その保護者等を対象とした調査

2. 保護者等を対象とした調査

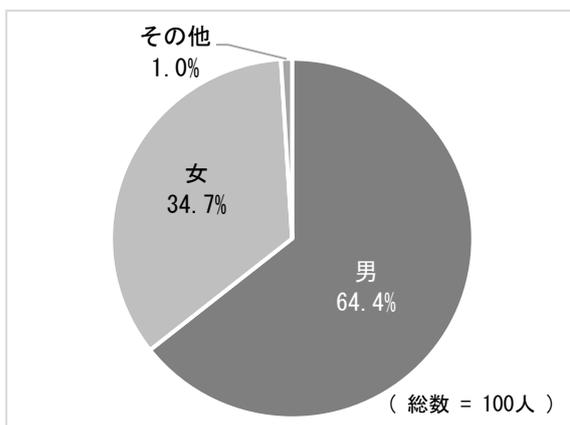
問1 「ご本人」との関係をお答えください。



本アンケート調査にご協力いただいた方については、「母親」が79.2%と約8割を占めている。

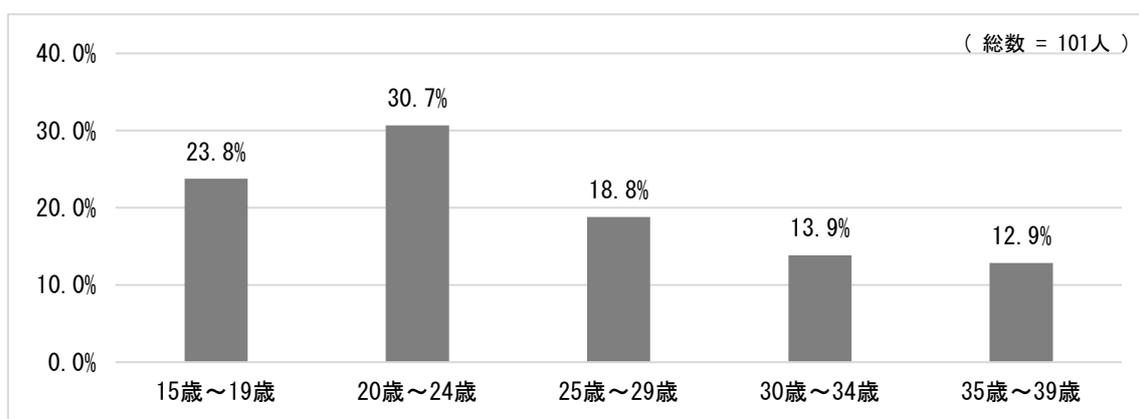
次いで「父親」が16.8%となっている。

問2 「ご本人」の性別をお答えください。



「男性」が64.4%、「女性」が34.7%と、本人を対象とした調査同様、「男性」が若干多い構成となっている。

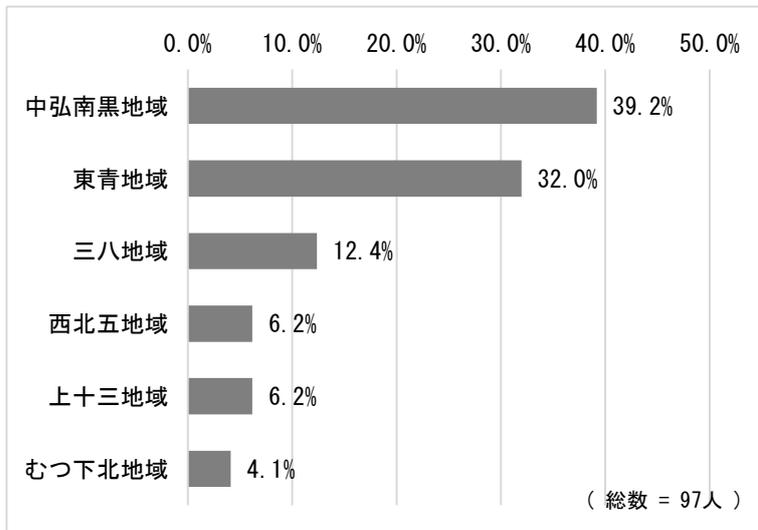
問3 「ご本人」の年齢をお答えください。



「20歳～24歳」が30.7%、次いで「15歳～19歳」が23.8%と、本人を対象とした調査より低い年齢層が多い結果となった。

Ⅱ. 調査の結果 【A調査】保護者等を対象とした調査

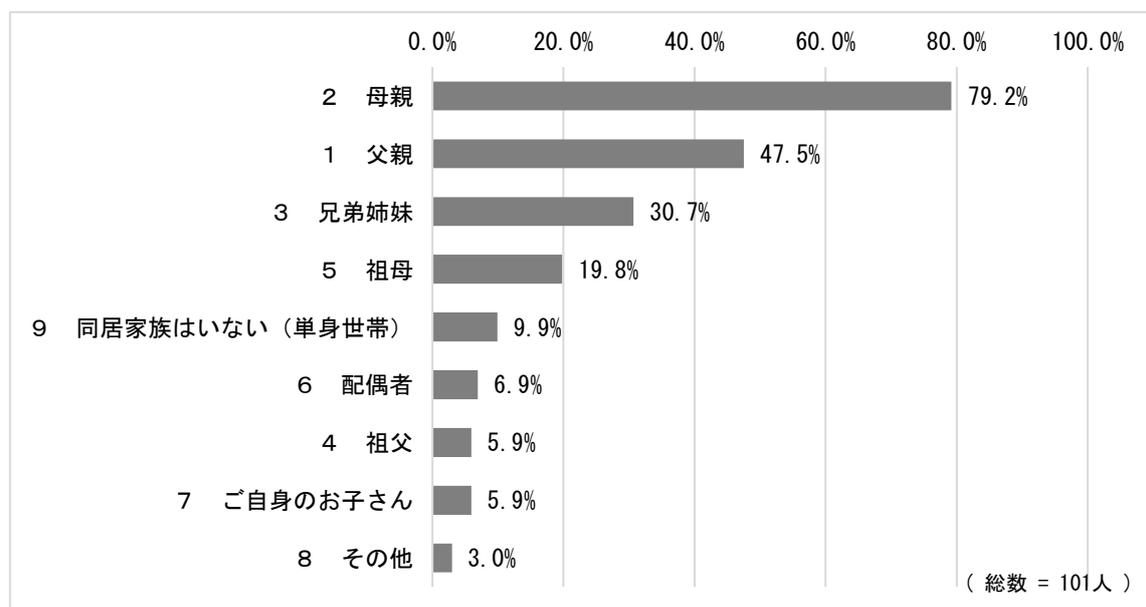
問4 「ご本人」が住んでいる市町村名を記述してください。



「中弘南黒地域」が39.2%と最も多く、次いで「東青地域」が32.0%、「三八地域」12.4%となっている。

地域間のバランスを見ると「むつ下北地域」が4.1%と少ない。

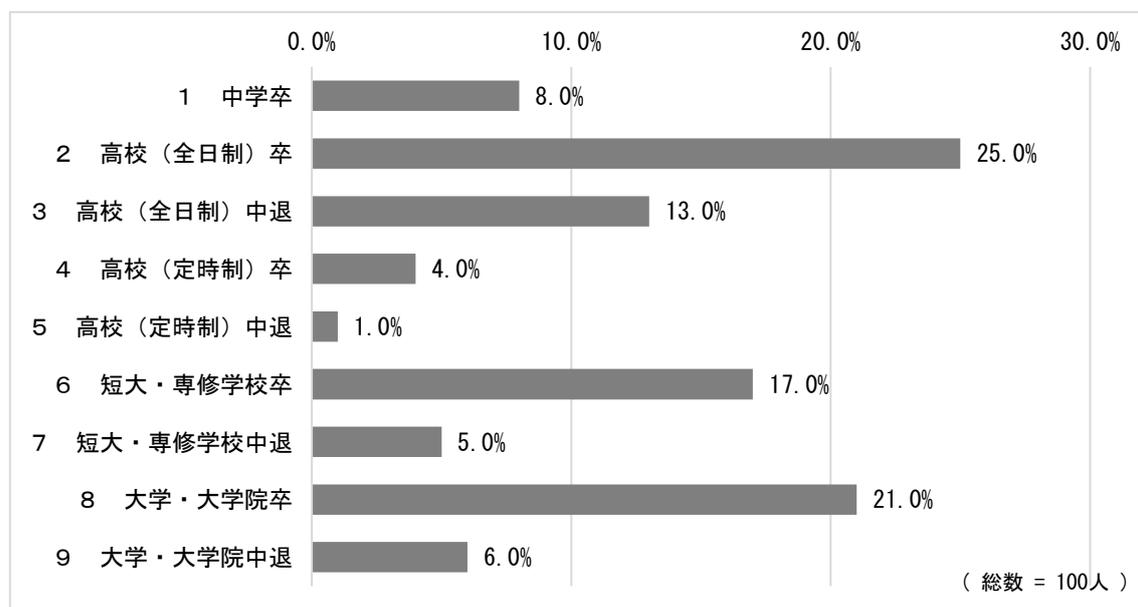
問5 「ご本人」が同居しているご家族、すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)



「母親」が最も多く79.2%、次いで「父親」が47.5%、「兄弟姉妹」30.7%であった。

「同居家族はいない(単身世帯)」も9.9%と、前回調査(平成28年度)の1.4%よりも高くなっている。

問6-1 「ご本人」が最後に卒業（中退）した学校はどこですか。

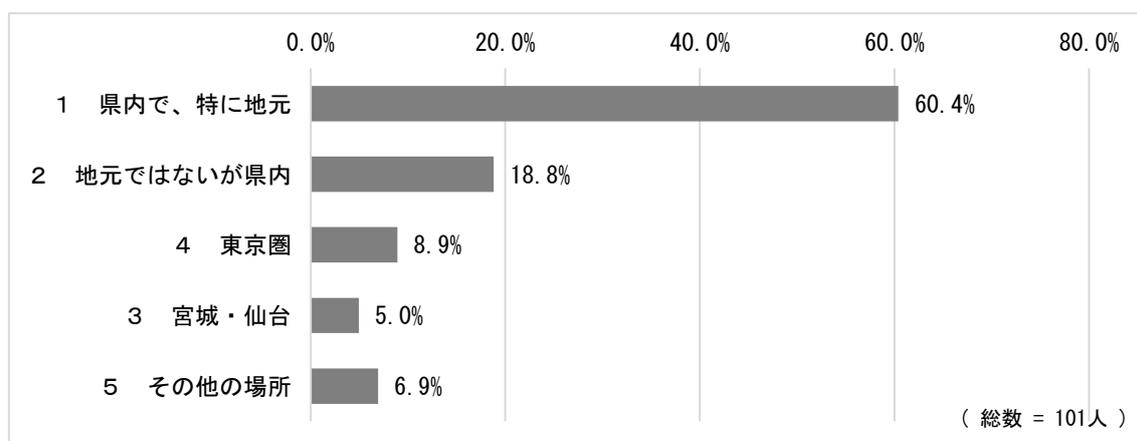


「高校（全日制）卒」が最も多く 25.0%、次いで「大学・大学院卒」が 21.0%、「短大・専修学校卒」が 17.0%となっている。

最終学歴別の割合は以下の通りであった。

- ・ 中学校卒 8.0%
- ・ 高校卒（中退） 43.0%
- ・ 短大・専修学校卒（中退） 22.0%
- ・ 大学卒（中退） 27.0%

問6-2 その学校はどこにありますか？



「県内で、特に地元」が 60.4%で、次いで「地元ではないが県内」が 18.8%となった。

問6-3 問6-1で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」が ①中退した時の学年 及び ②中退した学科 を教えてください。

① 中退した時の学年

(総数 = 8人)

	回答数	構成率
1年生	5	62.5%
2年生	2	25.0%
3年生	1	12.5%
合計	8	100.0%

「1年生」が5人と最も多く、次いで「2年生」が2人、「3年生」が1人という結果になった。

② 中退した学科

(総数 = 8人)

	回答数	構成率
1 普通科	5	62.5%
2 農業科	0	0.0%
3 工業科	0	0.0%
4 商業科	0	0.0%
5 総合学科	0	0.0%
6 その他	3	37.5%
合計	8	100.0%

「普通科」が最も多く5人となっている。

問6-4 問6-1で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」が中退した理由はなぜですか。(〇はいくつでも)

(総数 = 8人)

	回答数	構成率
1 勉強がわからなかったから	0	0.0%
2 校則や校風があわなかったから	1	12.5%
3 仲のよい友達が辞めてしまったから	0	0.0%
4 問題行動を起こしたから	0	0.0%
5 第一希望の高校ではなかったから	0	0.0%
6 人間関係がうまくいかなかったから	1	12.5%
7 親に辞めさせられたから	0	0.0%
8 経済的な余裕がなかったから	0	0.0%
9 健康上の理由から	4	50.0%
10 妊娠したから	0	0.0%
11 高校生活以外に興味があることができたから	1	12.5%
12 欠席や欠時がたまって進級できそうにもなかったから	6	75.0%
13 早く経済的に自立したかったから	0	0.0%
14 早く家を出たかったから	0	0.0%
15 その他(具体的に)	4	50.0%
16 わからない	0	0.0%

問6-1の設問において「高校(全日制中退)」または「高校(定時制)中退」と答えた方を対象に中退した理由を聞いたところ、「欠席や欠時がたまって進級できそうにもなかったから」が最も多く6人、次いで「健康上の理由から」が4人と高い。

他に「校則や校風があわなかったから」「人間関係がうまくいかなかったから」「高校生活以外に興味があることができたから」がそれぞれ1人となっている。

「その他」の意見については以下の通り。

- ・ 中学の時に、理解のない教師とのやりとりに疲れてしまい、それから組織的な学校そのものに不信感を持つようになった
- ・ 周囲の目が気になり行けなくなったから
- ・ 学校がつまらないから
- ・ 学校からのすすめ

Ⅱ. 調査の結果 【A調査】保護者等を対象とした調査

問6-5 問6-1で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。  
 「ご本人」は、中退をすることについて誰に相談していましたか。(〇はいくつでも)

(総数 = 8人)

	回答数	構成率
1 親	6	75.0%
2 兄弟姉妹	1	12.5%
3 中退をした学校の先生	4	50.0%
4 小中学校の先生	0	0.0%
5 中退をした学校の友人	0	0.0%
6 5以外の友人	2	25.0%
7 先輩	0	0.0%
8 中退経験のある人	0	0.0%
9 地域若者サポートステーションなど相談機関の職員	0	0.0%
10 インターネットで交流のある人	0	0.0%
11 その他(具体的に)	1	12.5%
12 わからない	0	0.0%

問6-1の設問において「高校(全日制中退)」または「高校(定時制)中退」と答えた方を対象に中退することについて誰かに相談したか聞いたところ、「親」が最も多く6人、次いで「中退をした学校の先生」が4人と比較的多い。

他に「5以外の友人」が2人、「兄弟姉妹」が1人となっている。

「その他」の意見には「スクールカウンセラー」があげられている。

問6-6 問6-1で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」が中退するにあたって、また中退後に、今後の自分の進路を考えたり、日常生活を行っていくうえで、どのような情報を知っていたらよかったのではないかと思いますか（〇はいくつでも）

（総数 = 8人）

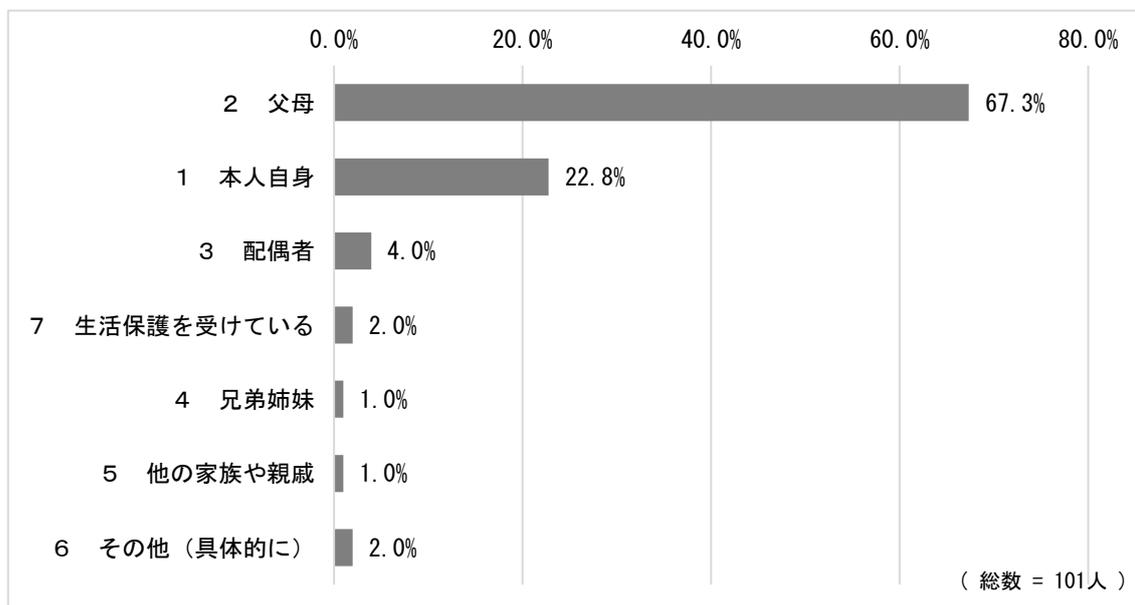
	回答数	構成率
1 今後の進路について悩んだ時に相談する方法	4	50.0%
2 他の高校に転入学する方法	1	12.5%
3 学力向上について悩んだ時に相談する方法	0	0.0%
4 高等学校卒業程度認定試験(高卒認定試験)を受ける方法	2	25.0%
5 仕事で困った時に相談する方法	0	0.0%
6 生活で困った時に相談する方法	0	0.0%
7 精神的に不安定になった時に相談する方法	1	12.5%
8 職業に必要な技能を得るときに、職業訓練を受ける方法	3	37.5%
9 雇用保険(失業による生活不安に対して、現金を給付する制度)	0	0.0%
10 奨学金・高校授業料無償などの進学支援制度	0	0.0%
11 その他	0	0.0%
12 特に必要ない	0	0.0%

問6-1の設問において「高校（全日制中退）」または「高校（定時制）中退」と答えた方を対象に中退後に、今後の自分の進路を考えたり、日常生活を行っていくうえで知っておいた方がよかった情報を聞いたところ、「今後の進路について悩んだ時に相談する方法」が最も多く4人、次いで「職業に必要な技能を得るときに、職業訓練を受ける方法」が3人、「高等学校卒業程度認定試験（高卒認定試験）を受ける方法」が2人となった。

ちなみに、「職業に必要な技能を得るときに、職業訓練を受ける方法」への関心は、本人を対象とした調査では0.0%と重要視されていなかった項目であった。

就労に対する保護者の問題意識の高さが現れている。

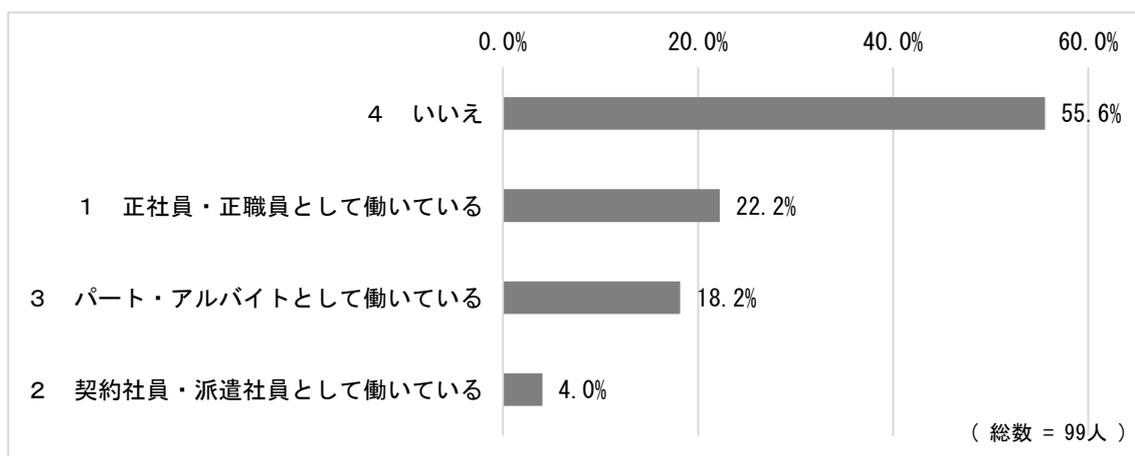
問7 現在、「ご本人」の生計を支えているのはどなたですか。生計を支えている方が複数いる場合は、もっとも多く負担している人をお答えください。(〇はひとつだけ)



「父母」が67.3%と最も高く、生計を親に頼っている状況が明らかになった。以下、「本人自身」が22.8%、「配偶者」が4.0%と続く。

「その他」の意見としては、「母」「母の遺産相続金」があげられた。

問8 「ご本人」はいま、仕事に就いていますか。

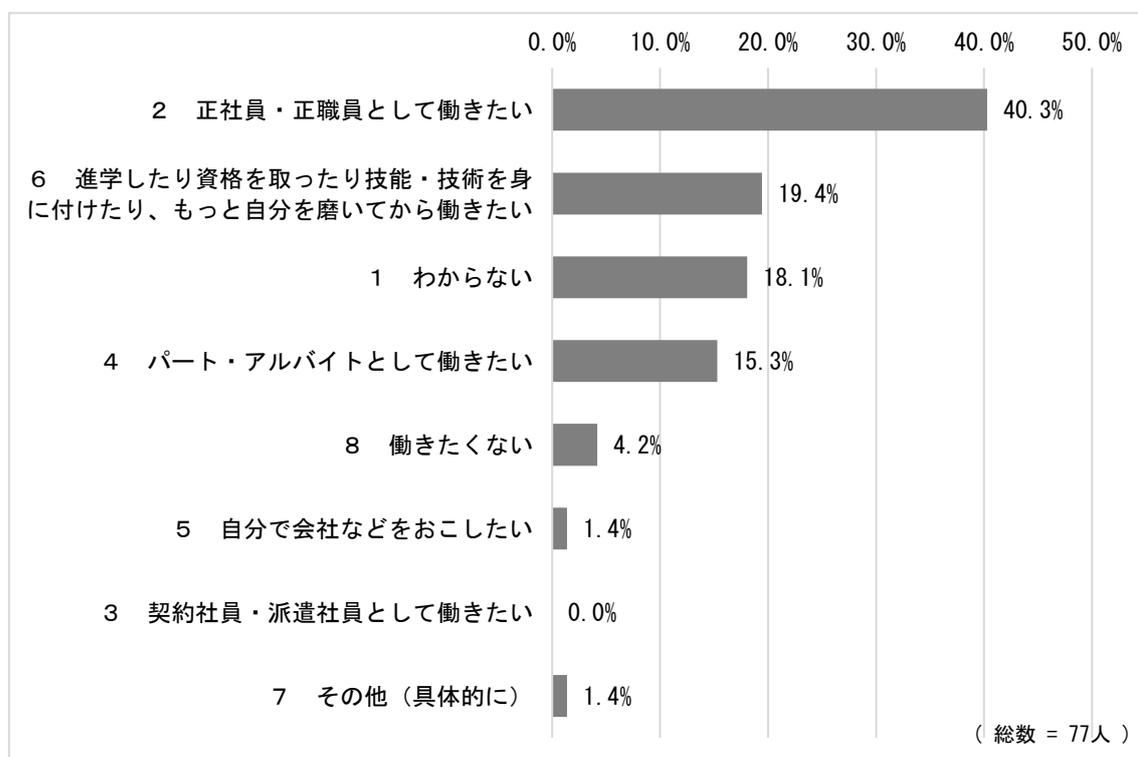


「いいえ」が55.6%と過半数を占めている。

「正社員・正職員として働いている」が22.2%、「パート・アルバイトとして働いている」18.2%、「契約社員・派遣社員として働いている」が4.0%であった。

問9 問8で「契約社員・派遣社員として働いている」「パート・アルバイトとして働いている」または「いいえ」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」は、今後の自分の進路についてどのように考えていると思われますか。(〇はひとつだけ)



問8で「正社員・正職員として働いている」以外を答えた方を対象に、「ご本人」の今後の進路の希望を聞いたところ、「正社員・正職員として働きたい」と答えた人が40.3%、次いで「進学したり資格を取ったり技能・技術を身に付けたり、もっと自分を磨いてから働きたい」が19.4%となった。

また、「わからない」と答えた方も18.1%いることが分かり、本人と保護者等との間で今後の進路に関するコミュニケーションがあまり取られていない家庭も一定数あることが明らかになった。

「その他」の意見として「何か仕事をしなければと思っている」があげられている。

Ⅱ. 調査の結果 【A調査】保護者等を対象とした調査

問10 問9で「働きたくない」と回答した方にお聞きします。  
その理由はなぜだと思われますか？（〇はいくつでも）

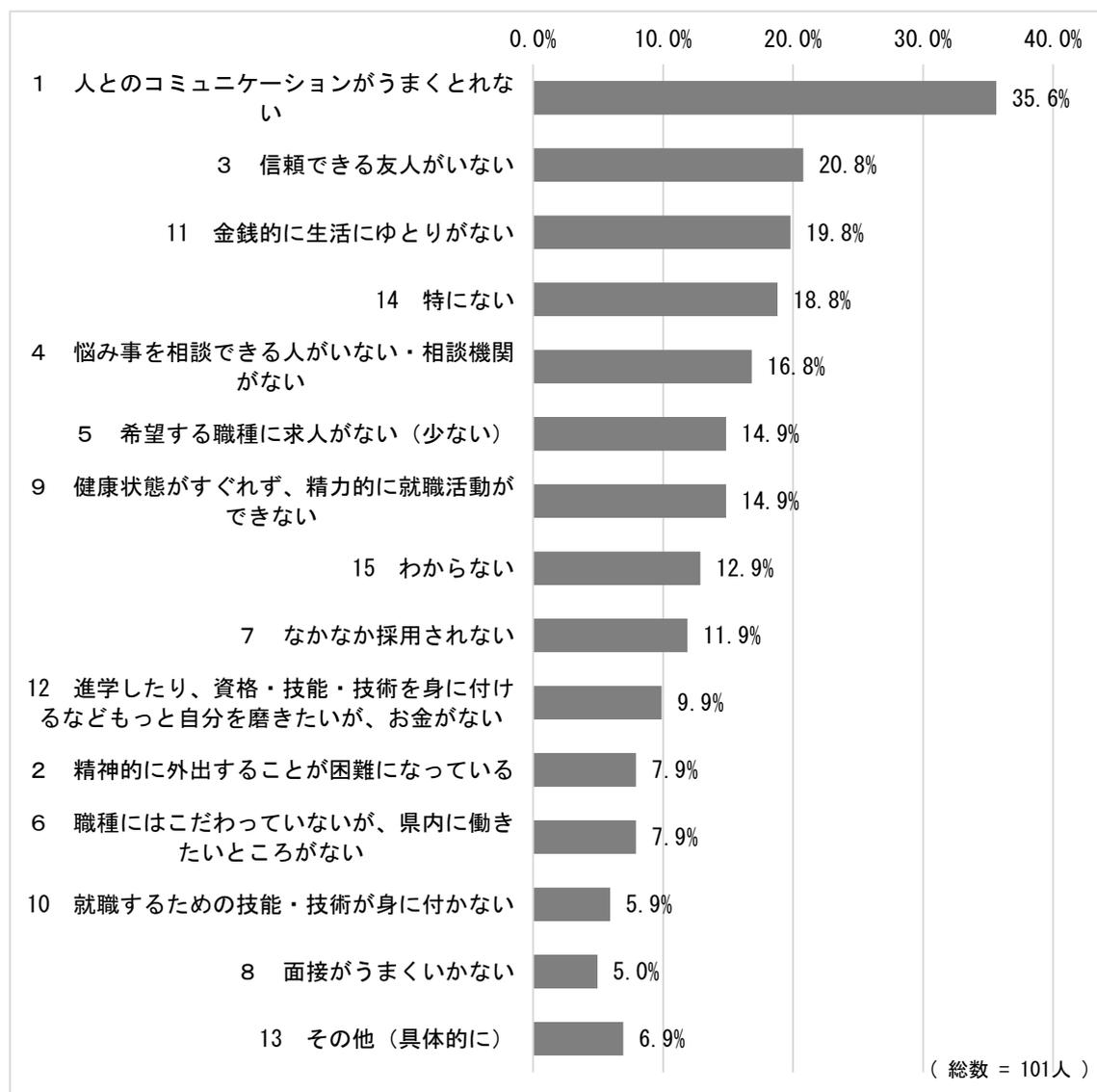
（総数 = 3人）

	回答数	構成率
1 わからない	2	66.7%
2 健康上の理由があるから	0	0.0%
3 なかなか仕事が決まらず、もう就職活動をしたくないから	1	33.3%
4 将来、やりたいことが見つからないから	1	33.3%
5 何もしたくないから	1	33.3%
6 もっと遊びたいから	0	0.0%
7 家族や親族からの援助があり働かなくても生活していけるから	0	0.0%
8 生活保護を受けており働かなくても生活していけるから	0	0.0%
9 働かなければならない理由が見つからないから	1	33.3%
10 その他	0	0.0%

問9で「働きたくない」と回答した方を対象に、その理由を聞いたところ、「わからない」が2人であった。

また「将来、やりたいことが見つからないから」「働かなければならない理由が見つからないから」と答えた方がそれぞれ1人いることから、本人の就労意欲を引き出すためには、働く意義や目的などの「仕事観」を醸成できるような環境づくりや関わりが必要になると思われる。

問 1 1 いま「ご本人」が日常生活や就職活動に関して、悩んだり困っていることはありますか。また、それはどんなことですか。(〇はいくつでも)



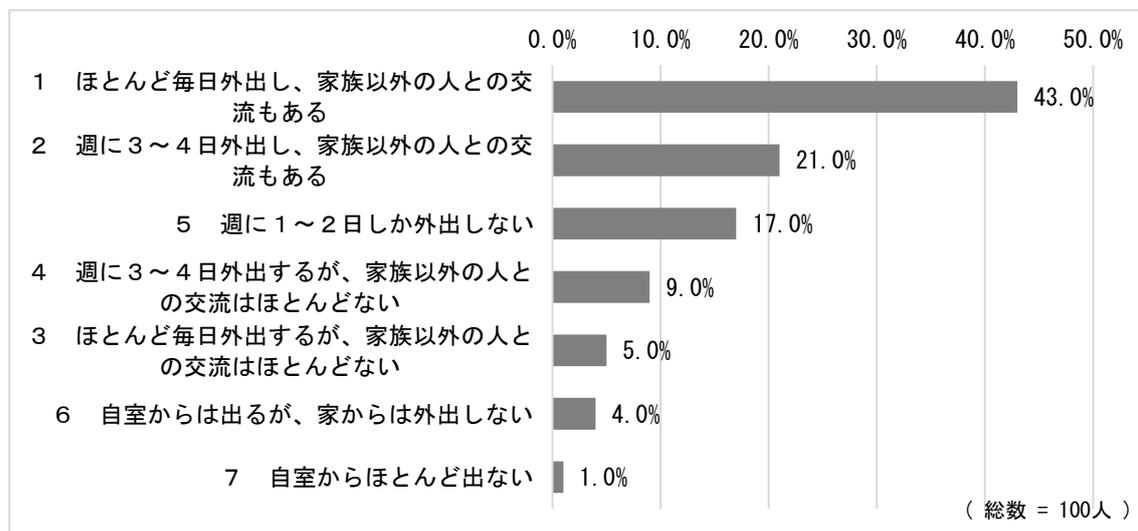
「人とのコミュニケーションがうまくとれない」が35.6%と最も高い。この項目は、本人を対象とした調査でも32.8%と最も高い値となっており、コミュニケーションに関する悩みや課題を抱えている若者が多い傾向にあることが分かった。

また、他の選択肢についても本人を対象とした結果と比べて同じような傾向である。

「その他」の意見は以下の通り。

- ・ やりたい事があるが、SNSの活用のし方がわからない
- ・ 不登校になった原因が不明であるため、今後の根本的な解決や対処法が分からない
- ・ 過重労働で労災認定された
- ・ 勤務先がややブラック体質なため、離職者が多く正社員がどんどん減り、派遣社員が増えていることから正社員である本人に仕事の負担が増え退職を考え始めている

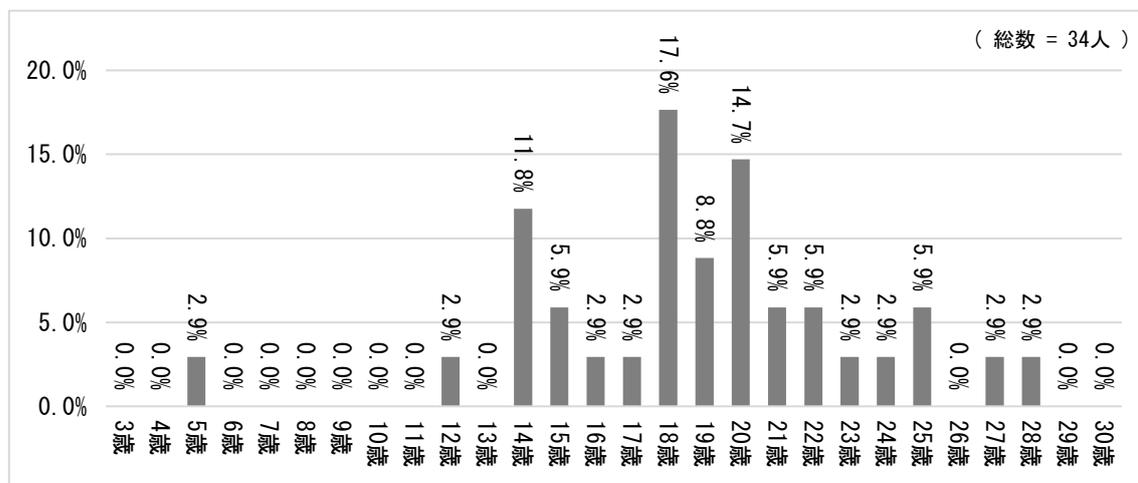
問12 「ご本人」は普段、どれくらい外出しますか。また、家族以外との交流はありますか。  
(○はひとつだけ)



「ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある」が43.0%、「週に3～4日外出し、家族以外の人との交流もある」が21.0%となっている。

厚生労働省が定める「広義のひきこもり」に該当する可能性がある方は、「週に1～2日しか外出しない」(17.0%)「自室からは出るが、家からは外出しない」(4.0%)「自室からほとんどでない」(1.0%)を合わせて22.0%であった。

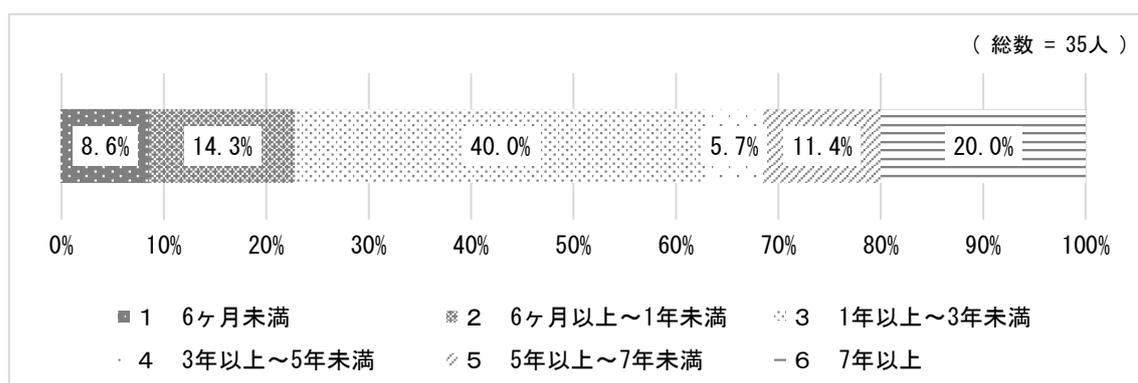
問13 問12で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。  
現在の状態になったのは、「ご本人」が何歳の頃ですか。(数字で具体的に)



問12で「ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある」「週に3~4日外出し、家族以外の人との交流もある」以外を答えた方を対象に、現在の状態になった年齢を聞いたところ、「18歳」が最も多く17.6%、「20歳」が14.7%、「14歳」が11.8%と多い。

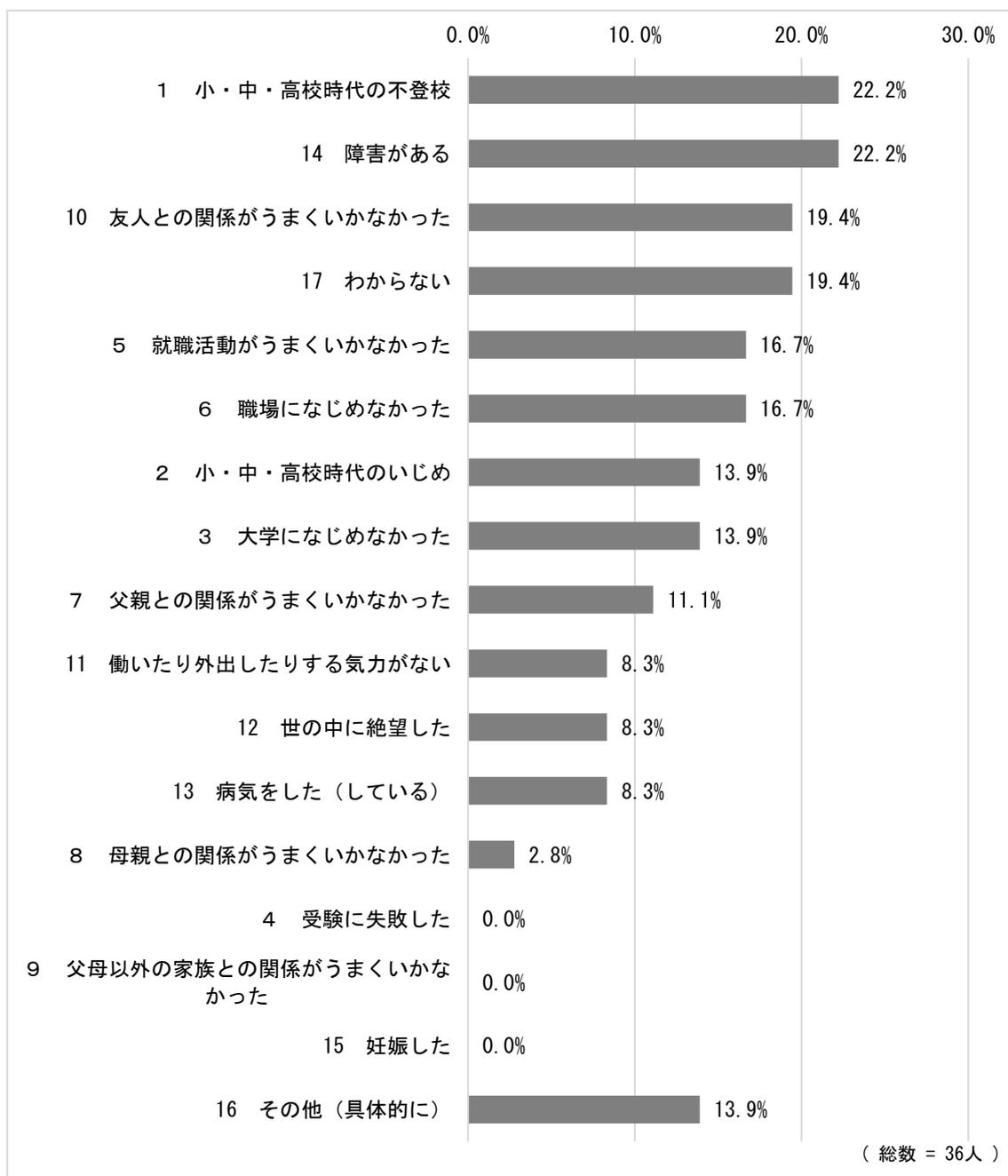
中学・高校等の入学、卒業に伴う環境の変化から1年以内に引きこもるリスクが高い傾向が明らかになった。

問14 問12で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。  
「ご本人」が現在の状態となってどのくらい経ちますか。(○はひとつだけ)



問12で「ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある」「週に3~4日外出し、家族以外の人との交流もある」以外を答えた方を対象に、現在の状態になってどのくらい経つか聞いたところ、「1年未満」が22.9%、「1年~3年未満」が40.0%、「3年以上」37.1%という結果となった。

問15 問12で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。  
 「ご本人」が現在の状態となったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)



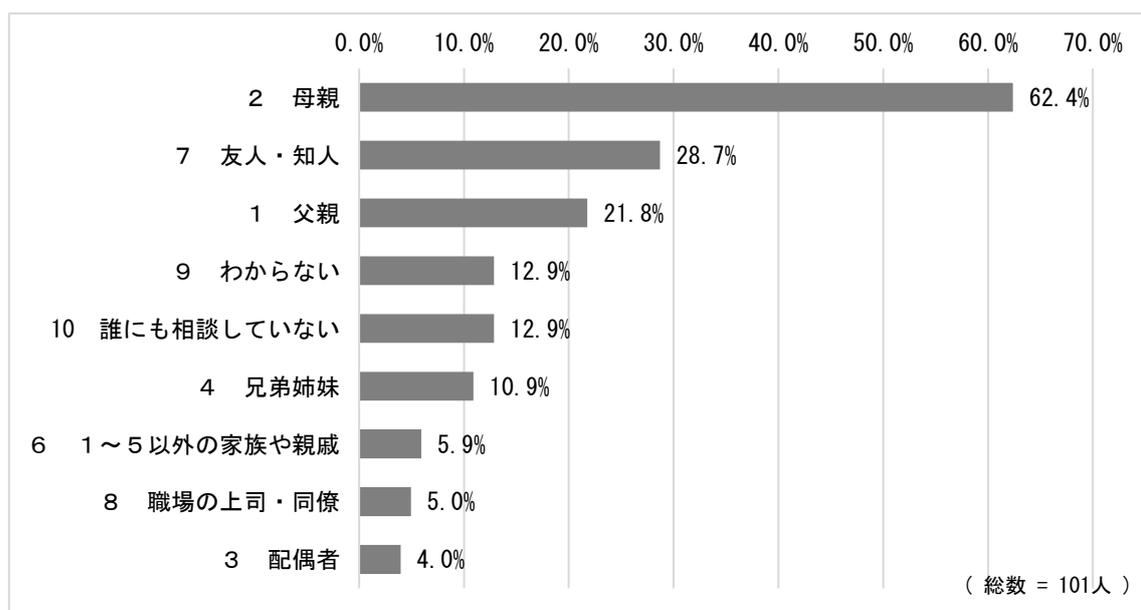
問12で「ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある」「週に3~4日外出し、家族以外の人との交流もある」以外を答えた方を対象に、現在の状態になったきっかけを聞いたところ、「小・中・高校時代の不登校」「障害がある」が22.2%、「友人との関係がうまくいかなかった」が19.4%と高い。

一方で「わからない」と答えた保護者等も19.4%いて、引きこもり状態になった原因が把握できていない状況も明らかになった。

「その他」の意見としては以下の通り。

- ・ 持病があり、たおれる日が多くなって。でも、ひきこもりでもなければ元気、必要であれば外へはいかないってだけ
- ・ 学校がつまらないから
- ・ 学生の頃から友達作りが苦手な事が多い
- ・ 受験年の高三の春に大きな病気をして進学に向けた勉強が思い通りに出来ず、たぶん自信を無くした。(不登校となる)進路に関して、色々悩み高校中退する。予備校へ行ったが、春の1ヶ月で不登校となった
- ・ 仕事を退職し、就職活動中であるが、特に用事がなければ外出せず家にいる状態です。ひきこもっている状態ではないです

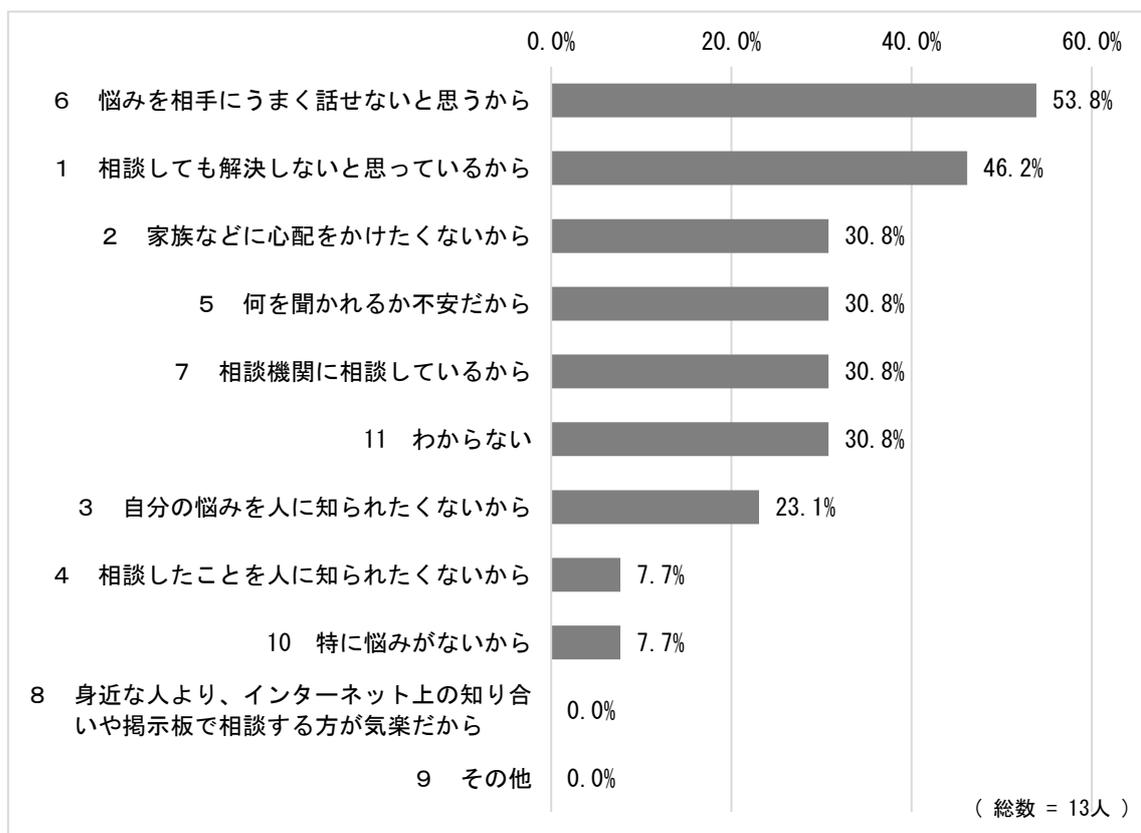
問16 「ご本人」は、日常性格や就職活動に関する悩みなどを、誰かに相談していますか。  
(〇はいくつでも)



「母親」が最も多く62.4%、次いで「友人・知人」が28.7%となっている。  
上位3項目(「母親」「友人・知人」「父親」)に関しては、本人を対象とした調査と同じ結果となっている。

Ⅱ. 調査の結果 【A調査】保護者等を対象とした調査

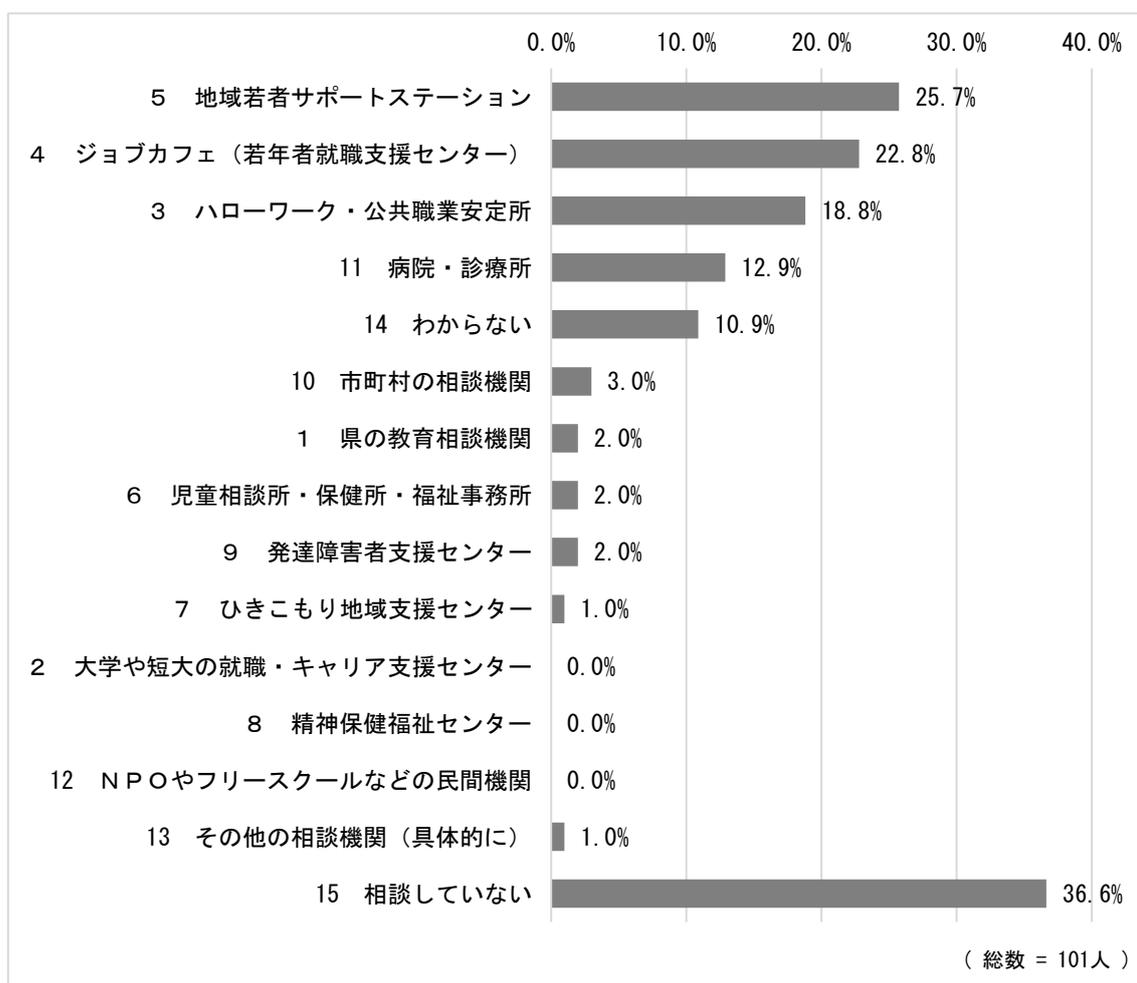
問17 問16で「誰にも相談していない」と回答した方にお聞きします。  
その理由はなぜだと思われますか。(〇はいくつでも)



問16で「誰にも相談していない」と答えた方を対象に、その理由を聞いたところ、「悩みを相手にうまく話せないと思うから」が53.8%と、コミュニケーション面が原因と思っている保護者等が多い。

次いで「相談しても解決しないと思っているから」が46.2%と高く、「家族などに心配をかけたくないから」「何を聞かれるか不安だから」「相談機関に相談しているから」「わからない」が30.8%となっている。

問18 「ご本人」は、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、相談機関に相談していますか。(〇はいくつでも)

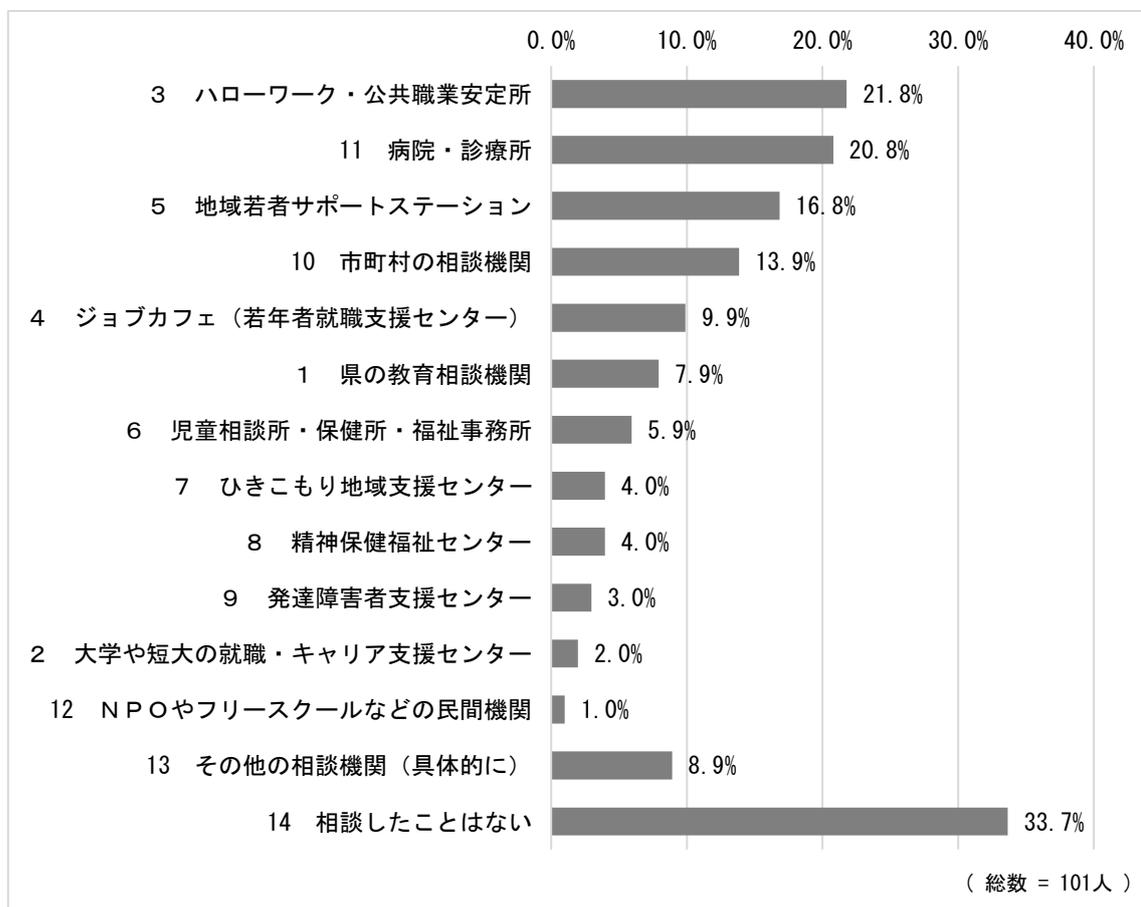


「相談していない」が36.6%と最も多い。本人を対象とした調査では「相談したことはない」が15.8%であることから、保護者等に伝えずに相談機関を活用している可能性も指摘される。

相談している機関として多いのが「地域若者サポートステーション」25.7%、「ジョブカフェ (若年者就職支援センター)」22.8%、「ハローワーク・公共職業安定所」18.8%となっている。

「その他の相談機関」としてあげられたのは「塾の先生」であった。

問19 「あなた」はこれまで、どのような相談機関に相談したことがありますか。(〇はいくつでも)



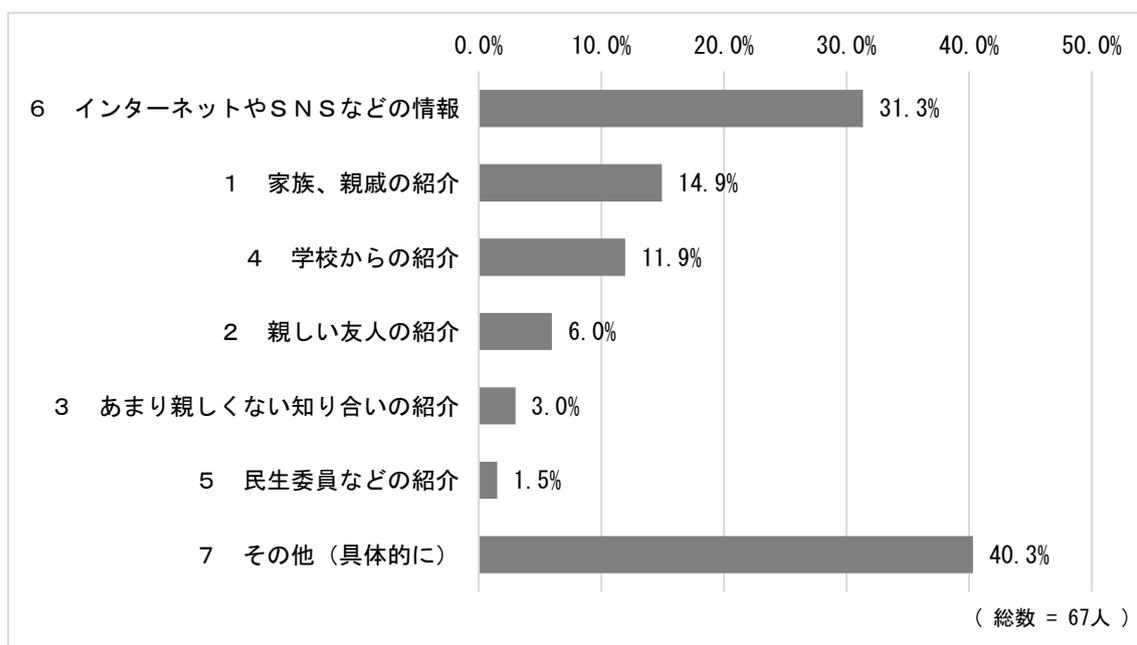
保護者等がご自身で相談したことがある支援機関を聞いたところ、「ハローワーク・公共職業安定所」が最も多く21.8%、次いで「病院・診療所」が20.8%、「地域若者サポートステーション」が16.8%となっている。

また、「市町村の相談機関」が13.9%と、本人を対象とした調査結果の5.1%の倍以上となっている。保護者等が相談する窓口の選択肢として「市町村の相談機関」が比較的上位にあることが分かった。

「その他の相談機関」としてあげられたのは以下の通り。

- ・ スクールカウンセラーの先生、塾の先生
- ・ 学校カウンセラー(合計2件)
- ・ 職業訓練施設
- ・ 大学の学生特別支援室
- ・ 弘前就労支援センター
- ・ 青森県母子寡婦福祉連合会の一般相談や法律相談
- ・ 地域活動支援センター
- ・ 市役所の窓口

問20 「あなた」は問18や問19の相談機関のことはどのように知りました。(〇はいくつでも)



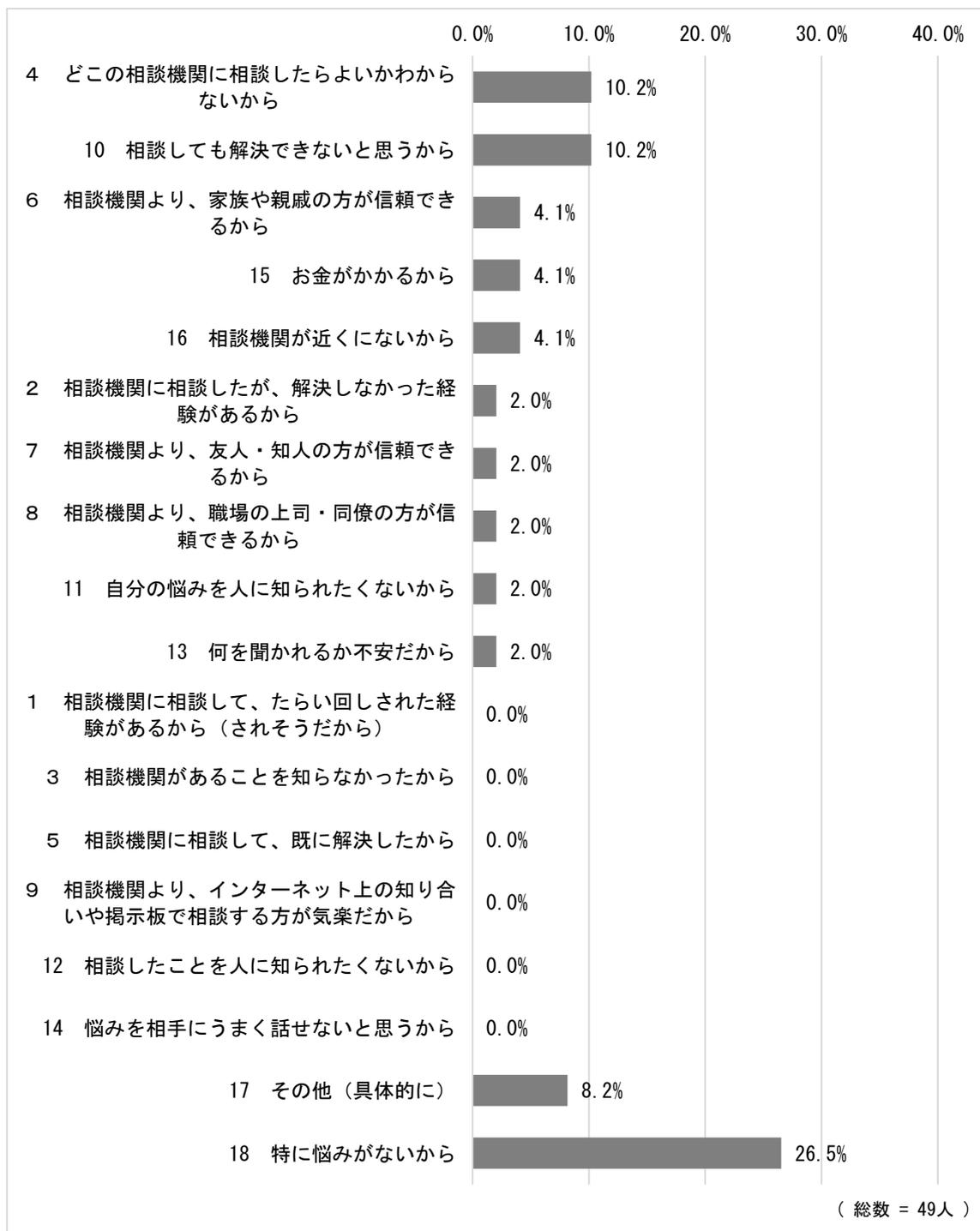
「インターネットやSNSなどの情報」が31.3%と最も多い。  
次いで、「家族、親戚の紹介」が14.9%、「学校からの紹介」が11.9%となっている。

「その他」の意見としては以下の通り。

- ・ ハローワーク（合計4件）
- ・ 病院（合計4件）
- ・ 市役所の窓口（ひとり親、生活保護、諸手続き等）（合計4件）
- ・ 職場・仕事関係者（合計4件）
- ・ 自分で探した（合計3件）
- ・ チラシ・パンフレット（合計3件）
- ・ 広報誌（合計2件）
- ・ 保護司
- ・ 社会福祉協議会での広報で「困り事…」の記事をみて本人にすすめてみた
- ・ NHKのテレビ（発達障害）
- ・ 本人の同級生の親→前病院→地域若者サポートステーション（現在）→病院
- ・ 偶然、入り口に書かれた文字を見て

Ⅱ. 調査の結果 【A調査】保護者等を対象とした調査

問21 問18で「相談していない」または、問19で「相談したことはない」と回答した方にお聞きします。その理由はなぜですか。（〇はいくつでも）



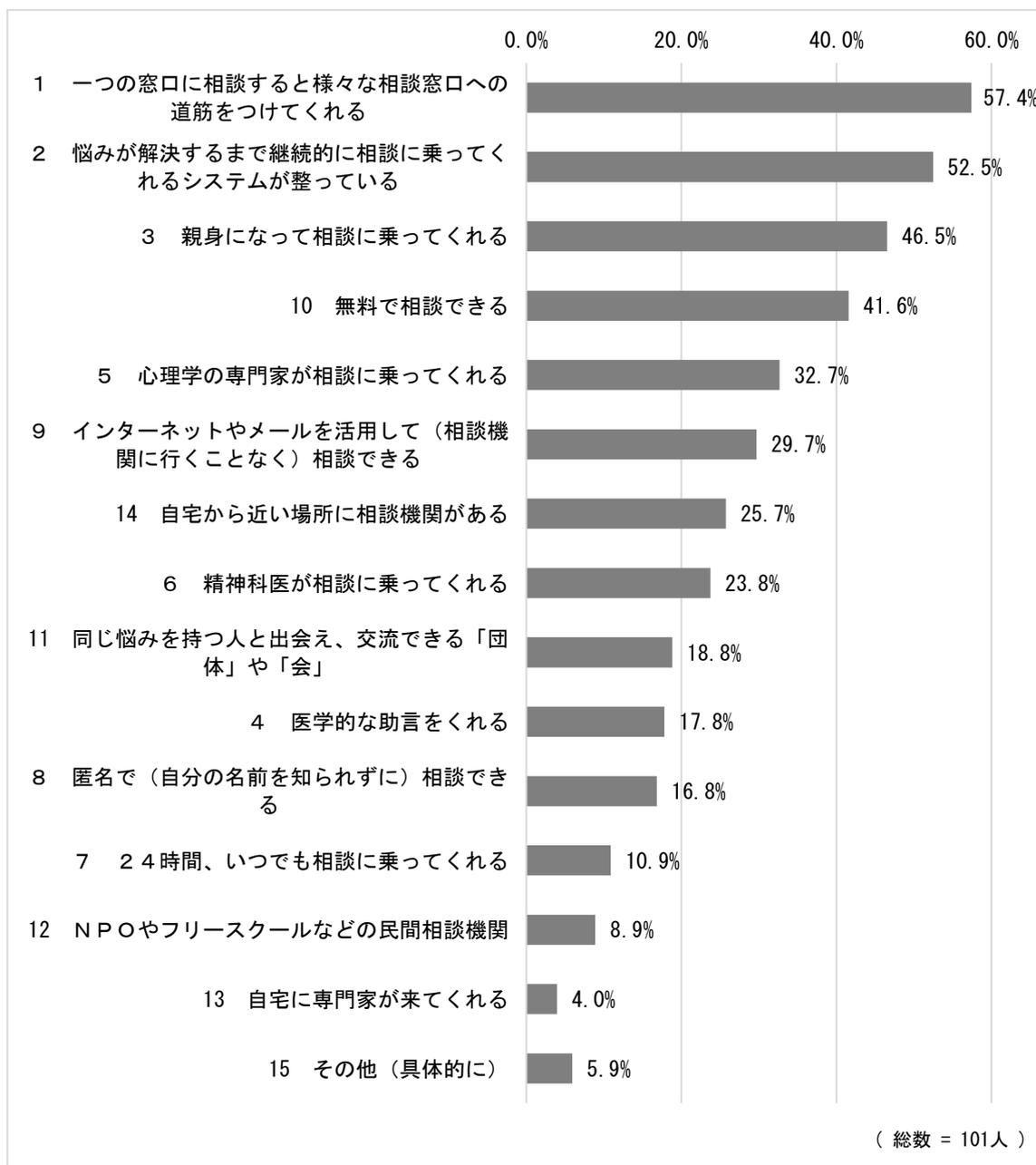
問18で「相談していない」または問19で「相談したことはない」と回答した方を対象に、その理由を聞いたところ、「どここの相談機関に相談したらよいかわからないから」と「相談しても解決できないと思うから」が10.2%となっている。

また、「特に悩みがないから」と答えた方が26.5%と最も多くなっている。

「その他」の意見としては以下の通り。

- ・ 悩みはあっても、携帯電話が友達だから
- ・ 今は様子を見ているから
- ・ わからない
- ・ まず病院で休むように言われていて、本人も活動（＝相談など）をしていて、少しずつ進めている段階かと思っている。まだ、様子を見ている最中です
- ・ 自分で結論を出す
- ・ 兄弟とも電話等で、又、職場や様々な友人とも交流があり、帰宅してもそのような様子が見られない

問22 「ご本人」もしくは「あなた」が、「ご本人」の日常生活や就職活動に関する悩みなどを相談したり、支援を受けるにあたって、今後、どのような機能があったらよいと思いますか。(〇はいくつでも)

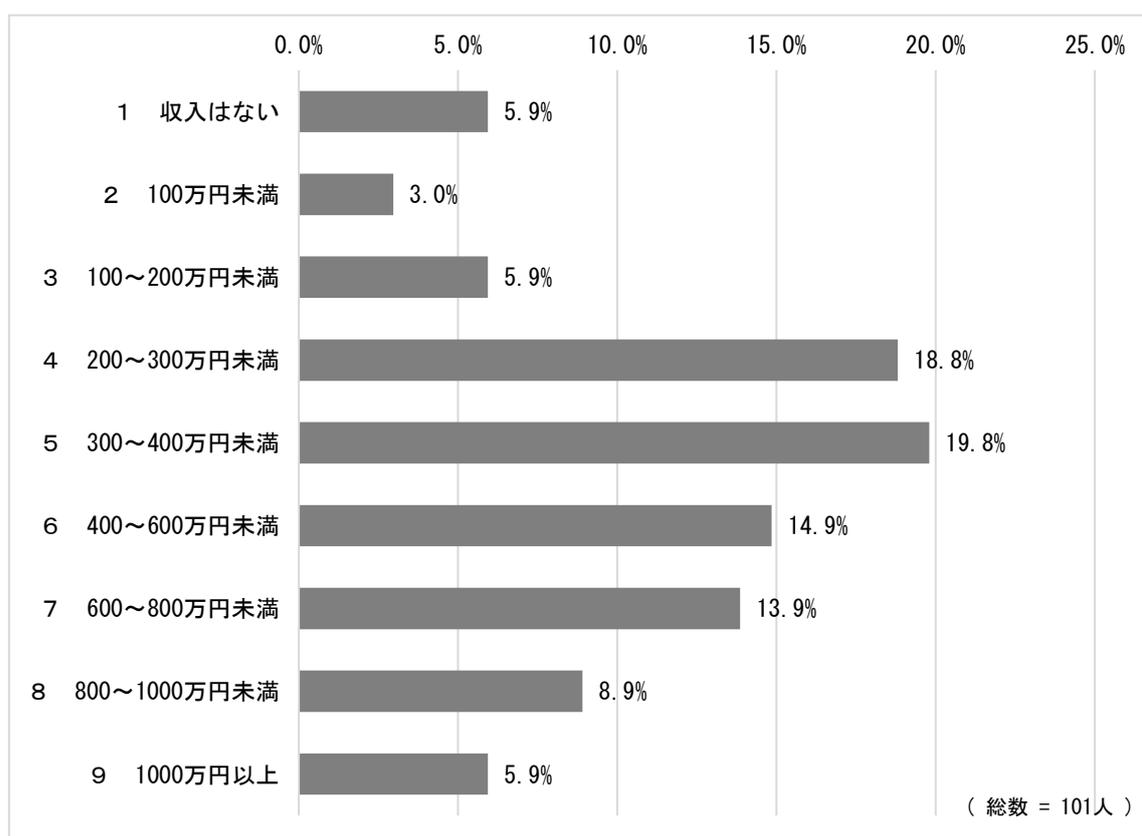


「一つの窓口で相談すると様々な相談窓口への道筋をつけてくれる」が最も多く 57.4%、次いで「悩みが解決するまで継続的に相談に乗ってくれるシステムが整っている」が 52.5%、「親身になって相談に乗ってくれる」が 46.5%、「無料で相談できる」41.6%と続く。

「その他」の意見としては以下の通り。

- ・ 身近で理解ある友人。
- ・ 地元以外の人で、知的障害など、検査もしてくれるところ。東通は全部個人情報ももれてますので。
- ・ 相談予約がなかなかとれず、1ヶ月以上先になり、困りごとがタイムリーに相談できない。予約が取りやすくしてもらいたい。
- ・ ズームなど。
- ・ 本人が信頼できる方との出会い。うちの息子はサポステの方を信頼しているので、続いている。

問23 「あなた」個人の収入も含めて、同居している家族全体では、どのくらいの年収がありますか。税引き前の額でお答えください（手取り額ではありません）。



「300~400万円未満」が最も多く19.8%、次いで「200~300万円未満」が18.8%となっている。

問24 最後に、「あなた」が「ご本人」の日常生活や就職活動に関して、感じていることや、若者を支援する相談機関などに対する意見や要望などについて、自由にお書きください。

①相談受付体制

どこかに相談しても、結局は地元の福祉課とかにまわされるのも嫌なので、本人は知的障害のことも知らないで、どこにもバレずに自分たちで、手続きなどできる場所がほしい。

本人の場合自ら相談機関を利用していても世話になってはいますが、本人を通じて思うに、もっと相談員としてのスキルの向上が望まれると思う。

相談を受ける側の資質の向上が必要と考える。

親身に相談を受けてくれる人と表面的な相談にしか乗れない人の差があるように感じる。若者の心は若者にしかわからない訳ではない。幅広い年代、人格者の相談体制が必要ではないでしょうか。

役所の窓口や保健所に行っても親身になってくれないし担当者が移動したり取り組みがなくなったりでがっかり。親も必死で何とかしたいと思っているが、当人が動かない上に前述のような状態でだんだん無力感でいっぱい。子も年をとったけど親はもっと年を取って気力や体力が失せていくのがわかる。相談窓口さえ知らない人がたくさんいると思う。

育て方が悪いとか甘やかしていると思われるのがわかるから堂々と相談できない。近所にも言えない。困っているんです。（時々子供が憎くなったりどうでもいいと思ったりどうもならないと思ったり）

（個人情報モレないようにして）相談機関によせられた悩みの内容、又、それぞれをどのように解決したかネットでみれるようになったら、悩みのもち主も参考にできるし、相談機関に足を運ぼうと思いやすくなる気がします。

民生委員に相談しても解決しなかったし何も助けてはもらえなかった。

ひきこもりは長期に及ぶものだと実感しておりますので、孤立しないためにも継続的な相談、支援を望みます。

最初の相談窓口が違ったりするとそこで途絶えてしまわないように相談窓口をつなげてほしい。親亡き後を考えると心配な事ばかりです。

職場と本人の悩みを聞いてくれる窓口があればと思う。

もっと気軽に時間も限られた時間ではなく24時間対応してくれるような機関が近くがあれば相談しやすいのかなと思います。そもそも、そんなに相談機関があるんですか？と聞きたいし、最初にどこに相談すればいいかわからない人も沢山いると思います。最初に連絡相談する場所がきちんとあれば、その後は専門員と話すなり対応できると思うんです。

発達障害の本人は家事が苦手なため、定期的に片付けに行きたいのですが、その時の気分が入り禁止にされたり、音信不通にされるので、出来ません。サポートをお願いする話になりましたが、他人が家に入ることを許さないため実現しません。本人も片付かない家で暮らしていることもストレスになり、私への八つ当たりが激しいです。

引きこもりから社会資源に繋がりましたが、個人情報や守秘義務により他機関同士の連携は難しく感じています。どうしたらより良くサポート出来るのでしょうか。

サポステの方には、本当に感謝しています。親では支えてやれなかった部分をしっかりサポートしてくれ、ずっと、続いて欲しい機関です。

最近では精神障害や発達障害、学習障害、自閉症スペクトラムなどのほか性的マイノリティの方々など生きづらさや困難を抱えている人が決して少なくないということがわかってきました。

相談機関や相談業務に携わる方々が専門的知識だけでなく傾聴や言葉がけ、相手を理解する高いコミュニケーションスキルを持つことも重要ではないかと考えます。

そのほか、関係機関がしっかりと連携して「チーム」を編成し、「支援計画」を共有し「カンファレンス」を行いながら支援できる仕組みがある（すでにあるのであれば「強化」）と思います。

また、こういった方々を支援する場合、長期にわたって支援する必要があるケースが多いため、単年での成果を求めすぎるとかえって当事者に負担になり、逆効果になることも想定されます。事業を考える場合には「長期にわたって支援するケースが多い」ことを踏まえて策定することも重要です。

## ②必要な支援サポート

時間経過とともに、本人も鬱病になるほど追い詰められるが、親も同様に追い詰められていくので、親への精神的なサポートや最低限のアドバイスも早期から必要。

今、心を病んでいる人が、若者に限らず多くなってきています。

ちょっとしたことがきっかけで、崩れてしまい、立ち直るまで時間がかかるし、家族も、気持が沈んでしまいます。家族にもよきアドバイスがあれば、本当は一緒にいい方向に進めるのでしょうか。就職をした時に最初は理解してくれる所等、紹介もふまえて教えて頂けたら幸いです。お話を聞いてくださりありがとうございます。

専門のカウンセラー（精神など）いらっしやるといいです。

具体的な解決を急がなくても、親味になって話を聞いて下さる相談員の方がいることは、「本人」にとって心強いことだと思います。話しを重ねることで解決につながるヒントがあったり「本人」の気持ちに変化が生まれることもあると思うので機会が増えることを望みます。「本人」は就職したい気持ちは持っていると思いますが、過去にうまくいかなかった事などもあり一歩が踏み出せずにいるようです。

親以外の大人の存在が必要だと感じます。

若者サポートステーションの方が親身に相談にのってもらい、感謝しています。

サポートステーションに通所して2年目。当初よりは気持ちが前向きになっているように感じる。本人はアルバイト・就活ともに未経験のため不安があるのは当然でできれば逃げたいという気持ちもあると思う。今後について「本人次第」「無理強いはいできない」というのもわかるが見守るだけでなく失敗してもいいから少しだけ頑張ってみようと思いを背中を押してほしい。親身に相談に乗ってしてくれる感じがしない。

個々の状況が異なるため難しいとは思いますが進路決定までの大まかなプログラムを作り提示してほしい。無理なく通所できるようになったら月単位で目標を立てクリアしたら次のステップへすすむなど。ゴールがみえた方が励みになる。

通所している中であまり変化がなければ他の色々なサポートシステムを紹介してほしい。

## Ⅱ. 調査の結果 【A調査】保護者等を対象とした調査

私は、21才の息子がいます。（18才～ひきこもっています。外出もせず、私が仕事で不在の時間におふろに入ったり、家の中で自由にしています。）

現在、市役所の福祉課（就労支援センター）の方に家庭訪問をしていただいて、声かけしてもらっています。

とても親としてはうれしくて、これからこの方たちにたよって相談していくことができると思っています。

最近、アドバイスのおかげで、洗たくしてくれたり、茶わんの洗物もしてくれます。少しずつ手伝ってくれるようになりました。本人はけっして訪問されることを嫌がってはいないと思っています。

大変ですが、これからも息子への声かけを続けてくれたら...と思います。

体調の波があるので、無理せず将来的に少しずつ仕事をして、日常的に働ける状態、生活していける状態になっていければと思っています。

地域若者サポートステーションに本人が行くことで意欲がもてたり、相談できることに助かっています。これからもいろいろアドバイスや相談に乗っていただき前向きになっていければと思っています。

サポステ八戸に出会えたことで、娘の人生がひらけました。障害者雇用で受け入れ体制を取ってくれた職場にも感謝しています。フラッシュバックに苦しむことが多いので臨床心理士などのカウンセリングが受けられる機関が増えると助かります。

サポートステーションの方は気にかけてくださり有難いと思っています。本人が内気なので、もっと気軽に友達のように何気ない話をしてくれる同年代の方がもしいてくだされば嬉しいです。

本人のやる気をどうしたら出せるのか。

親との話しあいつていっても、変化もなく結局言いあいになってしまう。どちらも気分が悪く前に進まない。相談をしても自分では何も決められなければ、現状は変わらない。

決断できるぐらいまでのアドバイスをしてほしい。

スピード感がなく知ったときにはもう他の人が行っていたりするので求人が出たら本人にインターネットやメールで知らせてほしい

### ③ 就職活動

夫が47才で、仙台に単身赴任しています。家族と過ごしたくて、最近、青森市での仕事を探しています。が、ハローワークが平日しかやってなく、（土）（日）に就活ができない事に、とても残念です。八戸は、（土）もやってるのにと…。さらに残念です。アスパムの方は、若い人向けなので…。やっぱり青森だから...とってしまいました。

ぜひ、改善をお願いします。

本人は仕事をしたいと思っても、希望する職種・自宅から通勤可能な求人がないのには心を痛めています。

面接の内容の話を聞いた時に感じたことは、面接者が”ひきこもり”という前提で質問をしているのでは？と考えてしまったこともありました。コロナが終息して外出する機会が増えてくれればいいのですが..

面接がうまくいかなくてもどどんいんな仕事にチャレンジしてもらいたい。

<p>自分の希望する職種につければよい。</p>
<p>社会人としての基本がネット社会によってなくなっている気がします。電話、手紙の書き方、喪中など社会に出て覚える事もあるかと思いますが、基本をしっかりと教えられる場がほしいです。</p>
<p>職場での人間関係がうまくいかず、仕事が長続きせず、先日発達障害の検査をし、自閉スペクトラム症と判明しました。正式な診断と障害者の取得には半年以上かかるので動けずにいます。手帳取得後のことを考えて、障害者の求人もネットなどで探していますが、数が少ないのであまり希望も持てないな一と感じています。本人は、今、サポステさんの講座や、資格の取得などの勉強をしてるので、成果が実ることをいのるしかない日々です。</p>
<p>本人が地元で働きたいという思いが強いのですが、なかなか仕事を探そうとする動きにならず、心配しています。</p> <p>手先も不器用で、動作もゆっくりな方なので、本人は急いで仕事をしているが、仕事先で「やる気がない」と言われてしまったそうです。本人にどんな仕事ができるのか、相談機関でアドバイスをいただけたらと考えています。</p>
<p>希望する職業が見つからなかったり、自分の希望する条件と合う職場が見つからない。</p>
<p>本人が希望する職種が現在住んでいる町村では少ない事。いつも同じ求人のところしか募集していなくて、働く事にやりがいを感じていないのでは、と思います。</p>
<p>就職場所の開拓を進めてもらえるといいと思う。</p>
<p>障害者雇用で働く場所はある様ですが、地域性もあるのかもしれませんが、いろいろな業種、職種で引き受けてもらえる様に、求人の枠を広げてほしいです。</p> <p>精神障害、発達障害との診断を受けている若者が多くなっていますが、その人達がやりがいを持つことができる場所が必要だと思います。</p>
<p>私は子どもの行動等が性格によるものと思っていましたが（片づけられない、時間を逆算して行動することができない、持ち物のチェックを何回もする、してもすぐ不安になってまたチェックする等）子どもが生きづらさを感じて、心療内科を受診した際、発達障害と診断されました。性格的なものではなかったんだとある意味ホッとしたりしましたが、それはそれで大変なところではあります。本人は投薬治療を行いながら就職をしていましたが、自分の型からはずれたりされると、とてもイヤがったようです。仕事の応用がきかないのだと思います。やり方が何通りもあったとしても恐らく1つのパターンでしかできなくて、別のパターンとかだと対応しきれずにイライラしたりカンシャクをおこしていたようです。（帰宅時まっすぐ自室に行き大声で泣き出したりしてました）感情の振り幅が大きくて、自身でももてあましているところもありました。人といっしょに仕事をするのが、人とかかわっていく仕事が本当に苦手のようです。パソコンだけ打っていたいような事も話したりしてましたが、そう都合のよい職場などあるはずもなく、ただ、まったく新しく仕事を覚える事に関しては、時間がかかるのだと思います。マニュアル等”読む”という行為も苦手というより、むずかしい方に入っているからです。今までやってきた事とあまり違いのない仕事をさがしていますが、なかなか見つけるのはむずかしい現場です。</p>
<p>本人が、現在どのような職種に就きたいのかも分からない状態です。</p> <p>焦って、興味のない仕事に就くことはないのですが、働いてみて、その仕事が好きになることもあるので、早く定職に就いて、一人で生活できるように移行してもらいたい。</p>

④ 周知・広報

スクールカウンセラーの先生と出会うのが遅すぎました。  
息子の気持ちが不安定で相談機関すら知りませんでした。  
本を読んだり、ネットで調べたり不安な毎日を送っていましたが、我が家のように、このような事がないように相談窓口がわかりやすくあれば良いかと思います。雑字で失礼いたします。

今の所は自分で模索しながら生活していますが、正直自分が住んでる市町村や県の中に行政や団体でどんな所があるのか見えていない人が多いと思う。どんな所にどんな窓口があるのか、どんな手続きや流れがあるのかを理解することが出来る冊子とかあればいい。色んなチラシ等が行政機関や施設に置かれていても、結局自分たちが探して歩かなければ気付く事も出来ない、悩んで動く事も出来ない人達は救われない

我が子も含め若い人は、相談機関のことも知らなかったり、自分から相談に行こうと、なかなか思うことが無さそうなので、まずは若い人みんなが参加出来るようなイベント的な物で相談機関を知ってもらい、相談しやすい環境が出来るといいのかなあと思いました。

私自身は、保健センターの臨床心理士さんに相談に通い、数年、大変お世話になりました。息子は、数年引きこもりでしたが、心理士さんの勧めで私が持ち帰ったチラシでサポステに興味を持ち、市民ホールで行われた相談会に勇気を出して参加したのをきっかけに、そこで対応してくださったサポステのスタッフに心を許して、信頼できる方に出会えて、どんどん前進しました。

⑤ その他

教師の人間性を深めてほしい。児童の人権について勉強してほしい。教師という仕事に、自覚と責任を持ってほしい。

各中学校を監査して、保護者からの意見も教育機関に直接周知できる機会をつくってほしい。保護者が「先生」と呼ぶ体質を考え直して欲しい。

今は通信制の高校へ通っています。中3の終わり頃、知的障害といわれました。  
3才の時から、軽度発達障害といわれむき合ってはきました。中1の時にてんかんも発症し、中3の12月からは、ひんぱんにおこりました。  
多重人格だのいろいろあってその時はとても心配してましたが、今でも、自分の闇は、あるのだと思います。元気ですが、家にいることがかいてきだと思っていて、こっちがイライラします。

ありそうですがどう伝えればよいのか、もしかしたらないのかもしれない。  
今は心の余裕がないのでかけないです。すみません。

本人の我慢が足りないと思っているが強く言ってしまうと精神的に、病んでしまうので強く言えない。  
どうしたら良いか、わからないので自由に好きに過ごさせている。

何を考えているのかわからない。

息子のこれからの人生が楽しく働ける場所が見つかるとうれしいです。

調査結果を若者自立支援にしっかりとつなげてほしいです。

このような子供をもつ親としては、将来の事がとても不安です。本人も、不安を感じていると思います。出来る限り、社会とのかかわりを増していきたいと考えておりますので、このようにご支援いただいている皆様には、とても感謝しております。ありがとうございます。

本人の相談には何度ものっていただいており、大変感謝しています。逆に何度相談へ通っても本人のかたくなさから、なかなか新しい一歩が踏み出せずにいて、親としては申し訳ない気持ちになってきています。

この先どうしていいのか本人、親共に困っていて、出口のない暗いトンネルに入り込んでしまったような思いで、時間だけがただなんとなく過ぎてしまっているようです。具体的に本人が就職へつなげられるような手立てはないものかと考えております。本人の心に響く何かが難しいです。

(問22 本人の自立にまかせていた、精神的に障害があると言われても中々受け入れる事が出来ずに対処しなかった。)

何をやるにも失敗したらどうしよう...と繰り返し前に進まない。

親の意見も聞かないし、否定的な事が多い。

親も高齢化して来ており何とか自立出来る様相談して行けたらいいと思う。

自分の本当に好きなことや、やりたいことを見つけて、これからの人生に役立てられるように、今は何でもやってみれば良いと思っているし、やって欲しいです。

その為には今は、生活面での援助はしてあげようと思っています。

Ⅱ. 調査の結果 【A調査】保護者等を対象とした調査

## 【B調査】

県内の相談支援機関を対象とした調査

県内の相談支援機関（公的機関・民間機関）に対し、下記についてアンケート調査を行った。

問 相談を受け付けていて感じる、相談者の状況について

① 子ども・若者について

自由回答で寄せられた内容としては「特性や障害からくる困りごと」「コミュニケーションや関係構築に対する能力の不足」「家庭環境（親子関係）からくる課題」が多く、それらが自尊感情や自己肯定感が低下している背景にあることが想定される。

また、子ども若者が「社会（大人）に対して不信感を抱くような環境」が多く、そのことが「社会に対する無関心や無気力感」を醸成してしまっている可能性も指摘できる結果となった。

a. 子ども・若者自身の意識や行動について
誰にも悩みを相談せず孤立している子ども・若者が多い。
まだ起きてもないことを不安に感じ、行動できない。
物事を見る時、マイナス面だけにとらわれがち。その結果、行動が起こせないでいる。
失敗したくない方が多い。
中々、社会との接点を持つことが難しい。
親や社会に対して気をつかいすぎている。
活動したいが、居場所や外の目が気になって気にせず行ける所がないだけで、気力がないわけではない。
長期間離職している、就労したことがないなど、就労に不安がある。
家庭内依存が長期継続し、社会から疎遠となり、社会へ無関心になっている。
自分の意志ではなく、親の考え意見を受けて職業選択している。
「働いた方が良い」とは思っているが、働く必要性に迫られておらず(親と同居しているため働かなくても生きていける環境にある等)就職活動に必死にならない。
転勤はしたくない、家から通いたい。
親への依存しすぎる傾向がある。
低学年の子ほど、発言に親の顔色をうかがう。
窓口において職員との相談時、相談者のコミュニケーションの不足が目立つ。それが面接時などで障害になっているおそれがある。
社会からの孤立しており、適切な相談相手に相談することができない。（しない）
目的を共有しない無意味な集団形成。
大人への不信感を持っている。
大人に対する不信感が強い。
大人より社会に対して、鋭い観察眼を持っている子が多いが、たいていその発言を学校などでは良くとらえられないので、自分の意見をいわないようにしている子が多い。安心すると、のびのび自立した意見をもっている。
社会への失望、無関心。

II. 調査の結果 【B調査】県内の相談機関を対象とした調査

職場の人間関係や雰囲気合わない、自分のやりたい仕事ではなかった、仕事がつい、労働条件に不満がある等を理由に離職する方が多く、仕事に対するイメージや意欲が低下していると感じる。
就労の不安定化により社会との繋がりを持つ期間が少なくなり、孤立化している。
自立しようという意欲、就労意欲が低い。(正社員ではなく、パートやアルバイトで良い等)
自立に向けた意欲に欠ける。
自立しようという意欲がない。
将来、またちょっとした先のことを想像することができない。
途中でかかわりを切ってしまうがち。(諦めてしまう)
社会と疎遠になっている意識を持たず、社会に対しても無関心。
将来の展望を見出せない若者が多く見られる。特にやりたい仕事や目標があるわけでもなく貯蓄がなくなると短期の期間雇用で就くという、その場しのぎの不安定雇用を繰り返している。そのことについて本人も不満や不安を感じていない様子が見られる。
パートでも良い、何かあったらすぐ辞めるなどの考え方が多い。
お金に対する欲がない、又はお金は欲しいが残業はしたくないし、休みもしっかり取りたい。ガツガツ働きたくない。
しばらく就職活動の動きがなく状況確認の連絡をすると「特に何もしていなかった」という若者が意外に多い。
困り事として捉えることができない。
生活苦になると、借入すればよいという考えで、借入したお金の返済のことまでは考えが至らない。
課題等を自覚していない。自覚しても、解決へ向かず、問題を先延ばしにする。
危機感がない。
相談機関や各種制度について知識がない人が多い。
就職先(応募先)を簡単に決めてしまう人が多い。
学歴のプライドが高く、経験、知識に見合った職業選択ができない。

**b. 心身の健康状態等について**

乳幼児期に心の愛着が十分に形成されなかったことが原因と思われる子どもの問題行動が、増加傾向にある。
家庭内に相談できる人がいない、疎遠となり連絡を取っていない。
本人又は家族が支援拒否状態になっているケースがある。
親とのコミュニケーションが不足しており、家庭内での居場所が自室のみ。
家族間のコミュニケーションが不足している。
家族への依存が長期化し、社会参加への意欲や自立心が弱くなっている。
ひきこもりの子どもが親へ暴力をふるっている。
家庭環境により、子どもが不適應をおこしているケースがある。
幼少期からの親子関係不良、愛着障害等の影響から他者とのコミュニケーションが苦手な子ども若者がみられる。そこから、不登校やリストカット、暴力に繋がっている。
親が小遣いを与えている。

<p>兄弟が不登校となり、しばらくして弟妹も不登校となる連鎖が確立的に大変高い。</p>
<p>家庭での存在感が小さい。</p>
<p>過去にいじめられた経験が心の傷として深く残っており、人と関わることへの恐怖心や不安感が強い。</p>
<p>過去の失敗やトラウマ的出来事が心の傷となり、人や社会と関わることへの恐怖心を抱いている。</p>
<p>学生時代、いじめや学力の低下等によりつまづく子どもがいる。</p>
<p>それまで学校において成績が上位にあり、学級でもリーダー的存在であった子が、ちょっとした挫折感から立ち直れず不登校となる事例が多い。</p>
<p>常に人の反応が気になる。</p>
<p>障害に関する情報がネット等で容易に収集できる環境になり、自分が苦手なことや生きづらさの理由として「障害をもっているのでは？」と不安になっている。</p>
<p>自覚はないが、特性を持っている方が増えているように感じる。</p>
<p>発達障害の傾向が疑われるが、診断がついていない相談者が増えているように感じる。</p>
<p>潜在的な障がい疑い、家庭環境に起因して社会との接点が無くなる方が多い。</p>
<p>加えて、そのような背景要因から失敗経験を積み重ね離職につながってしまう。</p>
<p>自分なりのこだわりがある。</p>
<p>一定数、傾聴（話を聞いてもらうこと）を求めて電話相談を月1～3回程度繰り返す人がいる。</p>
<p>その子をもつ個性特性について配慮や支援がなされないまま学校生活を送ってきたことによって「心の疲れ」が蓄積し、学校生活への不適應となるケースが見られている。</p>
<p>内面的エネルギーが少なく、様々な面で意欲に乏しい。</p>
<p>発達障害等の発達上の特性をもつ不登校児童生徒の保護者からの相談が増加傾向にある。</p>
<p>発達障害が疑われるケースが目立つ。</p>
<p>被害者意識が強い。</p>
<p>自分中心であることが多い。</p>
<p>発達上の問題や精神疾患、障がいを有しているケースが見られる</p>
<p>障害等を有し、その特性により社会、日常生活に支障をきたしている。</p>
<p>他人と比較して、自分を卑下する。精神の不安定さ。気分の浮き沈み。</p>
<p>無理に仕事を続ける事により、うつ気味うつ病となる人がいる。</p>
<p>社会生活を送る中で疲弊し、外に出ていくだけのエネルギーがなくなっている。</p>
<p>起立性調節障害を発症している子どもが増加。</p>
<p>インターネットやゲームの長時間利用による、生活習慣の乱れや様々な能力の低下。</p>
<p>ネットやゲームへの依存についての相談増加。</p>
<p>ゲーム依存の問題。</p>
<p>自室にこもり、1日中PCや携帯を操作して生活している。</p>
<p>ゲーム依存。（個人ではなく、大人を交えた集団で行うゲームに参加し就寝時間が遅くなり朝に起きられず、登校できないケース）</p>
<p>ゲームに依存し、やがて昼夜が逆転してしまう子が多い。</p>
<p>深夜までネットゲームやSNSに熱中し、学校生活に支障をきたす。</p>

## II. 調査の結果 【B調査】県内の相談機関を対象とした調査

生活リズムの乱れ（基本的な生活習慣が身につけていない）
自分自身の悩み困り事に向き合えず、相談する気持ちを吐露できずにいる。
自立しようという意欲がない。
社会とのつながりが希薄で悩みを相談する相手（機関）がなく、自身で抱え込んでいる。
自傷行為、自殺企図相談の増加。
職場の人間関係や家族関係の悪化などにより自殺念慮等抱いて相談するケースも多い。

### c. コミュニケーションスキル対人関係の状況について

対人関係でのコミュニケーション能力の不足就労意欲が低い。
対人関係、コミュニケーションに不安を感じている。
兄弟、親など、家族間でもコミュニケーションがとれない。
対人・家族間のコミュニケーションが希薄化している。
対人関係への強い不安を抱えているケースがみられる。
対人関係がうまくいかない。
コミュニケーションスキルが身に付いていないことが多い。
幼少期から、ゲームやネット社会などで過ごすことが多く、対人コミュニケーションが少ない。
生徒同士の関係が崩れた際に自分で関係を修復できない。
高校に入学してからも、学習面や人間関係に悩み、相談に訪れる子や中退してしまう子も見られる。
他者と関わることについて不安が強く、信頼関係を築けない。
コミュニケーション能力が劣っている。
家庭でのコミュニケーション不足。
対人関係を築いたり、その中で生じた葛藤を解決する手段を持っておらず、一度不適応が生じると、なかなか解決に向かいにくい印象を持っている。
親子共々、社会から疎遠になっていて、コミュニケーション力が低い。
コミュニケーション不足等を起因として、自立しない、というよりも自立する方法を持たない子どもが多いのではないか。
社会生活（集団生活）を苦手とする傾向がある。
集団不適応（人の視線や集団に対し、恐怖や圧迫感を感じる）。また、相談員など大人とは普通に会話できるが同年代の子どもとコミュニケーションがとれないケース。
集団との人間関係をうまく構築できない。
自分の困り感をうまく言語化できない。
人のアドバイスを受け入れる能力が弱い。
自分の弱さを出せない、本当の姿を出せない。
自分の感情を直接言葉で相手にうまく伝えられず、望ましい人間関係を築くことができない。
発達障がい背景にも起因するコミュニケーション不足の生徒がいる。
ネットゲームやSNS等、バーチャルなつながりはあるが、現実（リアル）でのつながりが希薄。

**d. 社会的自立に必要な能力等について**

自己決定して挑戦することの経験不足からくる自信の無さ。
自己肯定感が低い。
成功体験不足。（逃避傾向が強い）
”学校にいけない” ”就職できない” ”仕事を続けられない” そんな自分は「ダメ人間」と、自己肯定感を下げているケースが多い。
自尊心や自己肯定感が低い。
当センターは、課題解決に向けて、子ども自身が自ら持つ力に気づき、「自信」や「自己肯定感」を高めていくことができるように、様々な角度から支援に努めているが、子どもが主体的に問題解決に向かうには困難を伴うこともある。
自己肯定感が低い。
失敗への恐れが強く、自己決定ができない。
親の言いなりに過ごしてきた為、自力で考えられない。
依存や発達のアンバランスなどから、様々なことが備わっていない。
将来を考えられずに今しか見えていない為、自立の考えを醸成出来ていない。
年齢相応に社会性のスキルが身に付いていない。（あらゆる面での経験不足）
保健所に相談があるような精神障害者においては、収入等を得るため就労を希望してアルバイト等を初めても、人間関係や就労条件、体調等によって長く続かずに数か月で辞めることもあり、また就労と退職を繰り返すようなケースもある。
中学校時代に不登校の子が、本人の意志で進学も就職もせず、社会から疎遠となっている。

**e. 相談内容について**

本人の自己認知支援がされていない。（自分の得手・不得手・生活の工夫等について、学ぶ機会がない）
核になる支援機関を有していない相談者が多い。
ライフスキルの課題。
コロナ禍の問題。
7040の問題。
ピアサポート（当事者会）が少ない。

**f. その他**

義務教育を終えた時、関わる機関が少なくなる。
子どもへの虐待による劣悪な養育環境や子どもの特性に配慮した適切な関わりの不足等から年齢相応の発達が育まれず、社会的自立に繋がりにくい側面がある。
家庭環境等の悪影響により、育成や日常生活に支障をきたしている。
保護者の無理解により、早期対応ができず深刻化しているケースが多いため、状況改善にかなりの時間を要する。または、状況改善がかなり難しい。
卒業後、半年～1年程経過してから相談にくるケースが多い。
特別な配慮が必要と思われる児童生徒が不登校となった場合、周り（学校や家庭）が児童生徒に一般的な生活を求め、児童生徒がより苦しい状況となる。

II. 調査の結果 【B調査】県内の相談機関を対象とした調査

不登校やひきこもりに対する支援機関、又は学校以外の選択肢が少ない。
家庭、学校等のほかに居場所がないケースが見られる。
万引き等の非行、不登校といった問題行動の裏側にある原因を取り除くためには、子どもが抱える問題を受け止め、理解してくれる大人の存在が必要であるが、親を含めて子どもの周囲にそのような対応ができる大人が少なくなっている。

② 子ども・若者を持つ家族について

自由回答では養育者の過干渉、価値観の押し付け（ハイパーペアレンティング）、養育者が子どもに対して不適切な関わり（マルトリートメント）を行っている事例や、養育者自身が障害や精神疾患を持っている事例が多く寄せられている。

また、家庭内でのコミュニケーションが少ない傾向も明らかになった。

a. 家族の意識や行動について
子どもの意思を否定。親の価値観を押し付ける。
親が自分の価値観を子どもに押しつけようとする。
親の考えを押し付け、子どもの話を聞かない。
親の考えを押しつけ、子どもの話（考え）を聞こうとしない。
親の価値観を子どもに押しつけ、子どもの話を聞こうとしない。
自分の判断で考え悩んで行動するところを、親が先回りして行動する。
過保護、過干渉、先回りしてしまう。
過保護・過干渉により、子どもをある意味で支配しようとしたがる保護者が多い。
過保護、過干渉又は放任の親が多い
親の成功体験や価値観を押し付けてしまう。
子どもの思い気持ちを聞く機会を避けている
過干渉自身の子どもの特性を認めない。
必ず公務員になって欲しい。
必ず〇〇職に就いて欲しいなど。
親の考えを優先させ、子どもの意見を押しさえつけようとする。
親と一緒に来所した際に、本人ではなく親が主体となって話を進めることが多い。
親に任せてしまい、本人の自主性を疎外している。
子どもの就職に焦りを感じ、過干渉となる親がいる。
若者の相談者の場合、親同伴で来所することがあるが、親が主に話して、若者から話すことが少ないというケースは結構ある。
過保護過干渉又は放任の親が多い。事業所や職種について親の介入が強いケースが見受けられる。
子の能力を過信し、能力以上の職業をすすめる、又は能力がないと決めつけ本人の意志を摘んでいる。
子がパートや臨時の仕事からでもやってみようと思っても親が正社員でないとダメと言う。
子ども本人は気にしていなかったが、母親が子どもの勤務時間など細かくチェックし、子どもが働いている職場に指摘するなどしてしまい、子どもが働きにくくなった。

過保護、過干渉の親がいる。
子どもを自分の尺度価値観で判断しようとする親が多い。
子どもの価値観と親の価値観の相違があり、その違いにより親子それぞれが苦慮されているように感じる。
子に聞いているのに、親が全て話してしまうパターンが多い。（そして過干渉）
エネルギーが低下して引きこもっているケースに対し、エネルギーを高めることよりも、とにかく外に出すことが解決だと考えている親がみられる。
話をきいたり、頑張りを認めたり、気持ちを共感するなどの自己肯定感を高める関わりをせず、“就職しようとしないうちはダメ”と逆効果な関わりをするケースがみられる。
親の価値観を押しつけ、子を一人の人間として認めず、信頼関係もない。
過干渉、無関心等、子どもとの適切な関わり方が分からない。
子どもの問題に介入しすぎる親が多い。
親子が相互に依存し、自立を妨げている。
親の考えはあるが子に気をつかえず強く言えない。
「解決ありき」を求める親が多い。親が子との関わりを見つめ返さない。
知らず知らずのうちに、親の存在がプレッシャーになっていることもあるが、本人の向かう先や希望など今後の具体的な支援の見立てを立てることで、家族は最大の理解者となり得る。
暴力等があっても、「大事にしたくない」と警察への相談をためらうことが多い。
家庭内の風通しが悪く介入を嫌がり、子どもの言うとおりになってしまうている。
子の為にと相談を続けたり、経済的に援助をする家族の接し方が、結果的に過保護になっ てしまっているが、その関係から抜けられずにいる状況にある。
極端に子どもを擁護し、親独自の判断で治療方針に影響が出ている。
共に生活はしているが、コミュニケーションをとらない。
子どもから「信頼できる大人」や「ロールモデル」として見られてない。（関係性が希薄）
子どもとの関係性に悩み、疲弊している。（例：カサンドラ症候群など）
親子の思いがすれ違っている事に親が気づけていない。
親がいると話しにくい。
”不安や心配なこと” ”将来について” など、大事な話が親子間でなされないまま、状況が停 滞しているケースがみられる。
家族の本音を本人に伝えることができない。
親は就労を目標としている方が多いが、必ずしも子と同じではない家庭が多い。
子どもと適切なコミュニケーションが取れていない。
子どもとしっかり話合いができていない。
身近に相談できる人がいない。（誰に相談すればいいのかわからない）
※特に最近増加傾向にある性に関する相談について
世間体を気にし、他人の力を借られずにいる。
世間体を気にして誰にも悩みを相談せず、抱え込んでいる親が多い。
親が世間体を気にして、進路を含む学習面や学校生活について、不登校児童生徒をより一層追 い込んでしまうような対応をしてしまう。

II. 調査の結果 【B調査】県内の相談機関を対象とした調査

地域特性によるものであるが、世間体を気にするあまり相談に繋がりにくい。（ご近所間での情報が漏れやすい、支援機関が関わることの恥ずかしさ等）
解決（学校へ行くという意味ではなく、子どもの安定や関係の改善）にむかわないタイプの家庭は「世間体」を優先して、子どもの本心は気づかない親が多い。
子どもに聞いても先に答えようとしてしまう（守る感覚が強いが、おそらく批判、傷つくような対応をする機関が多かったからだと思う。話していくなかで安心してもらえると、子どもに発言させるようになる。）
子に対して甘く、なんでも「仕方がない、自分が生きているうちはそれで何とか」と思い、何もせず放置していることが多い。
無関心放任。
ネグレクト。（またはその傾向）
生活習慣や家庭のルールが確立されていない。
発達障害の疑いがあるが、検査やしかるべき機関と相談をしない。
コミュニケーション等に課題があり本人も困り感は自覚しているが、親が受容できていない。その場合、医療機関への受診等が困難になる。
障がい疑いが強まった際に、本人親の受容に時間がかかることも多い。
子どもの障害について受け入れられないために必要なサポートにつながらないケースがある。
お子さんの発達障害を認知しない保護者もいる。
保護者が子に適切な医療受診をさせていない。
子どもの健康（発達、疾患、障がい）への無関心、無理解。
他者に批判的で攻撃型の親が増加している。
校内暴力が頻発していた世代が親世代になり学校や教師に対して不信感をもっているケースも散見される。
学校でのトラブルにより子どもが不登校となったときに、すべての原因を学級担任や友達、そして学校体制におき、自分の子どもにも問題がなかったのかを振り返ることができない保護者が多い。
相談に来る保護者の中には、子供の状況改善を願いつつも、どうしても原因追求や学校等の対応への不満に気持ちが向かい、子供へ悪影響となるケースもある。
本来協力者であるはずの学校（教職員）に対して、敵対的な意識をもち、保護者の方から信頼関係を崩してしまうケースも多いため、状況改善のため必要不可欠な学校との協力関係構築が難しい。
保護者自身が、同じ経験でつまづいたりしていることがある。
親も言葉にして相談することができない。
子どもを思っていることであるが、世帯の収入にあわない生活をして、不足した生活費を借入して乗り切ろうとする。家計管理ができないが、困り事としての認識が薄い。
兄弟で差をつける（特に末っ子長男）ことが多い。
支援機関に相談することはできても、相談後に現状を変えるための行動がないかとれない。
関係機関との危機感に温度差がある。
両親又は祖父母などの家族間で共通理解していないため、対応が異なる。
率直な思いを話すことができる機関が少ない。
子どもより自己愛が強い親がいる。

一人親の家庭や、夫婦間での連携がみられないため、母親（時には父親）一人で悩んでいる場合も多い。
保護者自身がメンタルの問題を抱えているケースもあり、子供に少なからず関係している。就労が不安定。
子育てに対する親の自覚と子の課題に対する考え方や根気を含めたスキル不足。
親自身の生育歴が、子に反映している場合も少なくない。
特に父親が子どもや母親に対して自信が持てず、言葉の暴力などで支配しようとしている。
親の離婚により、家庭内での人間関係が円滑ではなくなっている。
相談する保護者の大半は母親であり、子育ての中心となっているが、家庭内でも相談できずに電話するケースが見受けられる。
保護者の養育能力の低下。
孤立して、高齢化する家族が多い。
子どもの問題に疲弊している。

#### b. 心身の健康状態等について

親に精神疾患がある為、子どもも精神的に不安定に陥りやすい。
メンタル面で落ち込んでいるひとり親世帯が親の影響を受けて子どもも精神的に不安定となりやすい。世帯全体でメンタルケアが必要となる。
精神障がいへの理解がない。
保護者自身が精神疾患等を抱えているケースが増えている。
愛着障害が見られることが多い。
親や兄弟が精神症状、人格障害に対する対応方法がわからず、困って相談に来るケースも多い。また、そういったケースは子供自身も病識がないことが多い。
精神疾患や障害を有する親が適切に子どもの養育をすることが難しい。
親の能力の問題。（知的、発達障がい等）
親の病気、障害による家庭の機能不全。
親が子どもの障害受容、理解に乏しく、適切な養育が難しい。
子どもの医療的ケアや療育的支援の資源が乏しい。
起立性調節障害など特有の障害が多く、誰にも相談できず悩んでいる。

#### c. コミュニケーション対人関係の状況について

親子間でのコミュニケーション不足。来所時にそれぞれ正反対の意見を言い合っている。
子どもとコミュニケーションがとれない。
親の考え方の押し付けがあつたり、どちらもコミュニケーション能力が低く、放任主義や共依存も多い。相談自体が面倒となっている。
子どもとのコミュニケーションが不足している。
本人とのコミュニケーションがとれない。
子とのコミュニケーションのとり方(声のかけ方や接し方)に難しさを感じている。
子どもへの関わり方に悩んでいる保護者が多い。
子どもとのコミュニケーションがとれない。

## II. 調査の結果 【B調査】県内の相談機関を対象とした調査

子どもと本音で語り合えていない。

祖母からの相談もあり、保護者の子育てへの不満や孫が苦しんでいる様子を見るに見かねて相談しており、家庭内でのコミュニケーションが十分に取られていない。

### d. 相談内容について

関係者の想いをじっくり受け止め、「対決型」、「告発型」の姿勢で臨まないことを念頭に置きながら、「対話」を通じた、人と人とのつながりを重視している。関係者への対応は、基本的にはその子どもの同意を得たうえでの対応となる。

不登校の子どもは親自身が対人関係を築く力が弱く、行政機関の訪宅や支援を拒む等するため、子どものみならず家庭全体に対する支援を要するケースが増加している。

子どもの問題行動に対する保護者の対応がその場のみの表面的なものとなる傾向が顕著で、問題行動の裏側にある原因を取り除くことができないため、問題行動が継続、若しくは再発する。

子どもや若者の問題行動等を主訴として相談に至っているものの、相談の中で親の過去や家族関係に関する問題の存在がうかがえるケースが多い。一方で、家族は、子ども若者の問題にしか目が向かず、主訴となっている問題行動等の解決に向かいにくい印象を持っている。

子ども若者のひきこもりについて時折家族から相談を受けることがあるが、本人は衣食住が与えられているため、仕事をしなくても生活していける。その一方、家族は就労面、親亡き後の生活等について心配し相談される。中には、精神疾患と思われる方もおり、家族から受診勧奨をお願いされるが、本人は病識もなく、「出ていこうと思ってる」等と話し、そのまま居座り、生活しているケースが多くみられるように思われる。

### e. その他

相談者や相談機関がわからずに抱えこむタイプが多く、親も子も「気をつかっている」のに逃げ場がない→トラブルが発生、のケースが多い。

管内は祖父母と同居する世帯が比較的多く、親以外の養育者がいるためか、親が子育て相談にくるケースが少ない傾向がある。

DVに関連した相談（モラハラを含む）が増加している。

子育ての悩みを、家族知人等に相談できず、悩んでいる保護者が多い。

（子育てに対する経験の少なさ、子育ての知識の不足。）

以前ほど親や教師に反発する生徒が減った分、子どもの内面が理解できずに対応が遅れ、二次障害や重症化しての相談もある。小さな変化に気づく家庭であればよい。

適切な相談窓口が見つけられずにいる、または相談機関をはしごしている。

医療受診を希望しているが、病院が新規予約を受けつけていない為、つなぎの場として利用するケースも増えている。

親は医療機関を受診させたいが、思春期外来や発達障害を専門とする医療機関が少なく予約まで何か月も待たなければならないケースがあり、対応に苦慮している。

幼児期における健診等により、その子の個性・特性が把握できるようになったが、療育機関の空きが少なく、必要な支援を受けられないケースが見られている。

精神障害、人格障害等を有する子の親や兄弟を支援できるサービスも少ない。

本人又は家族が支援拒否状態になっているケースがある。

子どもを叱り、親も傷ついている。
養育、生活能力が不十分な親に対しての地域の理解や支援が必要なケースが多い。
お子さんへの支援はもとより、保護者への支援、とりわけ一人親世帯への支援や寄り添いの必要性を感じている。
親が社会的弱者であることも多い。
経済基盤の弱さによる低所得、就労支援が必要な家庭が多い。
相談のきっかけは子どもに関してだが、その実、相談者で保護者自身に問題（貧困、他者とのコミュニケーション不足、発達障害）があると思われるケースが見受けられる。
日々の生活の多忙さに追われ、子どもの悩みによりそうことができないでいる保護者も多い。

## 問 相談への対応にあたり、課題となっていることについて

「疾患や障害等の特性を持った利用者への対応」が多くなっている中で、それら専門的な知識を踏まえた「相談スキルの向上」が課題となっている。

また、複雑・多様化する課題に一つの機関で対応することが難しくなっていることを受けて、他機関へのリファーや支援機関同士の連携が求められている。

a. 支援を進めるにあたっての課題について
家族は困っていても、ひきこもっている本人に困り感がない。
親が子どもの将来を心配し相談で来所しても、本人に繋がる事が難しい。
精神の不安定さや気分の浮き沈みによって、支援が中断する場合もある。
就労意欲がない相談者への対応。
不採用となった後、来所が途切れ、継続的な支援ができない。
自己決定ができないため、支援が長期化する傾向がある。
面談を通し、自らの課題を自覚することになっても、その後の関わりが面倒になると連絡がとれなくなる。
学校の不登校児童生徒への理解が進んでいない。
ネット情報は自分に都合の良い部分だけをつまみ上げられる為、偏った知識を信じてしまう傾向がある。
養育者、保護者への対応。本人の努力だけでは難しい課題に対して、周囲の協力が不可欠な場合もあるが、養育者や保護者につながらない（つながっても非協力的）ケースがある。
当該者の就労意欲が低く、マッチングが厳しい。
電話相談が長時間（30分以上）におよび、電話を切ろうとしない相談者への対応
電話での相談がしづらい方へ、メールでのやり取りを行う際の相談技術。
新型コロナウイルス感染症の影響により、相談件数が増加しており、きめ細かい相談が困難となっているケースもある。
多問題世帯で、支援が長期化しているケースでは、モニタリングをしたいものの、問題意識の希薄さから、継続的な支援の拒否がみられる。
相談時に匿名を希望される方もいるため、連絡先が把握できていない方もいる。その後の状況が把握できず、継続して支援を行う事が難しい。
連携協力を図るための会議や打ち合わせ等を持つための時間の確保。

II. 調査の結果 【B調査】県内の相談機関を対象とした調査

相談内容により、関係機関の連携が必要なものがある。関係機関の情報や連携の仕方などをより詳しく把握し、問題解決に繋げていきたい。
職員体制の課題。
自立支援事業と兼任の為、人員が少ない。現在の状況では訪問が難しく、アウトリーチがなかなか進まなかった。
職員が4名体制であり、もっと人数が多ければ、もっと様々な催し（当事者会等）ができるのではないかと思う時がある。
相談員の確保（不登校生の学力保障として5教科及び創作活動を指導できる相談員の確保）と適性（相談活動ができること、民間ではない教育委員会の組織なので、その立場の理解と使命感）
相談者の増加による相談員の業務量の増加が課題。
相談窓口は多くあるが、多様な相談に対応できる専門的な相談員が不足。
相談活動の中で動ける範囲の限界があり、すき間が生じている。他市町村のようにすき間を埋めるかつできる村内としてのSSWが必要。
外部から介入する際は、本人の気持ち、思いをくみ取りながら関わることは最重要であるが、本人と家族の関係を悪化させないようにする点も重要。このアプローチが難しい、課題であると感じている。
職員と相談者とのヒエラルキーの問題。
地区担当制で相談対応しており、相談経験を積む機会に個人差が生じると感じている。
相談内容が複雑化、また広範囲になってきているため、対応する相談員及び職員のスキルアップが必要になってくる。
相談員の資質向上。
相談員のスキルアップのための研修機会の確保。
担当者の専門的知識及び経験不足。
職員の対応力を強化する必要がある。
多種多様な課題を抱えていることが多く、対応する職員のスキル向上が必要である。
ICTによる相談の機会が増加している中で、ICTの活用能力を向上させる必要がある。
ひきこもり状態で支援拒否状態の対象者（40歳以上）への対応に苦慮している。
相談者が相談機関と学校及び家庭との情報交換を拒否した場合に支援が困難。
学校側の権限が強く、障害福祉事業を理解してもらえず、支援できないこともある。

**b. 支援策・支援機関の不足**

天候によっては、相談にくるまでの交通手段がない。
若者サポートステーション等、管内に連携機関が無い為、相談者の利用が不便である。
距離的なこと、天候に左右されることなど、保護者の送迎が難しいため長続きしない場合もある。
来所困難（交通手段がない、本人が引きこもっている等）な方への対応について。アウトリーチ機能を有していないため、来所できない場合は継続的な支援が難しい。
メールやオンライン相談等、誰でも気軽に相談できる環境を整える必要があると思われる。
コロナ禍で来所相談が難しくなった際、オンライン面談も行っているが、インターネットの環境がない方は支援が中断してしまう。

個別支援、グループ支援、ケース検討会議など、県内一か所で十分な支援を行うことは難しく、支援できる機関を増やしていくことや支援機関の連携が求められる。
本人に対し、各関係機関との連携による支援を継続し、ある程度ひきこもり状態から脱した後、本人が就労を求める際の資源が地域に少ないように感じる。
学校から地域（社会）へのつなぎ。そのためにも日頃から関係機関で定期的に顔を合わせ、地域での課題について話し合いを重ねていく必要があると感じる。
社会不適応を起こしている児童の居場所の確保が難しい。
各機関の役割や可能な支援の範囲について認識の齟齬がある。
各機関の役割の浸透が図られていない。
情報共有の際の情報の取り扱い方について認識の差がある。
匿名可であるため、虐待が疑われても突き止められない場合がある。
具体的に動ける相談機関ではないので、話を聴き、必要に応じて他機関の紹介に留まる。
不登校の子供にとって、家庭の生活環境がとても重要となるが、改善に向けて介入できる内容に限界がある。
相談室の環境の充実。執務、相談、通室指導の場がひとつの部屋の中にあり、「相談しやすさ」という観点から改善が望まれる。
障害福祉事業の業務外の対応や、時間外の対応の相談が多く、無償で対応することもある。
長年相談の実績がなく、相談対応のマニュアルも経験も無い。
関係する機関が増えれば増えるほど、主体となる機関がぼやけてくる。総合的な窓口は必要なのではないか。（例えば、子ども若者分野でいえば行政の担当課など）

### c. リファールについて

休日や夜間に電話相談が多く、他機関と上手くつなげられない時がある。
客観的に見ると、リファールが必要なケースであっても、本人、または家族が拒否する。
経済的困窮を伴う世帯への支援に関する「自立相談窓口」との連携。
相談をどこが受けるのかで連携できていない。
相談室は村の中での相談機関の一つであるが、庁内の中の相談機関との組織的連携がない。
相談内容によっては当センターで対応が難しいと感じるケースもあるが、その場合どの機関なら対応が可能なのか他機関の機能を把握できておらず悩むことがある。
相談内容に応じて、関係機関の紹介を行っているが、必ずしも全ての相談者が紹介先に繋がるわけではない。同行訪問等、対面で紹介ができると、担当間の引継ぎが行いやすい。しかし当事者や家族がなかなか紹介先に繋がらない場合もあり、ひきこもり支援における連携協力に係る課題であると感じている。
横のつながりが無い。子どもの問題は、ひとつの大きな問題でも他と関連していることが多いのに、各々の機関に個別に行く労力、一から説明する労力が家庭にかかるし、各機関が自分の管理外分野についての理解が乏しい。連携とともに機関側に学びが必要。
少年鑑別所併設の相談機関ということもあって、当所に相談がくる際には、問題が複雑になっていることが多い。また、非行犯罪に関する問題を得意分野とする一方で、そうした分野以外の問題を抱える方等から、最終手段として相談されることが多く、相談をして受けざるを得ない状況も生じている。そのため、当所の役割やできる援助を明確に示した上で、できない部分について、他機関と連携していくことが課題となっている。

## II. 調査の結果 【B調査】県内の相談機関を対象とした調査

それぞれの機関で必要な支援を補いあえればよい。時折、厄介払いのような、うちは関係ないというスタンスの機関も見受けられることから、関わる機関は多ければ多いほどよいと考える。
相談内容に応じて、関係機関と共同して対応できるよう、関係機関について情報を把握し、連携できる体制づくりが必要である。
関係機関との連携協力を更に進められると、相互の支援体制が強められていくと考えているが、個人情報扱いがネックとなる場合もある。
民と行との連携。（ひとつの支援機関に限定せず、多機関連携することにより、困難な課題への解決につながると思う。）

### d. 疾患・障害等への対応

発達障害傾向のある相談者への対応。
本人や家族に自覚は無いが、発達障害等が疑われる場合の対応や周囲との連携。
本人の様子から発達障害などの可能性を感じても、本人にその認識がない場合なかなか踏みこんでいけない。そのような場合に他の支援機関の案内などどのように話を持っていくべきかが難しい。
不登校の背景に発達障害があるケースが多く、ケースカンファレンスを行い、精神科医より助言をいただいているものの、来室している児童生徒の症状が多岐にわたり、対応に苦慮している。
障害の疑いがあり、偏った思考で、支援拒否につながっている。
精神疾患を持つ相談者への対応。精神系の専門家がいなかったり、適切に対処できているかセルフチェックできない状況にある。
精神疾患が原因で引きこもっているケースもあり、中には早めの受診を要するものの、当事者が受診を拒否するケースもみられている。そういったケースに対し、スムーズに受診できる体制づくりが必要。
健康、生活、家庭等、様々な問題に対する相談があるが、その多くは、精神疾患を背景とする相談がほとんどで、本人を医療（受診、入院）に繋げたいと考えている家族からの相談、保健所として早急に医療に繋いだ方が本人、家族のために望ましいと考えられるケースが多い。しかし、精神科受診は予約が数カ月先になったり、特に「思春期のメンタルヘルス」、「発達障害」となると対応できる医療機関が少なく、圏域を超える等、本人、家族だけでなく、支援者側も苦慮している現状。
医療受診の必要性を感じてはいるが、精神的経済的負担により医療受診へのハードルが高い。
精神疾患が疑われる親への対応の難しさ
アルコールや薬物等依存症関係は、治療に対する本人の意思が重要になってくるため、家族が困っていても、なかなか医療に繋がらない。

## e. その他

保護者の「過干渉」が気になる点である。

そもそも「ニート」か「ひきこもり」かといった旨を相談者自ら告白することはまれであり、把握しにくい。

自立相談支援機関は若者自立支援に特化した機関ではないため、ひきこもり支援など時間的余裕が無く、支援に限界を感じることもある。

SNS やネットゲーム等の IT 社会の進展により対人交流が拡大することで、子どもが犯罪に巻き込まれる危険性や昼夜逆転等による生活習慣の悪化が高まっている。

民生委員の活動が縮小されてきている印象がある。

学校は管理職の考え方によって、対応が変わってしまう。学校ごとに対応の差が出てしまうし、現状担任等に負担がかかっているのも、一律で対応が決められていないと、教育の機会や学校のリソースを享受できる家庭とできない家庭がでてきてしまう。

ICT の利用による出席日数や学習計画の作成、更に ICT 機器の家庭での活用等、学校外で学ぶ方法を模索しようとした時、現状「校長裁量」であること。全市で、「教育の権利」についての指針が整っていないこと。

Ⅱ. 調査の結果 【B調査】県内の相談機関を対象とした調査

## 【C調査】

高等学校を対象とした調査

県内の高等学校に対し、下記についてアンケート調査を行った。

### 問1 不登校・中途退学の生徒・家族の状況について

不登校の状態にある生徒または中途退学した生徒は、様々な要因があり、そのような状況に至ったと考えられますが、扱った事例としてどのような要因のものがありましたか。自由記述にてお知らせください。(記入できる範囲でご回答ください)

61校から寄せられたコメントをもとに、要因毎に内容をまとめた。(代表的なコメントを一部抜粋して掲載)

#### ① 学業不振（10校）

- ・学習意欲の低下による学業不振で退学に至った
- ・勉強に対する悩み（思うような成績が取れない、授業についていけない等）
- ・学習面での不振等から休みがちになり、中途退学に至った

#### ② 学校生活への不適応（52校）

- ・不本意入学（保護者の希望による受験）
- ・生徒が思っていた学校のイメージが、実際とは違っていた
- ・中学校からの継続した不登校
- ・友人関係のトラブルや人間関係がうまく構築できない
- ・中学時代のいじめによる人間関係への不信
- ・SNSでのトラブルをきっかけに教室に入ることが難しく不登校となった
- ・ゴールデンウィーク期間中に昼夜逆生活に戻り、通学できなくなった
- ・友人が話す他人の悪口に嫌気がさし、その友人を避けるように不登校となった
- ・クラスの雰囲気馴染めない
- ・集団での学習に馴染まない
- ・課題等を提出できない自分が許せないなど、自分自身を追い込んでしまう等
- ・クラス替えが自分の願う学級編成ではなかった
- ・学習も含め様々な制約から自身の成長が制限されていると考えたため
- ・学校を継続する理由が見つけられない（友人がいない、学校での楽しみを見いだせない）

#### ③ 進路変更等（4校）

- ・高等学校卒業程度認定試験に合格したことによる進路変更
- ・将来の進路の方向性が定まったので中途退学となった

#### ④ 病気・ケガ等（20校）

- ・診断は受けていなかったが、発達障害の傾向が見られたこと（それが原因の人間関係トラブルが多々あった）
- ・ADHDによる集団行動の困難
- ・欠席が続いたことによる学業への不安から中学時の過敏性腸症候群が再発した
- ・夏季休業明けから欠席が続き、学校生活では問題がなかったため受診したところ、統合失

## Ⅱ. 調査の結果 【C調査】高等学校を対象とした調査

調症の可能性があると診断された

- ・生徒の身体的不調（起立性低血圧症など）により昼夜逆転し、不登校に至った
- ・心因性疾患等複合的な要因による不登校（保護者も心因性疾患を抱えていることも）
- ・月経困難症による通院治療のため欠席が多く、クラスに馴染めなくなってしまった
- ・繊細な心の持ち主で、対人恐怖症になり、不登校となった
- ・親からの暴力、虐待

### ⑤ 家庭の事情（17校）

- ・家庭内不和
- ・経済的理由（父親が死亡し、生活が困窮したが、母親は精神障害があり働けなかった）
- ・朝起こしたりすることもなく、本人の通学状況も把握しておらず放置傾向が強い
- ・親の叱責、親の言葉・態度への反発、親の過干渉・放任等

### ⑥ 問題行動（3校）

- ・クラスメイトに暴力行為で停学処分
- ・喫煙を容認している事案や、深夜に自宅を抜けだし、補導される事案も少なくはない

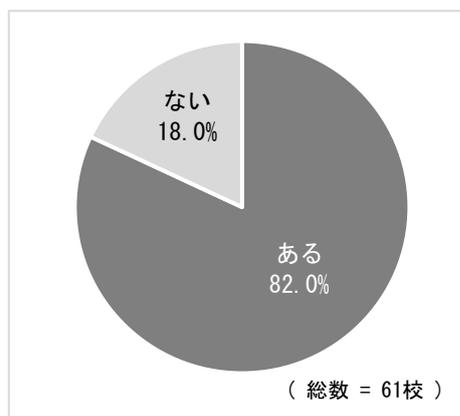
### ⑦ その他（18校）

- ・本人及び保護者や学校側も全く理由が不明である
- ・本人の自己肯定感の低さと大人に対する不信感
- ・SNSやゲーム（スマートフォン）依存による昼夜逆転の生活から脱することができない
- ・妊娠、出産のため2年次終了時点で退学
- ・恋愛など、学校以外の人や環境に興味を示し、欠席が多くなる
- ・母の内縁の夫からの扱いに耐え兼ね家を出たい

## 問2 不登校・中途退学への対応にあたり、課題となっていることについて

不登校・中途退学への対応にあたって、課題となっていることはありますか。自由記述にてお知らせください。

（本人・家族に対応する上での課題や、関係機関との連携協力に係る課題など）



課題となっていることが「ある」と答えた高等学校は82.0%、「ない」が18.0%となっている。

「ある」と答えた50校の課題について、要素毎に以下にまとめる。（代表的なコメントを一部抜粋して掲載）

① 生徒本人の状況改善について（8校）

- ・精神的に不安定な生徒が多い
- ・当該生徒と保護者の意見の食い違い。家庭での話し合いがうまくいかない
- ・保護者と本人の関係性が悪い（希薄だったり、逆に強制的だったりする）
- ・コミュニケーション能力が乏しく、集団に恐怖を感じる
- ・新しい環境下における人間関係の構築の仕方
- ・スクールカウンセラーや医療機関など関係機関への相談をアドバイスするが応じない

② 保護者との関係構築について（13校）

- ・保護者の協力が得られにくい場合の、保護者との連携や信頼関係の築き方
- ・保護者の理解が得られない（生徒の受診勧奨等）
- ・親が無関心
- ・来校して真剣に相談にくる保護者が少ない
- ・高校の進級制度の無理解（不登校のまま、進級させたい等の要望）
- ・経済的に困難な家庭への支援
- ・生徒本人の意向を尊重しすぎる家庭への対応

③ 教員のスキルアップや学校全体の環境づくりについて（9校）

- ・生徒との意思疎通の難しさ
- ・意欲の湧かない生徒への対応
- ・いったん落ち込んだ生徒を次のステップへと気持ちを動かす手法
- ・生徒、保護者との面談やその記録などのために多くの時間が必要である。通常の業務も行いながらなので時間が足りない
- ・教室に入れない生徒が別室で学習しているが、教室に戻ることができるようなサポートの仕方
- ・欠席日数や欠課時数など、物理的な制約があるため『寄り添う指導』に限界を感じる

④ 関係機関との連携について（9校）

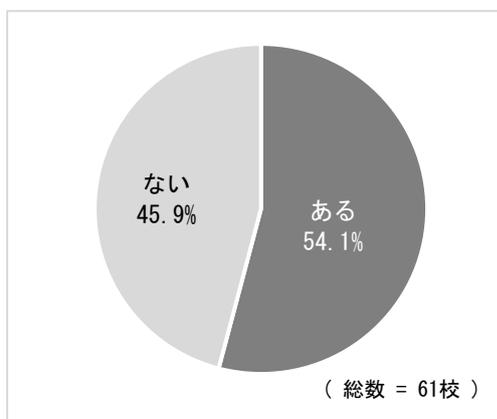
- ・精神疾患や発達障害の診断または疑われる場合には、専門機関の支援が不可欠である
- ・保護者理解が得られず、関係機関につなげることができなかった
- ・本人が通院している病院の医者、スクールカウンセラー、保護者、学校的意思を統一し対応することに難しさを感じた。また教員のできる範囲を超えた場合の負担が大きい
- ・家庭環境の悩みで不登校になっている生徒については、ソーシャルワーカーや市町村の福祉関係者と連携できれば、状況を改善できたかもしれない
- ・関係機関との調整がスムーズにいかない（時間的なものなど）
- ・退学への対応にあたっては、その後の本人・家族支援や進路選択について、本人や家族任せにならないように、外部組織や関係機関と連絡を密にしたり、情報交換しておく必要がある
- ・中学校からの情報提供がない場合（状況を把握していない場合や隠している場合）

⑤ その他（10校）

- ・ 発達障害と診断されている生徒又はその可能性のある生徒に対する理解と支援方法などを専門的に助言してくださる存在が近くに必要と考える
- ・ 専門機関の受診・相談が必要と思われる生徒がそれを拒否した場合の対応
- ・ 不登校・中途退学の理由の多様化と、それに伴う対応の難しさ
- ・ 医療機関へ繋げたいときに、スクールカウンセラー(SC)やスクールソーシャルワーカー(SSW)との面談を通して勧めてもらおうと、学校関係者が勧めるよりも受け入れてもらいやすいのだが、SCやSSWとの面談ですら拒む家庭がまだある
- ・ 通信課程への転校が逃げ道になっているケースが目につく
- ・ 課題は、こうすれば改善できるという正解がないこと。改善できる生徒もいれば、退学、転学等する生徒もいる。また、生徒本人だけでなく、保護者や教職員、関係機関と協議をするなど、とても時間がかかる仕事である
- ・ 不登校や中途退学になる生徒の大半が本校への不本意入学者である。不本意入学にならないように中学校側からの指導を強く希望する

問3 連携協力している公的・民間支援機関について

貴校において、不登校生徒や中途退学生徒への対応にあたり、日頃から連携協力している（これまで連携協力したことのある）公的・民間支援機関はありますか。  
ある場合は、機関の名称と連携の内容についてお知らせください。



日頃から連携協力している（これまで連携協力したことのある）公的・民間支援機関が「ある」と答えた高等学校は 54.1%、「ない」が 45.9%となっている。

「ある」と答えた33校の連携先と連携の内容について、以下にまとめる。(代表的なコメントを一部抜粋して掲載)

① 県教育庁（13校）

- ・ スクールカウンセラーの派遣
- ・ スクールソーシャルワーカーの事業

② 医療機関（12校）

- ・ 生徒・保護者の相談、カウンセリング
- ・ 学校生活や生徒への対応に関する指導、助言
- ・ 受診要請

- ③ 児童相談所（12校）
- ・ 情報交換（家庭内暴力状況、入学以前の虞犯行為等）、今後の対応に関する協議
  - ・ 生徒・保護者へのカウンセリング
  - ・ 保護者への対応についての相談
  - ・ ひとり親世帯の保護者が入院になったことから、子どもの処遇について相談
- ④ スクールカウンセラー（7校）
- ・ 生徒・保護者のカウンセリング
  - ・ 教員への助言
- ⑤ スクールソーシャルワーカー（スクールライフサポーター）（6校）
- ・ 生徒・保護者のカウンセリング（家庭訪問含む）
  - ・ 教員への助言
  - ・ 福祉面での支援
- ⑥ 市町村役場・教育委員会（6校）
- ・ 要保護児童連絡協議会への協力を仰ぎ、行政、福祉などの専門機関へつなげる
  - ・ ネグレクト、生活困窮支援についての情報共有と相談
  - ・ 支援に関するケース会議への参加
- ⑦ 青森県総合学校教育センター（4校）
- ・ 保護者・生徒の相談、カウンセリング
  - ・ 生徒の事例にもとづく構内の支援体制構築
  - ・ 生徒の情報交換
  - ・ 教育相談関係等の校内研修会等
- ⑧ 学校（4校）
- ・ 校内教育研修会への講師招聘
  - ・ 生徒のこれまでの状況に関する情報共有（出身小中学校）
- ⑨ 特別支援学校（3校）
- ・ 生徒・保護者のカウンセリング
  - ・ 発達障害のある生徒への対応に関する助言
- ⑩ 社会福祉協議会（3校）
- ・ 生徒・保護者の状況、支援に関するケース会議の開催
  - ・ 生活支援に関する情報交換
- ⑪ 警察（2校）
- ・ 家出や虐待への対応に関する教員への助言
  - ・ 生徒・保護者の状況、支援に関するケース会議の開催

⑫ 相談支援事業所（2校）

- ・ 障害を持つ生徒・保護者への対応に対する教員への助言

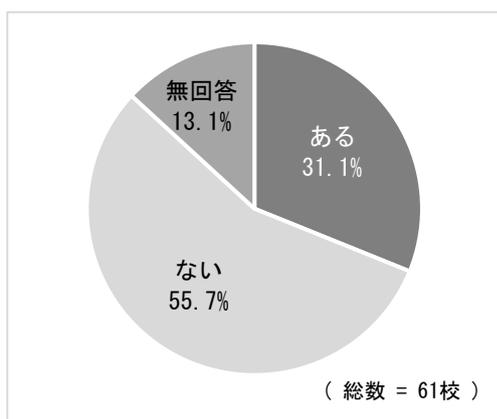
⑬ その他（5校）

- ・ 放課後等デイサービス → 生徒・保護者の状況、支援に関するケース会議の開催
- ・ 教育相談所 → 発達障害を持つ生徒に関する教員への助言
- ・ 子育て支援センター → センターに通っていた生徒の情報共有

問4 今後、連携協力が必要であると感じる公的・民間支援機関について

貴校において今後、不登校生徒や中途退学生徒への対応にあたり、連携協力が必要であると感じている公的・民間支援機関はありますか。

ある場合は、その機関の名称と、連携により期待する効果をお知らせください。



今後、連携協力が必要だと感じる公的・民間支援機関が「ある」と答えた高等学校は 31.1%、「ない」が 55.7%、「無回答」が 13.1%となっている。

「ある」と答えた19校の連携先と期待する効果について、以下にまとめる。(代表的なコメントを一部抜粋して掲載)

① 医療機関（8校）

- ・ 学校と保護者へ必要とする配慮等に対して適切なアドバイスが得られる
- ・ 生徒・保護者への具体的治療
- ・ 心の専門外来は予約が取りにくい現状の改善

② 県教育庁（3校）

- ・ 生徒・保護者との面談及び関係機関へのつなぎ
- ・ カウンセラー等の要請への対応
- ・ 学校（担当教員、関係職員）への支援

③ 児童相談所（3校）

- ・ 家庭のトラブルへの助言等に期待できる
- ・ 情報共有や情報提供

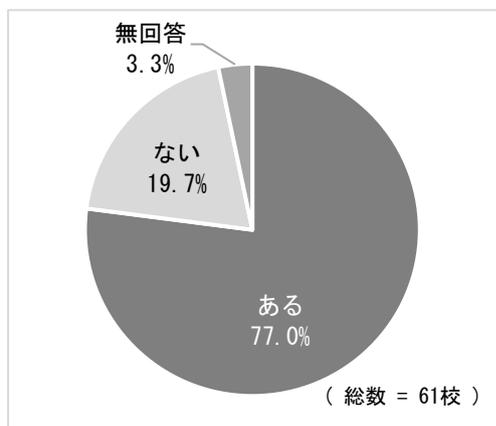
- ④ 発達支援センター（4校）
  - ・ 発達障害のある生徒の進路相談や自立支援
  - ・ 中途退学者の体調が回復した後の就労支援
- ⑤ サポートステーション（2校）
  - ・ 中途退学を思いとどまらせる支援
  - ・ 退学後、働く意志がある生徒に対する情報提供の機関として、連携が期待される
- ⑥ 市町村役場・教育委員会（2校）
  - ・ 特別な配慮を要する生徒への支援のあり方への助言、面談
- ⑦ スクールソーシャルワーカー（2校）
  - ・ 学校が踏み入れない家庭問題への対応
  - ・ 福祉の専門性を生かした支援
- ⑧ 特別支援学校（2校）
  - ・ 発達障害及びグレーゾーンの生徒への対応支援
  - ・ 生徒・保護者への相談活動
- ⑨ その他（5校）
  - ・ 障害者就業・生活支援センター → 発達障害等がある生徒に対しての就職支援
  - ・ 編入先の学校 → その後の進路の把握
  - ・ 保健所 → 生徒が自分の追い込まれた状況を伝達できる（SOSの発信）

また、その他「必要な機能」として以下のものがあげられた。

- ・ 総合的に、根本の原因への気づき。多角的視点からの対処法の実現。認識不足の補い
- ・ 不登校、中途退学経験者やその家族との交流
- ・ スクールカウンセラー以外の何らかの連携協力を必要と感じている
- ・ 常時利用できる若者目線のお話し相手

問5 不登校・中途退学の生徒を発生させないための対応策について

不登校・中途退学の生徒を発生させないために、貴校が独自に実施していることはありますか。自由記述にてお知らせください。



不登校・中途退学の生徒を発生させないために、独自に実施していることが「ある」と答えた高等学校は77.0%、「ない」が19.7%、「無回答」が3.3%となっている。

「ある」と答えた47校の取り組みを、以下にまとめる。(代表的なコメントを一部抜粋して掲載)

- ① 生徒からの相談受付体制の充実、面談の定期的な実施等による状況把握（19校）
  - ・ 悩みを抱えている生徒に対し、担任、学年主任、養護教諭、支援員等の面談を継続して行い生徒の状況の改善に努めている
  - ・ 副担任や学年付、教科担任等全ての教員が全校生徒との面談を行う。進路、学校生活全般について相談をする場として活用している。年に複数回実施（学年ごと）
  - ・ 保護者を含めた三者面談の他に、年に2回の面談週間を設けている。今年度から、面談週間は担任との面談の他に、話をしてみたい教員との面談ができるような機会を設けている
- ② スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカーの活用（16校）
  - ・ 定期的にスクールカウンセラーが来校し、生徒、保護者、教員と面談を行っている
  - ・ スクールカウンセラーだよりの発行
  - ・ 私費でのスクールカウンセラー及びメンタルコーチによる相談など
  - ・ スクールソーシャルワーカーやスクールライフサポーターと相談できる体制が整っている
- ③ 学校内・教員間の情報共有（13校）
  - ・ 新年度や新学期の開始時期に毎朝HRに複数の教員を配置して生徒の状況を観察する
  - ・ 月一回程度、いじめ防止校内委員会・教育相談委員会を開催し、学年から気になる生徒について情報提供してもらい、情報共有及び対応について検討している
  - ・ 気になる生徒や事例がある場合は、速やかに「ケース会議」を開催し、情報収集や支援についての意見交換をしている。メンバーは固定ではなく、関わりのある教員に出席をお願いしている
  - ・ 校内特別支援委員会で支援方策の検討。

④ 生徒の対するアンケートの実施（12校）

- ・ 学校生活調査(いじめ、体罰、勉強、部活動、友人関係等)の年3回の実施
- ・ いじめによる不登校防止のため、生徒と教員へは月1回、保護者には年3回いじめアンケートを行っている
- ・ いじめアンケートの実施を年間で5回行っている

⑤ QUテストの活用とアセスメントの実施（9校）

- ・ 入学生を対象に4月末に生活アンケート、5月にハイパーQU、11月にQUを実施
- ・ ハイパーQUを実施し、生徒の特性から注意を要する生徒を教員間で共有している

⑥ 家庭訪問の実施（4校）

- ・ 連続3日欠席生徒に対する家庭訪問
- ・ 3日以上欠席した場合の家庭訪問

⑦ 教員向けの研修会の開催（3校）

- ・ 本校の実情を理解しているスクールカウンセラーによる教職員対象の研修会を毎年行っている
- ・ 年4回の職員全員による研修(アセスを用いたもの2回、学校生活アンケートを用いたもの2回)

⑧ グループエンカウターの実施（2校）

- ・ 構成的グループエンカウターを実施(年度始めに2学年対象、保健部)

⑨ その他（22校）

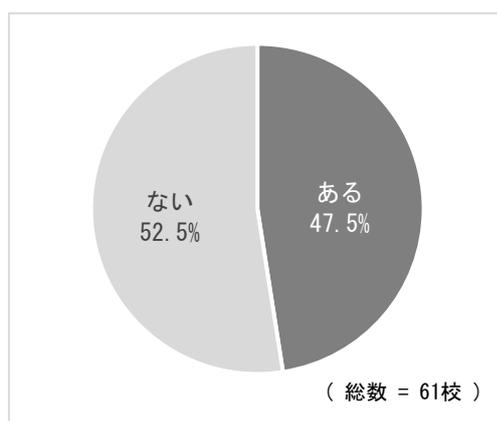
- ・ 教室へ入れることを目標とした、不登校生徒の居場所づくり
- ・ 別室登校をしても一定の条件を満たせば出席として認める規定を作り、別室登校から教室へと生徒が徐々に回復していけるような環境を整備した
- ・ コミュニケーションスキルアップ講座の実施(全学年対象に学年毎に実施)
- ・ SNS使用の注意を学年や学科から何度も行う
- ・ 総合学科(単位制)定時制課程の昼の時間帯に学ぶ1・2部、夜の時間帯に学ぶ3部の他、通信制課程があり、自分だけの時間割を作成し、自分のペースで学ぶことができる
- ・ 少人数での分かりやすい授業を展開している他に、キャリア教育や探求活動にも力を入れている。地域社会を知り、働く意義や人生設計を学ぶ授業、上級学校、企業見学やインターンシップ等の活動、地域貢献やボランティア活動を実践する授業などがある
- ・ 系列の科目選択等では、研究活動する時間を多く設け、きめ細かく丁寧に説明を行っている
- ・ 来年度から「1日4時間、4年間での卒業」が基本の形となり、余裕を持ってじっくり学ぶことで、確かな学力を身につけることができる
- ・ 特別支援教育や通級指導に力を入れている。学校全体で情報交換や共通理解に努め、障害等の困難を抱えた生徒の状況や保護者のニーズを把握し、高校卒業後の社会的自立に向けた学校生活を送れるよう適切な支援・指導を実践している

## Ⅱ. 調査の結果 【C調査】高等学校を対象とした調査

- ・ 特別支援教育へも力を入れており、アシストクラスで教室へ入れなくなった生徒も準備期間をとおいて勉強させながら少しずつ教室での通常授業にもどす様に指導している
- ・ 問題行動で退学となる生徒には、本校通信制への転籍を勧めて学びを継続させている
- ・ 仲間意識を育成するため、学校生活を通じて自身が活躍できる場（役割や存在感）を計画的に設ける
- ・ 明確な学習目標を設定する（検定や資格取得、コンクール入賞等）
- ・ 特別支援学校教諭免許状の取得
- ・ 医療機関への相談
- ・ 教職員による声かけの励行

### 問6 その他、生徒の自立支援を行う上での課題、行政への意見・要望等について

その他、不登校、または志半ばで中途退学した生徒の自立支援を行うにあたり、行政への意見・要望等がありますか。自由記述にてお知らせください。



生徒の自立支援を行う上での課題、行政への意見・要望等について「ある」と答えた高等学校は 47.5%、「ない」が 52.5%となっている。

「ある」と答えた 29 校の意見・要望を、以下にまとめる。(代表的なコメントを一部抜粋して掲載)

#### ① 相談支援機関の体制の強化（8校）

- ・ 教員が中心となって不登校や中途退学の支援を行っているが、教員は生徒の自立支援を行うために必要な専門的知識を全て持っているわけではない。その生徒の状況によっては、心理学や発達障害など、各分野の専門家がもっと教育現場に密接であるべきだと考える。仙台市には、学校や病院、警察他子供に関連する機関が連携して、子供を一括して見守る仕組みが構築されているようである
- ・ ソーシャルワーカーの巡回相談
- ・ 町村部にも、相談施設・支援施設を設置し、保護者支援のためのサービスの拡充
- ・ 不登校外来のような専門部署の設置と支援体制の強化
- ・ 公的相談機関の利用時間を、平日 17 時までを休日や時間外にも利用できるようご配慮頂きたい
- ・ 青森市に集中する公的相談機関の分室を八戸市にも設けて頂きたい
- ・ 不登校対応に関する専門的支援員の派遣と支援方法についての研修会の企画
- ・ 「いのちの電話」がつながりにくい状況にあるので改善して欲しい

## ② 再チャレンジできる環境づくり・居場所づくり（8校）

- ・ 学校を中退後は、学校から生徒へ連絡を取ることがないため、必要な支援が受けられているかなどを心配している。行政の方で生徒の様子を把握し、支援を受けられるようにしてあげて欲しい
- ・ 中途退学した生徒には、学校側からアプローチすることが難しい場合も多いので、行政を含め社会での支援も必要だと思う
- ・ 学校復帰に向けた支援だけでなく、生徒の社会的自立を支援していくことの充実や機能強化
- ・ 中途退学に至る生徒は、どちらかといえば消極的な行動特性があり、引きこもりなどにつながりやすい。このような生徒に対するフォローをしてもらえるとありがたい
- ・ 不登校生徒、中途退学生やその家族が自由に情報交換したりボランティア活動など校外での活動の機会や支援が得られる機関、機会があれば教えて欲しい
- ・ 学校以外で、地域社会とつながりを持つことができるような居場所を、気軽に利用できるようにしてほしい
- ・ 現在、退学等により学校を離れてしまうと、学校から定期的に状況把握の確認をする仕組みになっていない。また、退学時の経緯により、学校からその生徒に連絡を取るのが難しい場合もあり支援の仕組みを構築しにくい。そこで、退学後一定期間（1年間程度）行政から状況把握の定期連絡を行い支援する仕組みを要望したい。この仕組みが構築されることで、退学時に行政機関から定期的に連絡が入ることを認識させることで、相談できる人がいなく相談できずに時間を経過してしまう生徒にとって、今後の進路に対する相談の場として活用でき、生徒の自立支援の役割になると考える
- ・ 生徒が退学した後も気軽に相談できる場があると、別の進路先に進んで抱える不安などが解消され、気持ちの安定につながるのではないかと

## ③ 常駐の支援員の設置等（5校）

- ・ 不登校になってしまってからだと遅いので、傾向が出たときすぐ相談できるSCやSSW（スクールソーシャルワーカー）を配置してほしい。各地区に一人配置されているが、ことが起きてからでないと依頼できないので、防ぐためにはそれが一番の対策だと思う。毎日だけでなく一週間に2回位でもいいので、お願いしたい
- ・ 学校にスクールカウンセラーを常駐させてほしい
- ・ 支援が必要な生徒に対して十分な対応をするための教員数又は専門職員の確保
- ・ 教員の業務負担をできるだけ軽減するために学校への人的配置をお願いしたい
- ・ 県立学校においても、発達障害やそう思われる生徒に個々に対応する為のサポーターの配置が必要であると考えます

## ④ 支援機関の「見える化」・相談者と支援機関を「つなぐ」ことについて（4校）

- ・ 普通高校から退学または転学した場合、定時制高校や通信制高校に転入または転籍する人が多い。ネットで「あおり子ども・若者支援機関マップ」を見つけたが、定時制・通信制高校を中心にサイトの紹介や、リーフレットを作成して配布するなど、広報活動をしてはどうか。教員も情報として知っておいた方が良いと思われる
- ・ フリースクール等、地域で家族支援を実施している民間支援団体の情報提供がほしい
- ・ 教育委員会や学校と、フリースクール等民間施設・団体が情報交換を行う場を設ける

- ・ 「自立を支援するための相談窓口や専門機関等」が県内に多数あるものの、志半ばで中途退学した生徒及びその保護者は、その存在を知らないことが考えられる。広く周知することが自立支援につながるものと思う

⑤ その他（10校）

- ・ 家庭の教育力向上を図る取組をぜひ企画・実施していただきたい
- ・ 就職支援の具体的な方法や障害者就業・生活支援センターをもっと身近なものにして欲しい
- ・ 下北には通院・入院できる精神科の病院が限られており、通院には保護者の負担が大きい。通院のための経済的・人的支援が必要であると感じている
- ・ 相談機関が設けている相談者の年齢制限を柔軟に扱い、相談者が継続して相談できるようにして欲しい
- ・ やはり生徒にとっては、入学した学校で学び卒業したほうが良いと考えるが、もし在学中に悩んだとしても進路を変更する等、学び続ける環境を整えてあげることが最善だと考える。そのために、学年主任や学級担任、部活動の顧問、保護者など様々な立場から生徒に対して対話しているが、思うように生徒の考えを卒業に向かわせることが難しい
- ・ 生徒が自立して社会で生きて抜いていくために、そのような機関の方との対話も必要なのではないかと考えるが、保護者の意識が中途退学や不登校についてそれほど重要なこととしてとらえていないような気もしている
- ・ 経済的な支援に関して、いくつかの奨学金制度や物的支援を受ける制度はあるが、保護者に入金・受領となり、本人が恩恵を受けていないケースがあった。制度上、制約があるかもしれないが、本人自身に直接支援されるようになれば良いと思う
- ・ 保護者の失業保険などの申請や受領にいたっていない家庭もあり、生徒に影響があるケースもあった。そのようなケースに速やかに対応できるようにお互い努力する必要がある
- ・ ひきこもりや、不登校、退学者が自立できるようテレビやYoutubeで放映しているような取り組みを行政支援で実施できないか
- ・ 存在意義の自覚や人から感謝される、お役立ちプロジェクト的な取り組み
- ・ 若者の定住促進対策（流出対策）として、自立支援対策の先にある『青森いいね!』的なプロジェクトに発展するような県民が一丸となって取り組めるイベントになればと思う

### III. 講評・考察

## 若者自立支援へむけて ―希望と孤独―

弘前大学 教授 李 永俊

## 1. はじめに

新型コロナウイルス感染拡大によって不自由な生活が続いている。目には見えないウイルスは、経済活動を制限し、親しい友人とさえ気軽に会うことを許さない。また、経済的な弱者が多く勤めている対人向けのサービス業は、コロナによって休業を余儀なくされた。一方、高所得で高学歴者が多く勤めている職場では、速やかにリモートワークに切り替えられ、仕事量や収入にはほとんど影響がなかった。このような経済格差の顕在化が社会全般の「閉塞感」を招いている。

東京大学の玄田氏は、「希望学」というユニークな研究で、社会に「閉塞感」が蔓延すると個人が「希望」を失い、社会の活力が奪われると指摘している。「希望」は、欲望や目的であり、個人が欲望や目的を持つことで、消費、進学、就業、結婚、出産などを自ら実行することになる。そのような希望を持っていない若者は、「やりたいことが見つからない」という。「若者自立支援のための実態把握調査」は、希望を一時的に見失った子どもや若者たちに、どのような支援を行えば希望を再発見し、笑顔を取り戻すことが出来るかを模索するために実施するものである。

玄田氏は、「希望を失っている人々で危惧されるべきは、経済問題だけでなく、友人など他人とのつながりを欠くことで、自己の社会的存在意義を見失いつつある人々かもしれない」という。彼がいうように、社会的な「孤立」が若者たちを苦しめている事案を多く耳にする。ここでは、自立に課題を抱えている若者に対しては、社会とのつながりをテーマに、彼・彼女らの現状と背景、そしてどのような支援を必要としているのか見てみたい。

## 2. 希望を見出した人の特徴

ここでは、相談支援機関の利用者を対象に行った調査結果を用いて、少し希望を見出した若者とまだ見つけていない若者の特徴を見てみたい。現在職についている場合（有業者）は、少し希望を見出した者とみなし、まだ職に恵まれていない者（無業者）は継続的で、よりの確な支援を必要としている者とする。表1は個人の属性と職の有無をまとめたものである。

### Ⅲ. 講評・考察

まず、性別では相談支援機関を利用しているのは男性が95名で女性71名より多く、まだ職に巡り合えていないのも男性の割合は70.5%で女性の割合より若干高いことがわかる。次に、年齢階級別では、20代の利用者が111名で最も多く、続いて30代46名、10代9名となっている。職の有無については、年齢が高くなるにつれて、有業者割合が高くなっていることがわかる。学歴については、高卒以下と大学・大学院卒が同じ人数となっており、高学歴者でも就業に課題を抱えている若者が多いことがわかる。ただ、困難から抜け出している有業者の割合を見ると、高学歴者のその割合が高いことがわかる。その要因については様々な理由が考えられるが、職の選択肢が学歴と比例して多くなることが要因であると思われる。そのような傾向は男女に共通している。

最後に、家族形態と有業無業の関係を見てみよう。ここで家族は、祖父母と両親の三世代家族、両親と子、ひとり親と子の3つの形態に分けてみた。その理由は、自由記述欄から両親との関係性が困難の要因となっている若者も多いと見受けられたからである。集計の結果から、相談支援機関を利用している三世代家族は、34名であるのに対し、両親と子(61名)やひとり親と子(38名)の核家族の利用者数が多いことがわかる。また、少し希望を見出している有業者割合も三世代家族で少し高くなっている一方、両親と子やひとり親と子では無業者の割合が高くなっている。この結果から、課題を親と子だけで抱えることは課題解決を難しくする可能性があることがわかる。家族形態の「その他」には、有配偶者や同居家族がいない単身世帯が多く、経済的な自立が求められているため、有業者割合が高くなっている。

表1 個人属性と就業有無

		(単位：%)		
		有業者(57)	無業者(109)	合計(名)
性別	男性	29.5(28)	70.5(67)	100.0(95)
	女性	40.9(29)	59.2(42)	100.0(71)
年齢階級	15～19歳	22.2(2)	77.8(7)	100.0(9)
	20～29歳	32.4(36)	67.6(75)	100.0(111)
	30～39歳	41.3(19)	58.7(27)	100.0(46)
学歴	高卒以下(中退含む)	22.2(14)	77.8(49)	100.0(63)
	短大・専門(中退含む)	47.5(19)	52.5(21)	100.0(40)
	大学・大学院卒(中退含む)	38.1(24)	61.9(39)	100.0(63)
家族形態	三世代家族	38.2(13)	61.8(21)	100.0(34)
	両親と子	27.9(17)	72.1(44)	100.0(61)
	ひとり親家庭	23.7(9)	76.3(29)	100.0(38)
	その他	54.6(18)	45.5(15)	100.0(33)

## 3. 社会関係と仕事

玄田（2007、2009）は友人の種類と希望との関係を分析し、家族、恋人、親戚、職場の同僚以外にも、「自分に期待してくれる」「能力や努力を高く評価してくれる」「心配や悩みを聞いてくれる」友人を持つほど、実現見通しのある希望を持つ傾向が有意に高いことを明らかにしている。その理由については、1つは日常的には得られない貴重な情報を獲得することが出来ることにある。また、友人からの承認は、「自分が存在してもいいのだ」という存在意義を与え、本人の自信につながる。そして最後は、サービス産業時代に欠かすことのできないコミュニケーション能力の向上につながるからである。ここでは、地域間移動や社会関係と職との関係をみてみたい。

まず、移動と職との関係をみてみよう。進学や就職のために地元外に移動することにはさまざまなメリットやデメリットがある。デメリットの1つは、地元の間人間関係が途切れ、地元に戻った際に疎外感や孤独感に陥る恐れがあることである。一方、メリットとしては、地元を離れることで、血縁や地縁などの強い人間関係から解放され、新たな自分との出会いや第三の人間関係が構築され、豊かな人間関係を形成する可能性もある。そのような第三の人間関係が仕事への自信感につながることもある。

表2 移住経験有無別と就業有無

	(単位：%)		
	有業者	無業者	合計(名)
移住経験なし	30.9(29)	69.2(65)	100.0 (94)
移住経験あり	38.9(28)	61.1(44)	100.0 (72)

表2は移住経験の有無別に職業有無をみたものである。ここでいう移住経験なしとは、最終学歴の学校が「県内で、特に地元」であれば移住経験なし、それ以外の場合は移住経験ありとした。全体では、移住経験なしが94名で、移住経験ありが72名となっており、移住経験のない人が相談施設をより多く利用していることがわかる。次に、仕事との関係でみると、移住経験なしの69.2%が仕事に就いていないのに対し、移住経験ありでは61.1%となっており、移住経験ありの有業者の割合が若干高い。ただし、統計的に有意な違いは認められなかった。

表 3 社会関係と就業有無

(単位：%)			
	有業者	無業者	合計 (名)
0人	23.5(8)	76.5(26)	100.0 (34)
0～10人	22.6(14)	77.4(48)	100.0 (62)
10人以上	50.0(35)	50.0(35)	100.0 (70)

表 4 移住経験と社会関係

(単位：%)				
	0人	0～10人	10人以上	合計 (名)
移住経験なし	21.3(20)	40.4(38)	38.3(36)	100.0 (94)
移住経験あり	19.4(14)	33.3(24)	47.2(34)	100.0 (72)

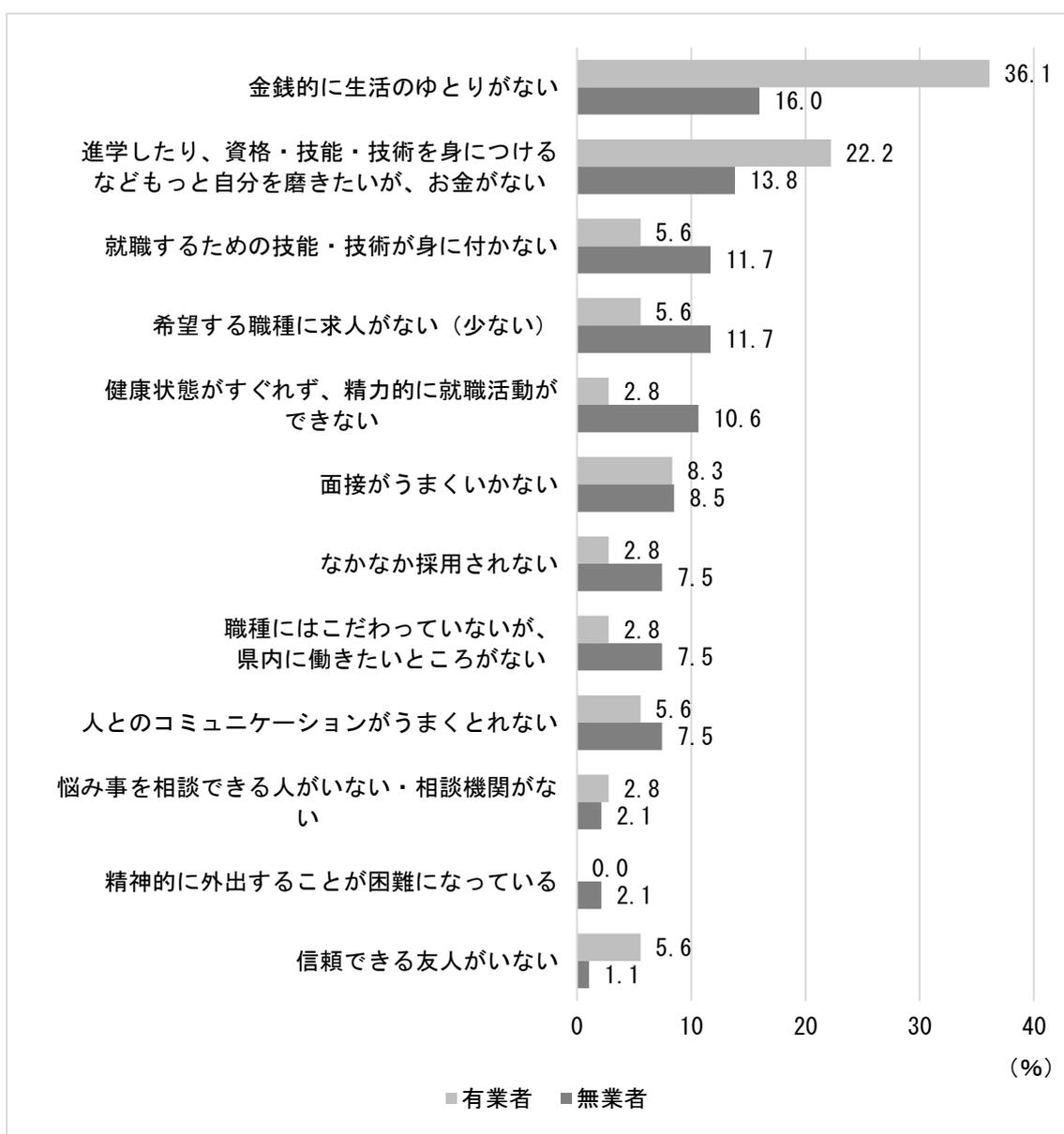
次に社会関係と仕事について見てみよう。表 3 は、学校や仕事、インターネット、町や遊び場、祭りや青年団、ボランティア活動など様々な機会を知り合い、今でもつきあいがある人を合計して数値化したものである。0 人は付き合いがある人が全くいないことを指し、34 名が社会的関係を全く持っていないことがわかる。付き合いのある人が 10 人以上いると答えた豊かな社会関係を持っている人は、70 名で全体の 42.2%であった。玄田 (2007) の結果と同じく、豊かな社会関係を持っている人に有業者比率が高く (50.0%)、社会関係に乏しい人に無業者割合が高い (76.5%)。

以上の結果から、第三者との付き合いが、自尊心やコミュニケーション能力を高め、仕事に有利な働きをすることが今回の調査でも明らかになった。また、表 4 から、移動経験は、第三者とのつながりを広げ、表 3 の結果と合わせると、若者の自立に役に立っていることがわかった。そのような経験を持っていない人に対する支援の場として、緩い人間関係を築くことのできるサードプレイス (第三の居場所) を設ける必要性を強く感じる。

#### 4. 支援のニーズと相談相手

ここでは、支援のニーズと相談相手について見てみよう。図1は、日常生活や就職活動に関して、悩んだり困ったりしていることを整理したものである。職の有無に関わらず金銭的な余裕のなさが最も多い悩みだった。次に、無業者においては、就職活動関連の技能・技術が身に付かないことや健康状態がすぐれず、精力的に就職活動ができないことを悩んでいる割合が高いことがわかる。また、コミュニケーションがうまくとれないことや面接がうまくいかないことを悩んでいる若者も多い。

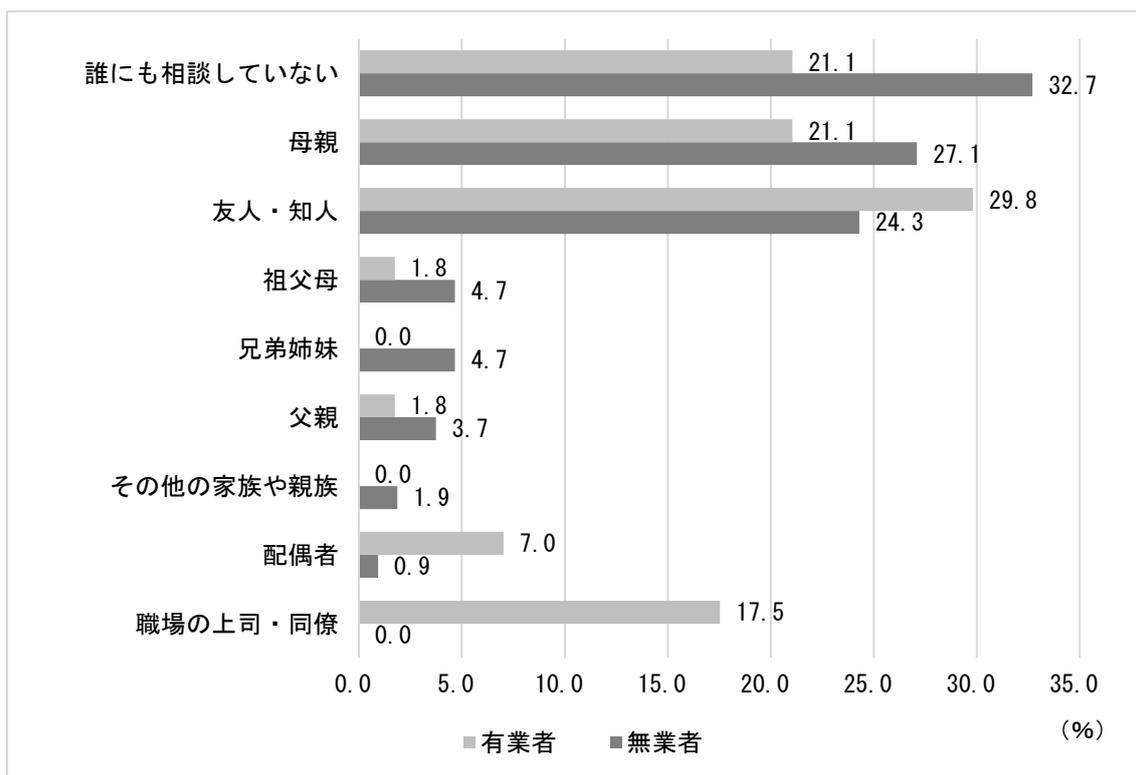
図1 就業有無別悩んだり困っていること



### Ⅲ. 講評・考察

次に、図 2 は、相談相手について整理したものである。有業者と無業者の間には大きな差があることがわかる。無業者にとって相談相手として最も多かったのは母親であった。その他、家族や親せきを合わせると 43.0%が身内に頼っている傾向がわかった。他方、有業者の場合は、友人や知人 29.8%、職場の上司や同僚 17.5%と第三の人間関係に頼っていることがわかる。また、無業者の 32.7%と有業者の 21.1%が誰にも相談していないと回答しており、多くの若者が日常の悩みと孤独に戦っている様子がうかがえる。

図 2 就業有無別相談相手



次に図 3 は、現在利用している相談機関を就業有無別に整理したものである。公的相談機関としては、有業者無業者共に、地域若者サポートステーションやジョブカフェの利用者が多いことがわかる。また図 4 は、そのような支援機関をどのように知ったかについて整理したものである。「インターネットや SNS などの情報」が 45.7%で最も高く、その次が両親 35.1%となっている。続いて、学校 9.6%、民生委員などの紹介 4.3%となっている。困難を抱えている若者たちや家族が、孤独に戦っていることがここからも分かる。

図3 就業有無別利用する相談機関

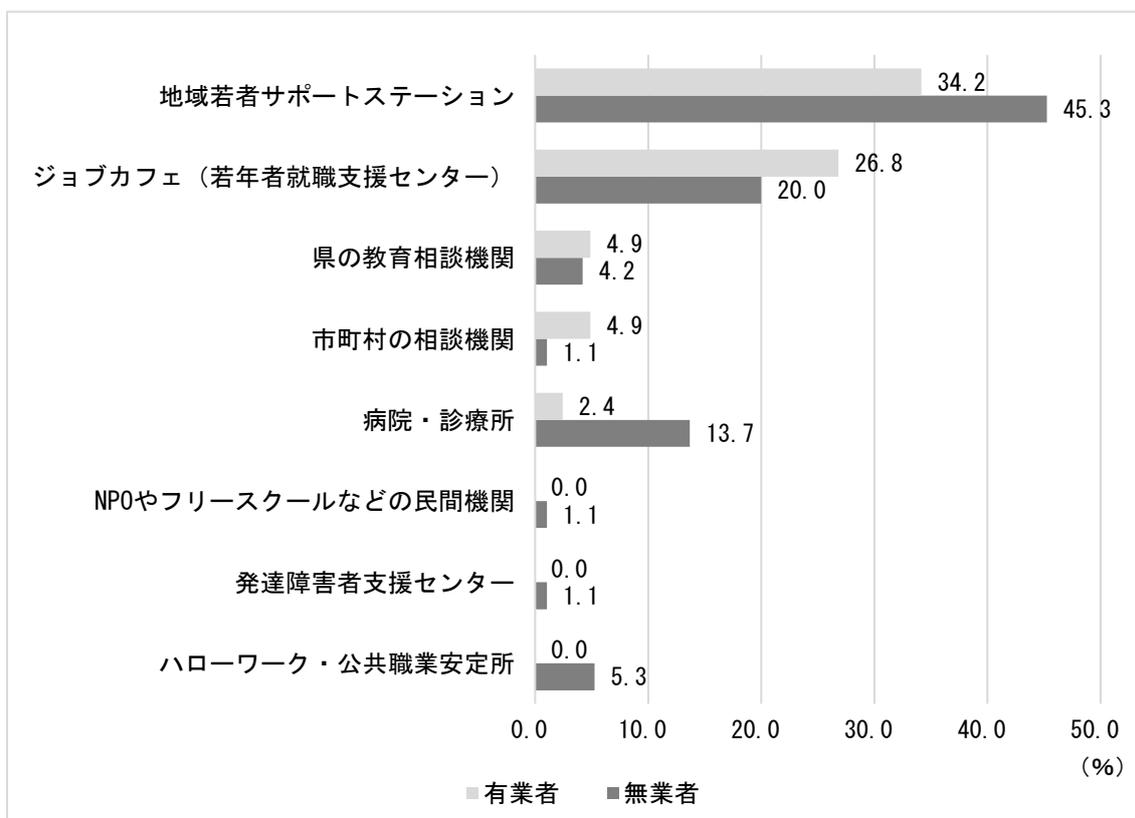


図4 相談機関に関する情報提供者

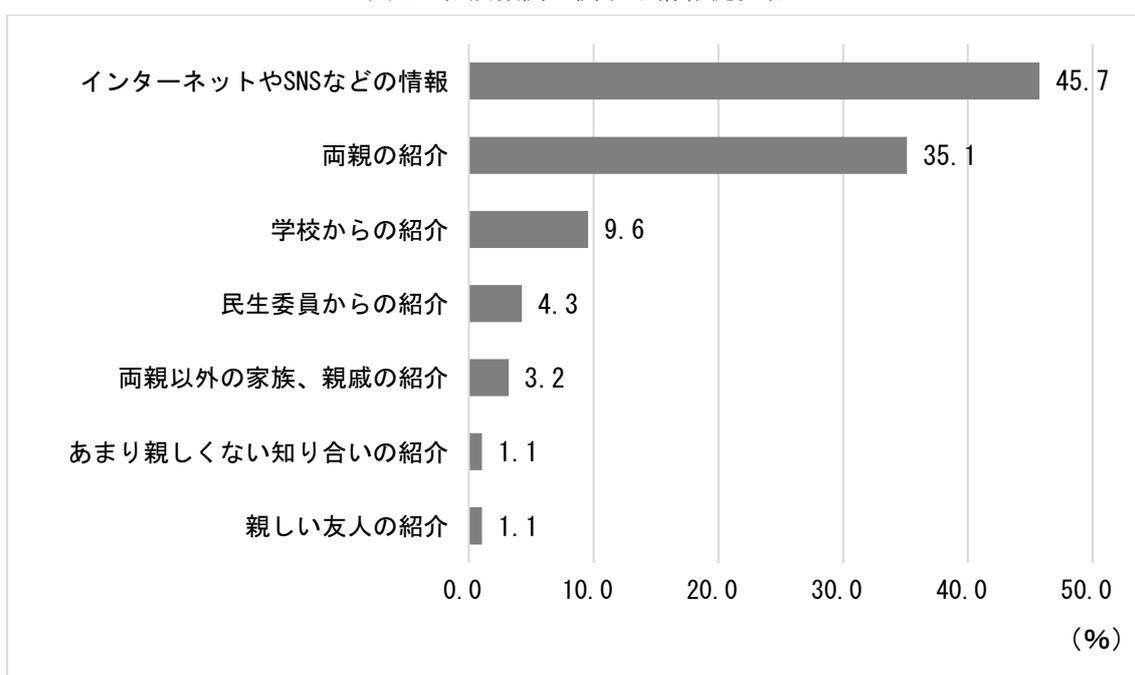


図5 就業有無別重要なキーワード

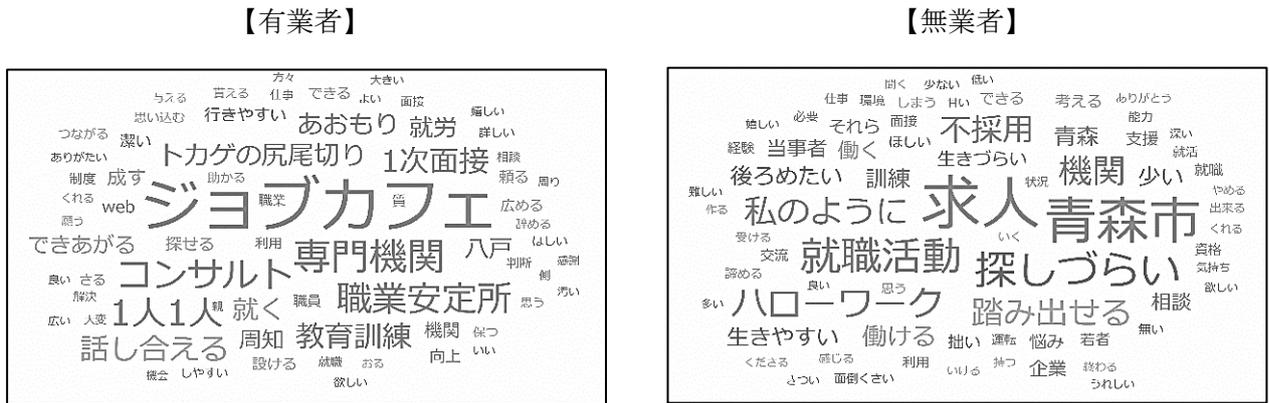


図5は、テキストマイニングという手法で、職業有無別に自由記述欄に多くあげられていた言葉を抽出したもので、文字が大きいほど、多く出現した言葉である。有業者には、ジョブカフェや職業安定所を経由して職にたどり着いたことへの感謝の言葉が多く見られた。また、面接や話し合いの大切さなども多く見られている。他方、無業者には求人の少なさや就職活動の辛さ、不採用が続いていることへの苦悩などが多く見られた。また、ジョブカフェが青森市にあり、本人の居住地からではアクセスが困難であることの悩みが多く見受けられた。このことから、インターネットを利用したリモート相談などを用いて、県内どこからでも専門的な相談が受けられるような体制づくりが求められる。

## 5. おわりに

本調査の結果をみて、相反する二つの言葉が頭に浮かんだ。一つは希望で、もう一つは孤独であった。希望は、相談機関の利用者を対象に行った調査にも関わらず、3割以上の利用者が現在職に就いており、また、現在無業者であっても、ほとんどの若者が働く意欲を持っていることである。このことは、適切な支援があれば若者は希望を実現することが出来るという大きな光である。他方、孤独は、課題を抱えている若者たちが、一人であるいは家族のみで今の状況と戦っているという実態である。気軽に相談できる相手がなく、孤立している若者が2割以上あった。このような若者が交流できる地域社会の中のサードプレイスをどのように築くかが大きな課題である。また、家族が孤立しないような近隣同士の声かけなどの重要性を改めて感じた。

### 【参考文献】

- 玄田有史 (2007) 「期待と信頼がなければ希望は生まれない」 ベルシステム 24 総合研究所編 『交感する科学』 ベルシステム。
- 玄田有史 (2009) 「データが語る日本の希望 可能性、関係性、物語性」 東大社研・玄田有史・宇野重規 (2009) 『希望学1 希望を語る 社会科学の新たな地平へ』 東京大学出版会



## 「若者自立支援のための実態把握調査」 調査票

このたびは、調査にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この調査は、今後の若者支援のあり方を検討するため、皆様が日頃、どのようなことを考え、どのように過ごしているかをお伺いするもので、県内の15歳から39歳までの方をお願いしています。

皆様のご意見は、調査対象者が特定されないよう集計いたします。また、調査結果につきましては、報告書にまとめ、公表することとしておりますが、回答内容や個人情報が入り目以外に使用されたり、外部に漏れることはありません。

以下の〈回答の方法〉をご確認のうえ、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

### 〈回答の方法〉

1. 質問はぜんぶで24問あります。現在の状況を記入してください。
2. 回答は、調査票の当てはまる番号を○で囲んでください。また、設問によっては、数字や、具体的な内容を文章で記入していただくところもあります。
3. 回答は、なるべく下記URL又は右の2次元バーコードから入る「青森県電子申請・届出システム」から入力してくださいようお願いいたします。インターネットの接続環境がない場合は、この調査票に記入し、添付の返信用封筒に入れ、封をしてポストに入れてください。
4. この調査は、「株式会社I・M・S」への委託により実施しています。
5. この調査でご不明の点がございましたら、下記にお問い合わせください。



### OPC用直接リンク URL

[https://s-kantan.jp/pref-aomori-u/offer/offerList\\_detail.action?tempSeq=5695](https://s-kantan.jp/pref-aomori-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=5695)

… 担 当 …

青森県環境生活部青少年・男女共同参画課青少年グループ

「若者自立支援のための実態把握調査」担当

TEL 017-734-9226

E-mail seishonen@pref.aomori.lg.jp

問1 あなたの性別をお答えください。

57.5%	1	男	42.5%	2	女	00.0%	3	その他
-------	---	---	-------	---	---	-------	---	-----

問2 あなたの年齢をお答えください。

5.4%	1	15歳～19歳	32.9%	2	20歳～24歳	33.5%	3	25歳～29歳
13.2%	4	30歳～34歳	15.0%	5	35歳～39歳			

問3 あなたが住んでいる市町村名を（ ）内に記述してください。

( ) 市 ・ 町 ・ 村

問4 現在あなたと同居しているご家族、すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

53.6%	1	父親	75.0%	2	母親	32.1%	3	兄弟姉妹
7.7%	4	祖父	20.8%	5	祖母	8.3%	6	配偶者
5.4%	7	ご自身のお子さん	3.6%	8	その他(具体的に: )			
7.1%	9	同居家族はいない(単身世帯)						

問5 あなたが最後に卒業(中退)した学校はどこですか。

6.6%	1	中学卒	24.0%	2	高校(全日制)卒
1.8%	3	高校(全日制)中退	6.0%	4	高校(定時制)卒
0.0%	5	高校(定時制)中退	19.2%	6	短大・専修学校卒
4.8%	7	短大・専修学校中退	28.7%	8	大学・大学院卒
9.0%	9	大学・大学院中退			

問6 その学校はどこにありますか。

57.2%	1	県内で、特に地元	17.5%	2	地元ではないが県内
4.8%	3	宮城・仙台	7.8%	4	東京圏
12.7%	5	その他の場所			

問7 現在、あなたの生計を支えているのはどなたですか。生計を支えている方が複数いる場合は、もっとも多く負担している人をお答えください。(○はひとつだけ)

17.3%	1	あなた自身	68.5%	2	父母
6.0%	3	配偶者	1.2%	4	兄弟姉妹
3.0%	5	他の家族や親戚	0.0%	6	その他(具体的に: )
4.2%	7	生活保護を受けている			

問8 あなたはいま、仕事に就いていますか。

12.0%	1	正社員・正職員として働いている
6.6%	2	契約社員・派遣社員として働いている
15.6%	3	パート・アルバイトとして働いている
65.9%	4	いいえ

問11にお進みください

問9 問8で「2 契約社員・派遣社員として働いている」「3 パート・アルバイトとして働いている」または「4 いいえ」と回答した方にお聞きします。

あなたは、今後の自分の進路についてどのように考えていますか。(○はひとつだけ)

55.6%	1	正社員・正職員として働きたい
8.1%	2	契約社員・派遣社員として働きたい
22.2%	3	パート・アルバイトとして働きたい
0.7%	4	自分で会社などをおこしたい
9.6%	5	進学したり資格をとったり技能・技術を身に付けたり、もっと自分を磨いてから働きたい
2.2%	6	その他(具体的に: )
1.5%	7	働きたくない

問11にお進みください

問10 問9で「7 働きたくない」と回答した方にお聞きします。

その理由を教えてください。(○はいくつでも)

0.0%	1	健康上の理由があるから
100%	2	なかなか仕事が決まらず、もう就職活動をしたくないから
100%	3	将来、やりたいことが見つからないから
100%	4	何もしたくないから
50.0%	5	もっと遊びたいから
0.0%	6	家族や親族からの援助があり働かなくても生活していけるから
0.0%	7	生活保護を受けており働かなくても生活していけるから
50.0%	8	働かなければならない理由が見つからないから
0.0%	9	その他(具体的に: )

問 1 1 いま、あなたが日常生活や就職活動に関して、悩んだり困っていることはありますか。また、それはどんなことですか。(〇はいくつでも)

- 32.1% 1 人とのコミュニケーションがうまくとれない
- 10.1% 2 精神的に外出することが困難になっている
- 19.0% 3 信頼できる友人がいない
- 18.5% 4 悩み事を相談できる人がいない・相談機関がない
- 30.4% 5 希望する職種に求人がない(少ない)
- 13.1% 6 職種にはこだわっていないが、県内に働きたいところがない
- 15.5% 7 なかなか採用されない
- 11.9% 8 面接がうまくいかない
- 16.1% 9 健康状態がすぐれず、精力的に就職活動ができない
- 14.3% 10 就職するための技能・技術が身に付かない
- 26.2% 11 金銭的に生活にゆとりがない
- 12.5% 12 進学したり、資格・技能・技術を身に付けるなどもっと自分を磨きたいが、お金がない
- 3.6% 13 その他(具体的に： )
- 17.9% 14 特にない

問 1 2 あなたは普段、どのくらい外出しますか。また、家族以外の人との交流はありますか。(〇はひとつだけ)

- 24.2% 1 ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある
- 26.1% 2 週に3～4日外出し、家族以外の人との交流もある
- 6.1% 3 ほとんど毎日外出するが、家族以外の人との交流はほとんどない
- 16.4% 4 週に3～4日外出するが、家族以外の人との交流はほとんどない
- 22.4% 5 週に1～2日しか外出しない
- 4.2% 6 自室からは出るが、家からは外出しない
- 0.6% 7 自室からほとんど出ない

問 16  
にお進  
みくだ  
さい

問 1 3 問 1 2で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。現在の状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

( ) 歳

問 1 4 問 1 2で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。現在の状態となってどのくらい経ちますか。(〇はひとつだけ)

- 12.2% 1 6ヶ月未満
- 25.6% 3 1年～3年
- 11.0% 5 5年～7年
- 12.2% 2 6ヶ月～1年
- 9.8% 4 3年～5年
- 22.0% 6 7年以上

問15 問12で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。  
現在の状態になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

13.4%	1	小・中・高校時代の不登校	11.0%	2	小・中・高校時代のいじめ
3.7%	3	大学になじめなかった	0.0%	4	受験に失敗した
19.5%	5	就職活動がうまくいかなかった	15.9%	6	職場になじめなかった
4.9%	7	父親との関係がうまくいかなかった	6.1%	8	母親との関係がうまくいかなかった
2.4%	9	父母以外の家族との関係がうまくいかなかった			
11.0%	10	友人との関係がうまくいかなかった	22.0%	11	働いたり外出したりする気力がない
19.5%	12	世の中に絶望した	9.8%	13	病気をした(している)
6.1%	14	障害がある	1.2%	15	妊娠した
26.8%	16	その他(具体的に: )			

問16 次のような学校や機会でも知り合った、今でも会ったりSNS等で連絡を取り合うなど付き合いがある人はそれぞれ何人くらいいますか。  
(1~10のそれぞれに〇を一つずつ)

	いない	1人	2~5人	6~10人	11人以上
1 小学校時代やそれ以前に知り合った人	53.4%	21.7%	20.5%	1.9%	2.5%
2 中学校時代に知り合った人	52.1%	14.1%	27.6%	3.1%	3.1%
3 高校時代に知り合った人	44.1%	10.6%	32.3%	8.7%	4.3%
4 大学・短大・専門学校で知り合った人	61.1%	6.4%	21.7%	5.1%	5.7%
5 今の仕事やアルバイトで知り合った人	68.6%	6.4%	14.1%	4.5%	6.4%
6 前の仕事やアルバイトで知り合った人	66.3%	10.6%	17.5%	2.5%	3.1%
7 インターネットやメールで知り合った人	67.3%	3.1%	15.1%	6.9%	7.5%
8 町や遊び場で知り合った人	86.7%	1.3%	8.2%	1.3%	2.5%
9 祭りや青年団など地域の活動で知り合った人	91.9%	2.5%	2.5%	0.6%	2.5%
10 ボランティア活動で知り合った人	91.2%	3.1%	3.1%	1.9%	0.6%

問 17 あなたは、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、誰かに相談していますか。  
(○はいくつでも)

17.3%	1	父親	50.6%	2	母親
8.3%	3	配偶者	10.7%	4	兄弟姉妹
7.1%	5	祖父母に相談している	3.6%	6	1～5以外の家族や親戚
29.8%	7	友人・知人	6.5%	8	職場の上司・同僚
28.0%	9	誰にも相談していない			

問 18 問 17で「9 誰にも相談していない」と回答した方にお聞きします。  
その理由はなぜですか。(○はいくつでも)

48.9%	1	相談しても解決できないと思うから
29.8%	2	家族などに心配をかけたくないから
27.7%	3	自分の悩みを人に知られたくないから
17.0%	4	相談したことを人に知られたくないから
29.8%	5	何を聞かれるか不安だから
40.4%	6	悩みを相手にうまく話せないと思うから
42.6%	7	相談機関に相談しているから
10.6%	8	身近な人より、インターネット上の知り合いや掲示板で相談の方が気楽だから
12.8%	9	その他(具体的に: )
8.5%	10	特に悩みがないから

問 19 あなたはこれまで、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、どのような相談機関に相談したことがありますか。(○はいくつでも)

5.4%	1	県の教育相談機関	8.9%	2	大学や短大の就職・キャリア支援センター
50.6%	3	ハローワーク・公共職業安定所	42.3%	4	ジョブカフェ(若年者就職支援センター)
42.3%	5	地域若者サポートステーション	1.2%	6	児童相談所・保健所・福祉事務所
2.4%	7	ひきこもり地域支援センター	2.4%	8	精神保健福祉センター
4.8%	9	発達障害者支援センター	5.4%	10	市町村の相談機関
17.9%	11	病院・診療所	1.2%	12	NPOやフリースクールなどの民間機関
3.6%	13	その他の相談機関(具体的に: )			
14.9%	14	相談したことはない			

問 22 にお進みください

問 2 0 あなたは現在、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、相談機関に相談していますか。  
(○はいくつでも)

4.2%	1	県の教育相談機関	0.0%	2	大学や短大の就職・キャリア支援センター
37.1%	3	ハローワーク・公共職業安定所	33.6%	4	ジョブカフェ（若年者就職支援センター）
49.0%	5	地域若者サポートステーション	0.7%	6	児童相談所・保健所・福祉事務所
0.7%	7	ひきこもり地域支援センター	0.0%	8	精神保健福祉センター
2.1%	9	発達障害者支援センター	3.5%	10	市町村の相談機関
13.3%	11	病院・診療所	0.7%	12	NPOやフリースクールなどの民間機関
2.1%	13	その他の相談機関（具体的に：			）
11.2%	14	相談していない			

問 22  
にお進  
みくだ  
さい

問 2 1 相談機関のことはどのように知りましたか。

(○はいくつでも)

25.9%	1	両親の紹介	2.8%	2	両親以外の家族、親戚の紹介
2.1%	3	親しい友人の紹介	1.4%	4	あまり親しくない知り合いの紹介
9.8%	5	学校からの紹介	2.8%	6	民生委員などの紹介
30.8%	7	インターネットやSNSなどの情報			
24.5%	8	その他（具体的に：			）

→ 問 2 3にお進みください

問 2 2 問 1 9で「14 相談したことはない」、または問 2 0で「14 相談していない」と回答した方にお聞きします。その理由はなぜですか。(○はいくつでも)

7.3%	1	相談機関に相談して、たらい回しされた経験があるから（されそうだから）			
14.6%	2	相談機関に相談したが、解決しなかった経験があるから			
9.8%	3	相談機関があることを知らなかったから			
19.5%	4	どこの相談機関に相談したらよいかわからないから			
12.2%	5	相談機関に相談して、既に解決したから			
12.2%	6	相談機関より、家族や親戚の方が信頼できるから			
12.2%	7	相談機関より、友人・知人の方が信頼できるから			
4.9%	8	相談機関より、職場の上司・同僚の方が信頼できるから			
0.0%	9	相談機関より、インターネット上の知り合いや掲示板で相談する方が気楽だから			
19.5%	10	相談しても解決できないと思うから	2.4%	11	自分の悩みを人に知られたくないから
4.9%	12	相談したことを人に知られたくないから	4.9%	13	何を聞かれるか不安だから
19.5%	14	悩みを相手にうまく話せないと思うから	2.4%	15	お金がかかるから
0.0%	16	相談機関が近くにないから			
7.3%	17	その他（具体的に：			）
36.6%	18	特に悩みがないから			

問23 皆様が日常生活や就職活動に関する悩みなどを相談したり、支援を受けるにあたって、今後、どのような機能があったらよいと思いますか。(〇はいくつでも)

- |       |    |                                    |   |
|-------|----|------------------------------------|---|
| 40.5% | 1  | 一つの窓口で相談すると様々な相談窓口への道筋をつけてくれる      |   |
| 47.0% | 2  | 悩みが解決するまで継続的に相談に乗ってくれるシステムが整っている   |   |
| 51.8% | 3  | 親身になって相談に乗ってくれる                    |   |
| 14.9% | 4  | 医学的な助言をくれる                         |   |
| 27.4% | 5  | 心理学の専門家が相談に乗ってくれる                  |   |
| 23.2% | 6  | 精神科医が相談に乗ってくれる                     |   |
| 13.7% | 7  | 24時間、いつでも相談に乗ってくれる                 |   |
| 28.6% | 8  | 匿名で(自分の名前を知られずに)相談できる              |   |
| 28.0% | 9  | インターネットやメールを活用して(相談機関に行くことなく)相談できる |   |
| 47.6% | 10 | 無料で相談できる                           |   |
| 19.0% | 11 | 同じ悩みを持つ人と出会い、交流できる「団体」や「会」         |   |
| 6.0%  | 12 | NPOやフリースクールなどの民間相談機関               |   |
| 1.2%  | 13 | 自宅に専門家が来てくれる                       |   |
| 29.8% | 14 | 自宅から近い場所に相談機関がある                   |   |
| 4.2%  | 15 | その他(具体的に:                          | ) |

問24 最後に、あなたが日常生活や就職活動に関して、感じていることや、若者を支援する相談機関などに対する意見や要望などについて、自由にお書きください。

… ご協力ありがとうございました …



## 「若者自立支援のための実態把握調査」 調 査 票

このたびは、調査にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この調査は、今後の子ども・若者支援のあり方を検討するため、県内の15歳から39歳までの子ども・若者（以下、「ご本人」とします。）の保護者・親族等の皆様（以下、「あなた」とします。）に、ご本人が日頃、どのようなことを考え、どのように過ごしているかをお伺いするものです。

皆様のご意見は、調査対象者が特定されないよう集計いたします。また、調査結果につきましては、報告書にまとめ、公表することとしておりますが、回答内容や個人情報が上記目的以外に使用されたり、外部に漏れることはありません。

以下の〈回答の方法〉をご確認のうえ、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

### 〈回答の方法〉

2. 質問はぜんぶで25問あります。現在の状況を記入してください。
2. 回答は、調査票の当てはまる番号を○で囲んでください。また、設問によっては、数字や、具体的な内容を文章で記入していただくところもあります。
3. 回答は、なるべく下記URL又は右の2次元バーコードから入る「青森県電子申請・届出システム」から入力してくださいようお願いいたします。インターネットの接続環境がない場合は、この調査票に記入し、添付の返信用封筒に入れ、封をしてポストに入れてください。
4. この調査は、「株式会社I・M・S」への委託により実施しています。
5. この調査でご不明の点がございましたら、下記にお問い合わせください。



### OPC用直接リンク URL

[https://s-kantan.jp/pref-aomori-u/offer/offerList\\_detail.action?tempSeq=5720](https://s-kantan.jp/pref-aomori-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=5720)

… 担 当 …

青森県環境生活部青少年・男女共同参画課青少年グループ

「若者自立支援のための実態把握調査」担当

TEL 017-734-9226

E-mail seishonen@pref.aomori.lg.jp





問10 問9で「2 契約社員・派遣社員として働いている」「3 パート・アルバイトとして働いている」または「4 いいえ」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」は、今後の自分の進路についてどのように考えていると思われますか。

(○はひとつだけ)

問12にお進みください

16.4%	1	わからない
43.3%	2	正社員・正職員として働きたい
0.0%	3	契約社員・派遣社員として働きたい
13.4%	4	パート・アルバイトとして働きたい
0.0%	5	自分で会社などをおこしたい
14.9%	6	進学したり資格をとったり技能・技術を身に付けたり、もっと自分を磨いてから働きたい
1.5%	7	その他（具体的に： )
4.5%	8	働きたくない

問11 問10で「8 働きたくない」と回答した方にお聞きします。  
その理由はなぜだと思われますか。(○はいくつでも)

66.7%	1	わからない
0.0%	2	健康上の理由があるから
33.3%	3	なかなか仕事が決まらず、もう就職活動をしたくないから
33.3%	4	将来、やりたいことが見つからないから
33.3%	5	何もしたくないから
0.0%	6	もっと遊びたいから
0.0%	7	家族や親族からの援助があり働かなくても生活していけるから
0.0%	8	生活保護を受けており働かなくても生活していけるから
33.3%	9	働かなければならない理由が見つからないから
0.0%	10	その他（具体的に： )

問12 いま、「ご本人」が日常生活や就職活動に関して、悩んだり困っていることはありますか。  
また、それはどんなことですか。(○はいくつでも)

35.2%	1	人とのコミュニケーションがうまくとれない
7.7%	2	精神的に外出することが困難になっている
20.9%	3	信頼できる友人がいない
15.4%	4	悩み事を相談できる人がいない・相談機関がない
15.4%	5	希望する職種に求人がない（少ない）
6.6%	6	職種にはこだわっていないが、県内に働きたいところがない
13.2%	7	なかなか採用されない
5.5%	8	面接がうまくいかない
15.4%	9	健康状態がすぐれず、精力的に就職活動ができない
5.5%	10	就職するための技能・技術が身に付かない
20.9%	11	金銭的に生活にゆとりがない
8.8%	12	進学したり、資格・技能・技術を身に付けるなどもっと自分を磨きたいが、お金がない
4.4%	13	その他（具体的に： )
20.9%	14	特にない
12.1%	15	わからない

問13 「ご本人」は普段、どのくらい外出しますか。また、家族以外の人との交流はありますか。(〇はひとつだけ)

問17  
にお進  
みくだ  
さい

- |       |   |                               |
|-------|---|-------------------------------|
| 45.1% | 1 | ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある       |
| 22.0% | 2 | 週に3～4日外出し、家族以外の人との交流もある       |
| 5.5%  | 3 | ほとんど毎日外出するが、家族以外の人との交流はほとんどない |
| 8.8%  | 4 | 週に3～4日外出するが、家族以外の人との交流はほとんどない |
| 14.3% | 5 | 週に1～2日しか外出しない                 |
| 2.2%  | 6 | 自室からは出るが、家からは外出しない            |
| 1.1%  | 7 | 自室からほとんど出ない                   |

問14 問13で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。  
現在の状態になったのは、「ご本人」が何歳の頃ですか。(数字で具体的に)

( ) 歳

問15 問13で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。  
「ご本人」が現在の状態となってどのくらい経ちますか。(〇はひとつだけ)

- |       |   |       |       |   |        |
|-------|---|-------|-------|---|--------|
| 6.9%  | 1 | 6ヶ月未満 | 10.3% | 2 | 6ヶ月～1年 |
| 34.5% | 3 | 1年～3年 | 6.9%  | 4 | 3年～5年  |
| 13.8% | 5 | 5年～7年 | 24.1% | 6 | 7年以上   |

問16 問13で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。  
「ご本人」が現在の状態になったきっかけは何ですか。(〇はいくつでも)

- |       |    |                       |       |    |                  |
|-------|----|-----------------------|-------|----|------------------|
| 17.2% | 1  | 小・中・高校時代の不登校          | 13.8% | 2  | 小・中・高校時代のいじめ     |
| 17.2% | 3  | 大学になじめなかった            | 0.0%  | 4  | 受験に失敗した          |
| 20.7% | 5  | 就職活動がうまくいかなかった        | 20.7% | 6  | 職場になじめなかった       |
| 10.3% | 7  | 父親との関係がうまくいかなかった      | 3.4%  | 8  | 母親との関係がうまくいかなかった |
| 0.0%  | 9  | 父母以外の家族との関係がうまくいかなかった |       |    |                  |
| 20.7% | 10 | 友人との関係がうまくいかなかった      | 6.9%  | 11 | 働いたり外出したりする気力がない |
| 10.3% | 12 | 世の中に絶望した              | 6.9%  | 13 | 病気をした(している)      |
| 24.1% | 14 | 障害がある                 | 0.0%  | 15 | 妊娠した             |
| 10.3% | 16 | その他(具体的に: )           |       |    |                  |
| 17.2% | 17 | わからない                 |       |    |                  |

問 17 「ご本人」は、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、誰かに相談していますか。  
(○はいくつでも)

問 19  
にお進  
みくだ  
さい

23.1%	1 父親	61.5%	2 母親
3.3%	3 配偶者	11.0%	4 兄弟姉妹
3.3%	5 祖父母	4.4%	6 1～5以外の家族や親戚
27.5%	7 友人・知人	5.5%	8 職場の上司・同僚
13.2%	9 わからない		
12.1%	10 誰にも相談していない		

問 18 問 17で「10 誰にも相談していない」と回答した方にお聞きします。  
その理由はなぜだと思われますか。(○はいくつでも)

54.5%	1 相談しても解決しないと思っているから	36.4%	2 家族などに心配をかけたくないから
27.3%	3 自分の悩みを人に知られたくないから	9.1%	4 相談したことを人に知られたくないから
36.4%	5 何を聞かれるか不安だから	54.5%	6 悩みを相手にうまく話せないと思うから
36.4%	7 相談機関に相談しているから		
0.0%	8 身近な人より、インターネット上の知り合いや掲示板で相談する方が気楽だから		
0.0%	9 その他（具体的に： _____）		
9.1%	10 特に悩みがないから		
27.3%	11 わからない		

問 19 「ご本人」は、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、相談機関に相談していますか。  
(○はいくつでも)

1.1%	1 県の教育相談機関	0.0%	2 大学や短大の就職・キャリア支援センター
19.8%	3 ハローワーク・公共職業安定所	25.3%	4 ジョブカフェ（若年者就職支援センター）
28.6%	5 地域若者サポートステーション	2.2%	6 児童相談所・保健所・福祉事務所
1.1%	7 ひきこもり地域支援センター	0.0%	8 精神保健福祉センター
2.2%	9 発達障害者支援センター	3.3%	10 市町村の相談機関
13.2%	11 病院・診療所	0.0%	12 NPOやフリースクールなどの民間機関
0.0%	13 その他の相談機関（具体的に： _____）		
12.1%	14 わからない		
34.1%	15 相談していない		

問20 「あなた」はこれまで、どのような相談機関に相談したことがありますか。

(〇はいくつでも)

6.6%	1	県の教育相談機関	2.2%	2	大学や短大の就職・キャリア支援センター
23.1%	3	ハローワーク・公共職業安定所	11.0%	4	ジョブカフェ（若年者就職支援センター）
18.7%	5	地域若者サポートステーション	6.6%	6	児童相談所・保健所・福祉事務所
4.4%	7	ひきこもり地域支援センター	4.4%	8	精神保健福祉センター
3.3%	9	発達障害者支援センター	13.2%	10	市町村の相談機関
22.0%	11	病院・診療所	1.1%	12	NPOやフリースクールなどの民間機関
7.7%	13	その他の相談機関（具体的に：_____）			
31.9%	14	相談したことはない			

問22にお進みください

問21 「あなた」は問19や問20の相談機関のことはどのように知りましたか。

(〇はいくつでも)

14.5%	1	家族、親戚の紹介	6.5%	2	親しい友人の紹介
1.6%	3	あまり親しくない知り合いの紹介	9.7%	4	学校からの紹介
1.6%	5	民生委員などの紹介	30.6%	6	インターネットやSNSなどの情報
40.3%	7	その他（具体的に：_____）			

問22 問19で「15 相談していない」、または問20で「14 相談したことはない」と回答した方にお聞きします。その理由はなぜですか。(〇はいくつでも)

0.0%	1	相談機関に相談して、たらい回しされた経験があるから（されそうだから）
1.7%	2	相談機関に相談したが、解決しなかった経験があるから
0.0%	3	相談機関があることを知らなかったから
5.0%	4	どこの相談機関に相談したらよいかわからないから
0.0%	5	相談機関に相談して、既に解決したから
1.7%	6	相談機関より、家族や親戚の方が信頼できるから
0.0%	7	相談機関より、友人・知人の方が信頼できるから
1.7%	8	相談機関より、職場の上司・同僚の方が信頼できるから
0.0%	9	相談機関より、インターネット上の知り合いや掲示板で相談する方が気楽だから
5.0%	10	相談しても解決できないと思うから
1.7%	11	自分の悩みを人に知られたくないから
0.0%	12	相談したことを人に知られたくないから
1.7%	13	何を聞かれるか不安だから
0.0%	14	悩みを相手にうまく話せないと思うから
1.7%	15	お金がかかるから
3.3%	16	相談機関が近くにないから
1.7%	17	その他（具体的に：_____）
21.7%	18	特に悩みがないから

問23 「ご本人」もしくは「あなた」が、「ご本人」の日常生活や就職活動に関する悩みなどを相談したり、支援を受けるにあたって、今後、どのような機能があったらよいと思いますか。  
(〇はいくつでも)

60.4%	1	一つの窓口で相談すると様々な相談窓口への道筋をつけてくれる	
54.9%	2	悩みが解決するまで継続的に相談に乗ってくれるシステムが整っている	
49.5%	3	親身になって相談に乗ってくれる	17.6%
31.9%	5	心理学の専門家が相談に乗ってくれる	23.1%
9.9%	7	24時間、いつでも相談に乗ってくれる	4
16.5%	8	匿名で(自分の名前を知られずに)相談できる	6
29.7%	9	インターネットやメールを活用して(相談機関に行くことなく)相談できる	精神科医が相談に乗ってくれる
42.9%	10	無料で相談できる	
17.6%	11	同じ悩みを持つ人と出会え、交流できる「団体」や「会」	
9.9%	12	NPOやフリースクールなどの民間相談機関	
4.4%	13	自宅に専門家が来てくれる	27.5%
3.3%	15	その他(具体的に:	14
			自宅から近い場所に相談機関がある)

問24 「あなた」個人の収入も含めて、同居している家族全体では、どのくらいの年収がありますか。税引き前の額でお答えください(手取り額ではありません)。

6.6%	1	収入はない	3.3%	2	100万円未満
4.4%	3	100～200万円未満	18.7%	4	200～300万円未満
19.8%	5	300～400万円未満	15.4%	6	400～600万円未満
14.3%	7	600～800万円未満	7.7%	8	800～1000万円未満
6.6%	9	1000万円以上			

問25 最後に、「あなた」が「ご本人」の日常生活や就職活動に関して、感じていることや、若者を支援する相談機関などに対する意見や要望などについて、自由にお書きください。

… ご協力ありがとうございました …



## 「若者自立支援のための実態把握調査」 調査票

このたびは、調査にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この調査は、今後の若者支援のあり方を検討するため、皆様が日頃、どのようなことを考え、どのように過ごしているかをお伺いするもので、県内の15歳から39歳までの方をお願いしています。

皆様のご意見は、調査対象者が特定されないよう集計いたします。また、調査結果につきましては、報告書にまとめ、公表することとしておりますが、回答内容や個人情報が上記目的以外に使用されたり、外部に漏れることはありません。

以下の〈回答の方法〉をご確認のうえ、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

### 〈回答の方法〉

- 質問はぜんぶで23問あります。現在の状況を記入してください。
- 回答は、調査票の当てはまる番号を○で囲んでください。また、設問によっては、数字や、具体的な内容を文章で記入していただくところもあります。
- 回答は、なるべく下記URL又は右の2次元バーコードから入る「青森県電子申請・届出システム」から入力してくださいようお願いいたします。インターネットの接続環境がない場合は、この調査票に記入し、添付の返信用封筒に入れ、封をしてポストに入れてください。
- この調査は、「株式会社I・M・S」への委託により実施しています。
- この調査でご不明の点がございましたら、下記にお問い合わせください。



### OPC用直接リンク URL

[https://s-kantan.jp/pref-aomori-u/offer/offerList\\_detail.action?tempSeq=5719](https://s-kantan.jp/pref-aomori-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=5719)

… 担 当 …

青森県環境生活部青少年・男女共同参画課青少年グループ

「若者自立支援のための実態把握調査」担当

TEL 017-734-9226

E-mail seishonen@pref.aomori.lg.jp

問1 あなたの性別をお答えください。

77.8% 1 男                      22.2% 2 女                      0.0% 3 その他

問2 あなたの年齢をお答えください。

100% 1 15歳～19歳              0.0% 2 20歳～24歳              0.0% 3 25歳～29歳  
0.0% 4 30歳～34歳              0.0% 5 35歳～39歳

問3 あなたが住んでいる市町村名を（ ）内に記述してください。

（                      ）市 ・ 町 ・ 村

問4 現在あなたと同居しているご家族、すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

55.6% 1 父親                      77.8% 2 母親                      55.6% 3 兄弟姉妹  
0.0% 4 祖父                      0.0% 5 祖母                      0.0% 6 配偶者  
0.0% 7 ご自身のお子さん              22.2% 8 その他（具体的に：              ）  
11.1% 9 同居家族はいない（単身世帯）

問5-1 あなたが最後に卒業（中退）した学校はどこですか。

0.0% 1 中学卒                      0.0% 2 高校（全日制）卒  
88.9% 3 高校（全日制）中退              0.0% 4 高校（定時制）卒  
11.1% 5 高校（定時制）中退              0.0% 6 短大・専修学校卒  
0.0% 7 短大・専修学校中退              0.0% 8 大学・大学院卒  
0.0% 9 大学・大学院中退

問5-2 その学校はどこにありますか。

77.8% 1 県内で、特に地元              22.2% 2 地元ではないが県内  
00.0% 3 宮城・仙台                      00.0% 4 東京圏  
00.0% 5 その他の場所

問5-3 問5-1で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

①中退したときの学年 及び ②中退した学科 を教えてください。

① 中退時  年生

② 中退した学科 55.6% 1 普通科 0.0% 2 農業科 11.1% 3 工業科 0.0% 4 商業科  
11.1% 5 総合学科 11.1% 6 その他（具体的に： \_\_\_\_\_）

問5-4 問5-1で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

あなたが中退した理由はなぜですか。（〇はいくつでも）

- |       |    |                          |       |    |                  |
|-------|----|--------------------------|-------|----|------------------|
| 0.0%  | 1  | 勉強がわからなかったから             | 11.1% | 2  | 校則や校風があわなかったから   |
| 0.0%  | 3  | 仲のよい友達が辞めてしまったから         | 0.0%  | 4  | 問題行動を起こしたから      |
| 11.1% | 5  | 第一希望の高校ではなかったから          | 33.3% | 6  | 人間関係がうまくいかなかったから |
| 0.0%  | 7  | 親に辞めさせられたから              | 0.0%  | 8  | 経済的な余裕がなかったから    |
| 22.2% | 9  | 健康上の理由から                 | 0.0%  | 10 | 妊娠したから           |
| 0.0%  | 11 | 高校生活以外に興味があることができたから     |       |    |                  |
| 22.2% | 12 | 欠席や欠時がたまって進級できそうにもなかったから |       |    |                  |
| 0.0%  | 13 | 早く経済的に自立したかったから          |       |    |                  |
| 0.0%  | 14 | 早く家を出たかったから              |       |    |                  |
| 44.4% | 15 | その他（具体的に： _____）         |       |    |                  |

問5-5 問5-1で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

あなたが中退をすることについて誰に相談しましたか。（〇はいくつでも）

- |       |    |                         |       |   |            |       |   |            |
|-------|----|-------------------------|-------|---|------------|-------|---|------------|
| 100%  | 1  | 親                       | 11.1% | 2 | 兄弟姉妹       | 33.3% | 3 | 中退をした学校の先生 |
| 0.0%  | 4  | 小中学校の先生                 | 33.3% | 5 | 中退をした学校の友人 | 33.3% | 6 | 5以外の友人     |
| 0.0%  | 7  | 先輩                      | 0.0%  | 8 | 中退経験のある人   |       |   |            |
| 0.0%  | 9  | 地域若者サポートステーションなど相談機関の職員 |       |   |            |       |   |            |
| 11.1% | 10 | インターネットで交流のある人          |       |   |            |       |   |            |
| 0.0%  | 11 | その他（具体的に： _____）        |       |   |            |       |   |            |

問5-6 問5-1で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

あなたが中退するにあたって、また中退後に、今後の自分の進路を考えたり、日常生活を行っていくうえで、どのような情報を知っていたらよかったですか。

（○はひとつだけ）

- |       |    |                               |
|-------|----|-------------------------------|
| 22.2% | 1  | 今後の進路について悩んだ時に相談する方法          |
| 0.0%  | 2  | 他の高校に転入学する方法                  |
| 0.0%  | 3  | 学力向上について悩んだ時に相談する方法           |
| 22.2% | 4  | 高等学校卒業程度認定試験（高卒認定試験）を受ける方法    |
| 0.0%  | 5  | 仕事で困った時に相談する方法                |
| 0.0%  | 6  | 生活で困った時に相談する方法                |
| 22.2% | 7  | 精神的に不安定になった時に相談する方法           |
| 0.0%  | 8  | 職業に必要な技能を得るときに、職業訓練を受ける方法     |
| 0.0%  | 9  | 雇用保険（失業による生活不安に対して、現金を給付する制度） |
| 0.0%  | 10 | 奨学金・高校授業料無償などの進学支援制度          |
| 0.0%  | 11 | その他（具体的に： _____）              |
| 33.3% | 12 | 特に必要ない                        |

問6 現在、あなたの生計を支えているのはどなたですか。生計を支えている方が複数いる場合は、もっとも多く負担している人をお答えください。（○はひとつだけ）

- |       |   |            |       |   |                  |
|-------|---|------------|-------|---|------------------|
| 11.1% | 1 | あなた自身      | 77.8% | 2 | 父母               |
| 0.0%  | 3 | 配偶者        | 0.0%  | 4 | 兄弟姉妹             |
| 11.1% | 5 | 他の家族や親戚    | 0.0%  | 6 | その他（具体的に： _____） |
| 0.0%  | 7 | 生活保護を受けている |       |   |                  |

問7 あなたはいま、仕事に就いていますか。

- |       |   |                   |
|-------|---|-------------------|
| 0.0%  | 1 | 正社員・正職員として働いている   |
| 0.0%  | 2 | 契約社員・派遣社員として働いている |
| 22.2% | 3 | パート・アルバイトとして働いている |
| 77.8% | 4 | いいえ               |

問10にお進みください

問8 問7で「2 契約社員・派遣社員として働いている」「3 パート・アルバイトとして働いている」または「4 いいえ」と回答した方にお聞きします。

あなたは、今後の自分の進路についてどのように考えていますか。（○はひとつだけ）

- |       |  |
|-------|--|
| 22.2% | 1 正社員・正職員として働きたい                           |
| 0.0%  | 2 契約社員・派遣社員として働きたい                         |
| 11.1% | 3 パート・アルバイトとして働きたい                         |
| 11.1% | 4 自分で会社などをおこしたい                            |
| 44.4% | 5 進学したり資格をとったり技能・技術を身に付けたり、もっと自分を磨いてから働きたい |
| 11.1% | 6 その他（具体的に： _____）                         |
| 0.0%  | 7 働きたくない                                   |

問10にお進みください

問9 問8で「7 働きたくない」と回答した方にお聞きします。

その理由を教えてください。（○はいくつでも）

- |      |                                |
|------|--------------------------------|
| 0.0% | 1 健康上の理由があるから                  |
| 0.0% | 2 なかなか仕事が決まらず、もう就職活動をしたくないから   |
| 0.0% | 3 将来、やりたいことが見つからないから           |
| 0.0% | 4 何もしたくないから                    |
| 0.0% | 5 もっと遊びたいから                    |
| 0.0% | 6 家族や親族からの援助があり働かなくても生活していけるから |
| 0.0% | 7 生活保護を受けており働かなくても生活していけるから    |
| 0.0% | 8 働かなければならない理由が見つからないから        |
| 0.0% | 9 その他（具体的に： _____）             |

問10 いま、あなたが日常生活や就職活動に関して、悩んだり困っていることはありますか。また、それはどんなことですか。（○はいくつでも）

- |       |  |
|-------|--|
| 44.4% | 1 人とのコミュニケーションがうまくとれない                     |
| 22.2% | 2 精神的に外出することが困難になっている                      |
| 11.1% | 3 信頼できる友人がいない                              |
| 0.0%  | 4 悩み事を相談できる人がいない・相談機関がない                   |
| 11.1% | 5 希望する職種に求人がない（少ない）                        |
| 11.1% | 6 職種にはこだわっていないが、県内に働きたいところがない              |
| 0.0%  | 7 なかなか採用されない                               |
| 0.0%  | 8 面接がうまくいかない                               |
| 0.0%  | 9 健康状態がすぐれず、精力的に就職活動ができない                  |
| 0.0%  | 10 就職するための技能・技術が身に付かない                     |
| 0.0%  | 11 金銭的に生活にゆとりがない                           |
| 22.2% | 12 進学したり、資格・技能・技術を身に付けるなどもっと自分を磨きたいが、お金がない |
| 11.1% | 13 その他（具体的に： _____）                        |
| 22.2% | 14 特にない                                    |

問 1 1 あなたは普段、どのくらい外出しますか。また、家族以外の人との交流はありますか。  
（○はひとつだけ）

問 15  
にお進  
みくだ  
さい

22.2%	1	ほとんど毎日外出し、家族以外の人との交流もある
0.0%	2	週に3～4日外出し、家族以外の人との交流もある
0.0%	3	ほとんど毎日外出するが、家族以外の人との交流はほとんどない
11.1%	4	週に3～4日外出するが、家族以外の人との交流はほとんどない
44.4%	5	週に1～2日しか外出しない
22.2%	6	自室からは出るが、家からは外出しない
0.0%	7	自室からほとんど出ない

問 1 2 問 1 1 で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。  
現在の状態になったのは、あなたが何歳の頃ですか。（数字で具体的に）

( ) 歳

問 1 3 問 1 1 で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。  
現在の状態となってどのくらい経ちますか。（○はひとつだけ）

28.6%	1	6ヶ月未満	28.6%	2	6ヶ月～1年
42.9%	3	1年～3年	00.0%	4	3年～5年
00.0%	5	5年～7年	00.0%	6	7年以上

問 1 4 問 1 1 で「3」「4」「5」「6」「7」と回答した方にお聞きします。  
現在の状態になったきっかけは何ですか。（○はいくつでも）

42.9%	1	小・中・高校時代の不登校	0.0%	2	小・中・高校時代のいじめ
0.0%	3	大学になじめなかった	0.0%	4	受験に失敗した
0.0%	5	就職活動がうまくいかなかった	0.0%	6	職場になじめなかった
0.0%	7	父親との関係がうまくいかなかった	0.0%	8	母親との関係がうまくいかなかった
0.0%	9	父母以外の家族との関係がうまくいかなかった			
28.6%	10	友人との関係がうまくいかなかった	14.3%	11	働いたり外出したりする気力がない
0.0%	12	世の中に絶望した	14.3%	13	病気をした（している）
0.0%	14	障害がある	0.0%	15	妊娠した
57.1%	16	その他（具体的に： )			

問 1 5 次のような学校や機会でも知り合った、今でも会ったりSNS等で連絡を取り合うなど付き合いがある人はそれぞれ何人くらいいますか。

（1～10のそれぞれに○を一つずつ）

	いない	1人	2～5人	6～10人	11人以上
1 小学校時代やそれ以前に知り合った人	11.1%	11.1%	44.4%	11.1%	22.2%
2 中学校時代に知り合った人	22.2%	11.1%	22.2%	22.2%	22.2%
3 高校時代に知り合った人	55.6%	0.0%	33.3%	0.0%	11.1%
4 大学・短大・専門学校で知り合った人	100%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
5 今の仕事やアルバイトで知り合った人	100%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
6 前の仕事やアルバイトで知り合った人	100%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%
7 インターネットやメールで知り合った人	33.3%	0.0%	33.3%	0.0%	33.3%
8 町や遊び場で知り合った人	83.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%
9 祭りや青年団など地域の活動で知り合った人	83.3%	0.0%	16.7%	0.0%	0.0%
10 ボランティア活動で知り合った人	100%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%

問 1 6 あなたは、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、誰かに相談していますか。

（○はいくつでも）

33.3%	1	父親	55.6%	2	母親
0.0%	3	配偶者	11.1%	4	兄弟姉妹
11.1%	5	祖父母に相談している	0.0%	6	1～5以外の家族や親戚
44.4%	7	友人・知人	0.0%	8	職場の上司・同僚
11.1%	9	誰にも相談していない			

問17 問16で「9 誰にも相談していない」と回答した方にお聞きします。  
その理由はなぜですか。（〇はいくつでも）

- |      |    |                                      |      |   |                    |
|------|----|--------------------------------------|------|---|--------------------|
| 100% | 1  | 相談しても解決できないと思うから                     | 0.0% | 2 | 家族などに心配をかけたくないから   |
| 0.0% | 3  | 自分の悩みを人に知られたくないから                    | 0.0% | 4 | 相談したことを人に知られたくないから |
| 0.0% | 5  | 何を聞かれるか不安だから                         | 0.0% | 6 | 悩みを相手にうまく話せないと思うから |
| 0.0% | 7  | 相談機関に相談しているから                        |      |   |                    |
| 0.0% | 8  | 身近な人より、インターネット上の知り合いや掲示板で相談する方が気楽だから |      |   |                    |
| 0.0% | 9  | その他（具体的に： _____）                     |      |   |                    |
| 0.0% | 10 | 特に悩みがないから                            |      |   |                    |

問18 あなたはこれまで、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、どのような相談機関に相談したことがありますか。（〇はいくつでも）

- |       |    |                       |       |    |                     |
|-------|----|-----------------------|-------|----|---------------------|
| 00.0% | 1  | 県の教育相談機関              | 00.0% | 2  | 大学や短大の就職・キャリア支援センター |
| 11.1% | 3  | ハローワーク・公共職業安定所        | 00.0% | 4  | ジョブカフェ（若年者就職支援センター） |
| 00.0% | 5  | 地域若者サポートステーション        | 00.0% | 6  | 児童相談所・保健所・福祉事務所     |
| 00.0% | 7  | ひきこもり地域支援センター         | 00.0% | 8  | 精神保健福祉センター          |
| 00.0% | 9  | 発達障害者支援センター           | 00.0% | 10 | 市町村の相談機関            |
| 44.4% | 11 | 病院・診療所                | 00.0% | 12 | NPOやフリースクールなどの民間機関  |
| 00.0% | 13 | その他の相談機関（具体的に： _____） |       |    |                     |
| 33.3% | 14 | 相談したことはない             |       |    |                     |

問21にお進みください

問19 あなたは現在、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、相談機関に相談していますか。（〇はいくつでも）

- |       |    |                       |      |    |                     |
|-------|----|-----------------------|------|----|---------------------|
| 0.0%  | 1  | 県の教育相談機関              | 0.0% | 2  | 大学や短大の就職・キャリア支援センター |
| 16.7% | 3  | ハローワーク・公共職業安定所        | 0.0% | 4  | ジョブカフェ（若年者就職支援センター） |
| 0.0%  | 5  | 地域若者サポートステーション        | 0.0% | 6  | 児童相談所・保健所・福祉事務所     |
| 0.0%  | 7  | ひきこもり地域支援センター         | 0.0% | 8  | 精神保健福祉センター          |
| 0.0%  | 9  | 発達障害者支援センター           | 0.0% | 10 | 市町村の相談機関            |
| 16.7% | 11 | 病院・診療所                | 0.0% | 12 | NPOやフリースクールなどの民間機関  |
| 0.0%  | 13 | その他の相談機関（具体的に： _____） |      |    |                     |
| 50.0% | 14 | 相談していない               |      |    |                     |

問21にお進みください

問20 相談機関のことはどのように知りましたか。（〇はいくつでも）

- |       |   |                  |       |   |                 |
|-------|---|------------------|-------|---|-----------------|
| 33.3% | 1 | 両親の紹介            | 00.0% | 2 | 両親以外の家族、親戚の紹介   |
| 00.0% | 3 | 親しい友人の紹介         | 00.0% | 4 | あまり親しくない知り合いの紹介 |
| 33.3% | 5 | 学校からの紹介          | 00.0% | 6 | 民生委員などの紹介       |
| 00.0% | 7 | インターネットやSNSなどの情報 |       |   |                 |
| 33.3% | 8 | その他（具体的に： _____） |       |   |                 |

→ 問22にお進みください

問 2 1 問 1 8 で「14 相談したことはない」、または問 1 9 で「14 相談していない」と回答した方にお聞きします。その理由はなぜですか。（〇はいくつでも）

0.0%	1	相談機関に相談して、たらい回しされた経験があるから（されそうだから）
16.7%	2	相談機関に相談したが、解決しなかった経験があるから
0.0%	3	相談機関があることを知らなかったから
33.3%	4	どこの相談機関に相談したらよいかわからないから
16.7%	5	相談機関に相談して、既に解決したから
16.7%	6	相談機関より、家族や親戚の方が信頼できるから
0.0%	7	相談機関より、友人・知人の方が信頼できるから
0.0%	8	相談機関より、職場の上司・同僚の方が信頼できるから
0.0%	9	相談機関より、インターネット上の知り合いや掲示板で相談する方が気楽だから
0.0%	10	相談しても解決できないと思うから
0.0%	11	自分の悩みを人に知られたくないから
0.0%	12	相談したことを人に知られたくないから
0.0%	13	何を聞かれるか不安だから
33.3%	14	悩みを相手にうまく話せないと思うから
0.0%	15	お金がかかるから
0.0%	16	相談機関が近くにないから
0.0%	17	その他（具体的に： )
16.7%	18	特に悩みがないから

問 2 2 皆様が日常生活や就職活動に関する悩みなどを相談したり、支援を受けるにあたって、今後、どのような機能があったらよいと思いますか。（〇はいくつでも）

0.0%	1	一つの窓口で相談すると様々な相談窓口への道筋をつけてくれる
22.2%	2	悩みが解決するまで継続的に相談に乗ってくれるシステムが整っている
22.2%	3	親身になって相談に乗ってくれる
0.0%	4	医学的な助言をくれる
0.0%	5	心理学の専門家が相談に乗ってくれる
11.1%	6	精神科医が相談に乗ってくれる
11.1%	7	24時間、いつでも相談に乗ってくれる
33.3%	8	匿名で（自分の名前を知られずに）相談できる
22.2%	9	インターネットやメールを活用して（相談機関に行くことなく）相談できる
44.4%	10	無料で相談できる
11.1%	11	同じ悩みを持つ人と出会え、交流できる「団体」や「会」
0.0%	12	NPOやフリースクールなどの民間相談機関
0.0%	13	自宅に専門家が来てくれる
11.1%	14	自宅から近い場所に相談機関がある
11.1%	15	その他（具体的に： )

問23 最後に、あなたが日常生活や就職活動に関して、感じていることや、若者を支援する相談機関などに対する意見や要望などについて、自由にお書きください。

… ご協力ありがとうございました …



## 「若者自立支援のための実態把握調査」

### 調 査 票

このたびは、調査にご協力をいただき、誠にありがとうございます。

この調査は、今後の子ども・若者支援のあり方を検討するため、県内の15歳から39歳までの子ども・若者（以下、「ご本人」とします。）の保護者・親族等の皆様（以下、「あなた」とします。）に、ご本人が日頃、どのようなことを考え、どのように過ごしているかをお伺いするものです。

皆様のご意見は、調査対象者が特定されないよう集計いたします。また、調査結果につきましては、報告書にまとめ、公表することとしておりますが、回答内容や個人情報が上記目的以外に使用されたり、外部に漏れることはありません。

以下の〈回答の方法〉をご確認のうえ、ご回答くださいますようお願い申し上げます。

#### 〈回答の方法〉

4. 質問はぜんぶで24問あります。現在の状況を記入してください。
2. 回答は、調査票の当てはまる番号を○で囲んでください。また、設問によっては、数字や、具体的な内容を文章で記入していただくところもあります。
3. 回答は、なるべく下記URL又は右の2次元バーコードから入る「青森県電子申請・届出システム」から入力してくださいようお願いいたします。インターネットの接続環境がない場合は、この調査票に記入し、添付の返信用封筒に入れ、封をしてポストに入れてください。
4. この調査は、「株式会社I・M・S」への委託により実施しています。
5. この調査でご不明の点がございましたら、下記にお問い合わせください。



#### OPC用直接リンク URL

[https://s-kantan.jp/pref-aomori-u/offer/offerList\\_detail.action?tempSeq=5722](https://s-kantan.jp/pref-aomori-u/offer/offerList_detail.action?tempSeq=5722)

… 担 当 …

青森県環境生活部青少年・男女共同参画課青少年グループ

「若者自立支援のための実態把握調査」担当

TEL 017-734-9226

E-mail seishonen@pref.aomori.lg.jp



## 問6-1 「ご本人」が最後に卒業（中退）した学校はどこですか。

10.0%	1	中学卒	0.0%	2	高校（全日制）卒
70.0%	3	高校（全日制）中退	0.0%	4	高校（定時制）卒
10.0%	5	高校（定時制）中退	10.0%	6	短大・専修学校卒
0.0%	7	短大・専修学校中退	0.0%	8	大学・大学院卒
0.0%	9	大学・大学院中退			

## 問6-2 その学校はどこにありますか。

70.0%	1	県内で、特に地元	30.0%	2	地元ではないが県内
0.0%	3	宮城・仙台	0.0%	4	東京圏
0.0%	5	その他の場所			

## 問6-3 問6-1で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」が ①中退したときの学年 及び ②中退した学科 を教えてください。

① 中退時  年生

② 中退した学科 62.5% 1 普通科 0.0% 2 農業科 0.0% 3 工業科 0.0% 4 商業科  
0.0% 5 総合学科 37.5% 6 その他（具体的に： )

## 問6-4 問6-1で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」が中退した理由はなぜですか。（〇はいくつでも）

0.0%	1	勉強がわからなかったから	12.5%	2	校則や校風があわなかったから
0.0%	3	仲のよい友達が辞めてしまったから	0.0%	4	問題行動を起こしたから
0.0%	5	第一希望の高校ではなかったから	12.5%	6	人間関係がうまくいかなかったから
0.0%	7	親に辞めさせられたから	0.0%	8	経済的な余裕がなかったから
50.0%	9	健康上の理由から	0.0%	10	妊娠したから
12.5%	11	高校生活以外に興味があることができたから			
75.0%	12	欠席や欠時がたまって進級できそうにもなかったから			
0.0%	13	早く経済的に自立したかったから			
0.0%	14	早く家を出たかったから			
50.0%	15	その他（具体的に： )			
0.0%	16	わからない			

問6-5 問6-1で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」は、中退をすることについて誰に相談していましたか。（〇はいくつでも）

75.0%	1	親	12.5%	2	兄弟姉妹	50.0%	3	中退をした学校の先生
0.0%	4	小中学校の先生	0.0%	5	中退をした学校の友人	25.0%	6	5以外の友人
0.0%	7	先輩	0.0%	8	中退経験のある人			
0.0%	9	地域若者サポートステーションなど相談機関の職員						
0.0%	10	インターネットで交流のある人						
12.5%	11	その他（具体的に： _____）						
0.0%	12	わからない						

問6-6 問6-1で「3」または「5」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」が中退するにあたって、また中退後に、今後の自分の進路を考えたり、日常生活を行っていくうえで、どのような情報を知っていたらよかったですか。（〇はひとつだけ）

50.0%	1	今後の進路について悩んだ時に相談する方法
12.5%	2	他の高校に転入学する方法
0.0%	3	学力向上について悩んだ時に相談する方法
25.0%	4	高等学校卒業程度認定試験（高卒認定試験）を受ける方法
0.0%	5	仕事で困った時に相談する方法
0.0%	6	生活で困った時に相談する方法
12.5%	7	精神的に不安定になった時に相談する方法
37.5%	8	職業に必要な技能を得るときに、職業訓練を受ける方法
0.0%	9	雇用保険（失業による生活不安に対して、現金を給付する制度）
0.0%	10	奨学金・高校授業料無償などの進学支援制度
0.0%	11	その他（具体的に： _____）
0.0%	12	特に必要ない

問7 現在、「ご本人」の生計を支えているのはどなたですか。生計を支えている方が複数いる場合は、もっとも多く負担している人をお答えください。（〇はひとつだけ）

10.0%	1	本人自身	70.0%	2	父母
10.0%	3	配偶者	0.0%	4	兄弟姉妹
0.0%	5	他の家族や親戚	10.0%	6	その他（具体的に： _____）
0.0%	7	生活保護を受けている			

問8 「ご本人」はいま、仕事に就いていますか。

0.0%	1	正社員・正職員として働いている	0.0%	2	契約社員・派遣社員として働いている
30.0%	3	パート・アルバイトとして働いている	70.0%	4	いいえ

問11にお進みください

問9 問8で「2 契約社員・派遣社員として働いている」「3 パート・アルバイトとして働いている」または「4 いいえ」と回答した方にお聞きします。

「ご本人」は、今後の自分の進路についてどのように考えていると思われますか。

（○はひとつだけ）

問11にお進みください

20.0%	1	わからない	0.0%	2	正社員・正職員として働きたい
0.0%	3	契約社員・派遣社員として働きたい	20.0%	4	パート・アルバイトとして働きたい
10.0%	5	自分で会社などをおこしたい			
40.0%	6	進学したり資格をとったり技能・技術を身に付けたり、もっと自分を磨いてから働きたい			
0.0%	7	その他（具体的に： _____）			
0.0%	8	働きたくない			

問10 問9で「8 働きたくない」と回答した方にお聞きします。

その理由はなぜだと思われますか。（○はいくつでも）

0.0%	1	わからない	0.0%	2	健康上の理由があるから
0.0%	3	なかなか仕事が決まらず、もう就職活動をしたくないから			
0.0%	4	将来、やりたいことが見つからないから			
0.0%	5	何もしたくないから	0.0%	6	もっと遊びたいから
0.0%	7	家族や親族からの援助があり働かなくても生活していけるから			
0.0%	8	生活保護を受けており働かなくても生活していけるから			
0.0%	9	働かなければならない理由が見つからないから			
0.0%	10	その他（具体的に： _____）			

問11 いま、「ご本人」が日常生活や就職活動に関して、悩んだり困っていることはありますか。

また、それはどんなことですか。（○はいくつでも）

44.4%	1	人とのコミュニケーションがうまくとれない
11.1%	2	精神的に外出することが困難になっている
22.2%	3	信頼できる友人がいない
33.3%	4	悩み事を相談できる人がいない・相談機関がない
11.1%	5	希望する職種に求人がない（少ない）
22.2%	6	職種にはこだわっていないが、県内に働きたいところがない
0.0%	7	なかなか採用されない
0.0%	8	面接がうまくいかない
11.1%	9	健康状態がすぐれず、精力的に就職活動ができない
11.1%	10	就職するための技能・技術が身に付かない
11.1%	11	金銭的に生活にゆとりがない
22.2%	12	進学したり、資格・技能・技術を身に付けるなどもっと自分を磨きたいが、お金がない
33.3%	13	その他（具体的に： _____）
0.0%	14	特にない
22.2%	15	わからない



問 16 「ご本人」は、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、誰かに相談していますか。

（○はいくつでも）

問 18  
にお進  
みくだ  
さい

10.0%	1 父親	70.0%	2 母親
10.0%	3 配偶者	10.0%	4 兄弟姉妹
0.0%	5 祖父母	20.0%	6 1～5以外の家族や親戚
40.0%	7 友人・知人	0.0%	8 職場の上司・同僚
10.0%	9 わからない		
20.0%	10 誰にも相談していない		

問 17 問 16で「10 誰にも相談していない」と回答した方にお聞きします。

その理由はなぜだと思われますか。（○はいくつでも）

0.0%	1 相談しても解決しないと思っているから
0.0%	2 家族などに心配をかけたくないから
0.0%	3 自分の悩みを人に知られたくないから
0.0%	4 相談したことを人に知られたくないから
0.0%	5 何を聞かれるか不安だから
50.0%	6 悩みを相手にうまく話せないと思うから
0.0%	7 相談機関に相談しているから
0.0%	8 身近な人より、インターネット上の知り合いや掲示板で相談の方が気楽だから
0.0%	9 その他（具体的に： _____）
0.0%	10 特に悩みがないから
50.0%	11 わからない

問 18 「ご本人」は、日常生活や就職活動に関する悩みなどを、相談機関に相談していますか。

（○はいくつでも）

10.0%	1 県の教育相談機関	0.0%	2 大学や短大の就職・キャリア支援センター
10.0%	3 ハローワーク・公共職業安定所	0.0%	4 ジョブカフェ（若年者就職支援センター）
0.0%	5 地域若者サポートステーション	0.0%	6 児童相談所・保健所・福祉事務所
0.0%	7 ひきこもり地域支援センター	0.0%	8 精神保健福祉センター
0.0%	9 発達障害者支援センター	0.0%	10 市町村の相談機関
10.0%	11 病院・診療所	0.0%	12 NPOやフリースクールなどの民間機関
10.0%	13 その他の相談機関（具体的に： _____）		
0.0%	14 わからない		
60.0%	15 相談していない		

問19 「あなた」はこれまで、どのような相談機関に相談したことがありますか。

（〇はいくつでも）

20.0%	1	県の教育相談機関	0.0%	2	大学や短大の就職・キャリア支援センター
10.0%	3	ハローワーク・公共職業安定所	0.0%	4	ジョブカフェ（若年者就職支援センター）
0.0%	5	地域若者サポートステーション	0.0%	6	児童相談所・保健所・福祉事務所
0.0%	7	ひきこもり地域支援センター	0.0%	8	精神保健福祉センター
0.0%	9	発達障害者支援センター	20.0%	10	市町村の相談機関
10.0%	11	病院・診療所	0.0%	12	NPOやフリースクールなどの民間機関
20.0%	13	その他の相談機関（具体的に：_____）			
50.0%	14	相談したことはない			

問21にお進みください

問20 「あなた」は問18や問19の相談機関のことはどのように知りましたか。

（〇はいくつでも）

12.5%	1	家族、親戚の紹介	0.0%	2	親しい友人の紹介
12.5%	3	あまり親しくない知り合いの紹介	25.0%	4	学校からの紹介
0.0%	5	民生委員などの紹介	25.0%	6	インターネットやSNSなどの情報
25.0%	7	その他（具体的に：_____）			

問21 問18で「15 相談していない」、または問19で「14 相談したことはない」と回答した方にお聞きします。その理由はなぜですか。（〇はいくつでも）

0.0%	1	相談機関に相談して、たらい回しされた経験があるから（されそうだから）
0.0%	2	相談機関に相談したが、解決しなかった経験があるから
0.0%	3	相談機関があることを知らなかったから
18.2%	4	どこの相談機関に相談したらよいかわからないから
0.0%	5	相談機関に相談して、既に解決したから
9.1%	6	相談機関より、家族や親戚の方が信頼できるから
9.1%	7	相談機関より、友人・知人の方が信頼できるから
0.0%	8	相談機関より、職場の上司・同僚の方が信頼できるから
0.0%	9	相談機関より、インターネット上の知り合いや掲示板で相談する方が気楽だから
18.2%	10	相談しても解決できないと思うから
0.0%	11	自分の悩みを人に知られたくないから
0.0%	12	相談したことを人に知られたくないから
0.0%	13	何を聞かれるか不安だから
0.0%	14	悩みを相手にうまく話せないと思うから
9.1%	15	お金がかかるから
0.0%	16	相談機関が近くにないから
27.3%	17	その他（具体的に：_____）
0.0%	18	特に悩みがないから

問 2 2 「ご本人」もしくは「あなた」が、「ご本人」の日常生活や就職活動に関する悩みなどを相談したり、支援を受けるにあたって、今後、どのような機能があったらよいと思いますか。  
(〇はいくつでも)

- |       |    |                                    |
|-------|----|------------------------------------|
| 30.0% | 1  | 一つの窓口で相談すると様々な相談窓口への道筋をつけてくれる      |
| 30.0% | 2  | 悩みが解決するまで継続的に相談に乗ってくれるシステムが整っている   |
| 20.0% | 3  | 親身になって相談に乗ってくれる                    |
| 20.0% | 4  | 医学的な助言をくれる                         |
| 40.0% | 5  | 心理学の専門家が相談に乗ってくれる                  |
| 30.0% | 6  | 精神科医が相談に乗ってくれる                     |
| 20.0% | 7  | 24時間、いつでも相談に乗ってくれる                 |
| 20.0% | 8  | 匿名で（自分の名前を知られずに）相談できる              |
| 30.0% | 9  | インターネットやメールを活用して（相談機関に行くことなく）相談できる |
| 30.0% | 10 | 無料で相談できる                           |
| 30.0% | 11 | 同じ悩みを持つ人と出会え、交流できる「団体」や「会」         |
| 0.0%  | 12 | NPOやフリースクールなどの民間相談機関               |
| 0.0%  | 13 | 自宅に専門家が来てくれる                       |
| 10.0% | 14 | 自宅から近い場所に相談機関がある                   |
| 30.0% | 15 | その他（具体的に： _____ )                  |

問 2 3 「あなた」個人の収入も含めて、同居している家族全体では、どのくらいの年収がありますか。税引き前の額でお答えください（手取り額ではありません）。

- |       |   |             |       |   |              |
|-------|---|-------------|-------|---|--------------|
| 0.0%  | 1 | 収入はない       | 0.0%  | 2 | 100万円未満      |
| 20.0% | 3 | 100～200万円未満 | 20.0% | 4 | 200～300万円未満  |
| 20.0% | 5 | 300～400万円未満 | 10.0% | 6 | 400～600万円未満  |
| 10.0% | 7 | 600～800万円未満 | 20.0% | 8 | 800～1000万円未満 |
| 0.0%  | 9 | 1000万円以上    |       |   |              |

問 2 4 最後に、「あなた」が「ご本人」の日常生活や就職活動に関して、感じていることや、若者を支援する相談機関などに対する意見や要望などについて、自由にお書きください。

… ご協力ありがとうございました …



令和3年度 若者自立支援のための実態把握調査  
報告書

発行 令和4年3月

青森県環境生活部 青少年・男女共同参画課  
〒030-8570 青森市長島一丁目1番1号

TEL 017-734-9226 FAX 017-734-8050

(編集)

株式会社 I・M・S

〒036-8182 青森県弘前市土手町134番地8

TEL 0172-32-5801